

**まんのう町総合計画策定のための  
住民アンケート調査結果報告書**

平成19年8月



## 目 次

I 調査の概要 .....	4
1 目的 .....	2
2 調査の方法 .....	2
3 調査の期間 .....	2
4 回収状況 .....	2
5 集計上の注意 .....	2
II 調査結果分析 .....	3
1 性別（問 1） .....	4
2 年齢（問 2） .....	4
3 居住地（問 3） .....	5
4 居住歴（問 4） .....	5
5 職業の産業分野（問 5） .....	6
6 主な就業地・生活地（問 6） .....	7
7 家族型（問 7） .....	7
8 まんのう町は住みよい町か（問 8） .....	8
9 まんのう町に愛着を感じているか（問 9） .....	9
10 定住意向（問 10） .....	10
11 親族の帰郷希望者の有無（問 11） .....	11
12 帰郷するために必要なこと（問 12） .....	11
13 生活環境の満足度（問 13） .....	12
14 生活環境の重要度（問 14） .....	14
15 建設計画の周知度（問 15） .....	17
16 まちづくりで有効活用するもの（問 16） .....	17
17 町の将来像（問 17） .....	19
18 今後 10 年間、誰を中心にまちづくりを進めるべきか（問 18） .....	21
19 今後のまんのう町のまちづくりの基本方針（問 19） .....	21
20 戦略プロジェクト（問 20） .....	22
21 産業活性化の取り組み（問 21） .....	25
22 若者の定住や子育てのために必要なこと（問 22） .....	27
23 大人になるための体験を始める時期（問 23） .....	30
24 子どもの教育で重要なこと（問 24） .....	30
25 社会教育や社会体育に望むこと（問 25） .....	33
26 自分の健康や体力について（問 26） .....	36
27 町に関する情報源（問 27） .....	37
28 パソコンによるインターネットの利用頻度（問 28） .....	38
29 携帯電話によるインターネットの利用頻度（問 29） .....	39
30 町から得たい情報の内容（問 30） .....	40
31 まちづくりの活動（問 31.32） .....	41

32 政策への意見の反映（問 33）	46
33 町政に対して感じていること（問 34）	48
34 自立したまちづくりを進める方法（問 35）	49
35 新たな合併について（問 36）	50
36 町の財政状況について（問 37）	51
37 行政改革・財政改革の課題（問 38）	51
<b>III　自由回答結果</b>	<b>53</b>

## I 調査の概要

## 1 目的

本調査は、「まんのう町総合計画（平成 20～29 年度）」の策定にあたり、本町に居住する住民が、町の現状をどのようにとらえ、将来どのような町になることを希望し、どのような暮らしを望んでいるか、具体的にどのようにまちづくりを進めていくべきかなどを把握するために実施したものです。

## 2 調査の方法

本町に在住している 18 歳以上の住民について、住民基本台帳から無作為抽出で対象者 1,500 人を選び、郵送による配付・回収により調査を実施しました。

## 3 調査の期間

平成 19(2007) 年 3 月 29 日～4 月 16 日

## 4 回収状況

回収状況は次表の通りです。

回収状況

	配 布 数	回 収 数	回 収 率	有 効 回 答 数	有 効 回 答 率
住 民	1,500 票	675 票	45.0%	674 票	44.9%

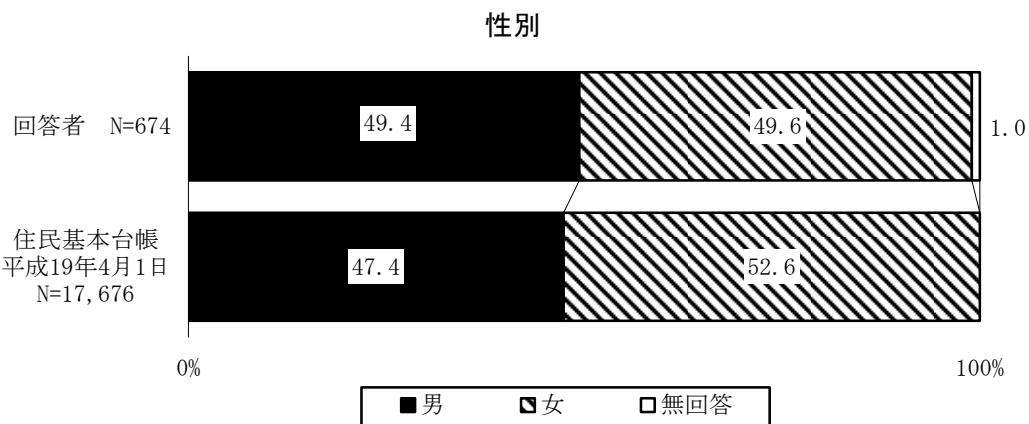
## 5 集計上の注意

- (1) 割合は、サンプル数に対する各選択肢の百分率 (%) で、小数点以下第 2 位を四捨五入し、少数点第 1 位までを表記しています。四捨五入の関係で、合計が 100% ぴったりにならない場合があります。
- (2) 一人の回答者が 2 つ以上の回答をすることができる設問は、各選択肢の割合の合計は 100.0% を超えています。
- (3) クロス集計表では、10 ポイント以上差がある場合に、該当数値を網掛け太字にしています。

## II 調查結果分析

## 1 性別（問1）

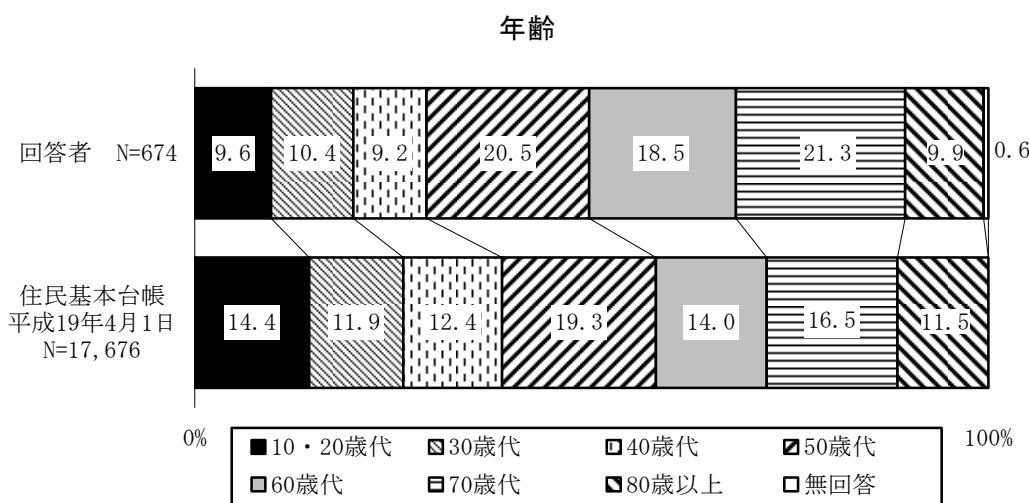
回答者の男女比は、「男」49.4%、「女」49.6%です。実際の住民の男女比と比較すると女性の比率がやや低くなっています。



## 2 年齢（問2）

回答者の年齢構成は、「10・20歳代」9.6%、「30歳代」10.4%、「40歳代」9.2%、「50歳代」20.5%、「60歳代」18.5%、「70歳代」21.3%、「80歳以上」9.9%です。

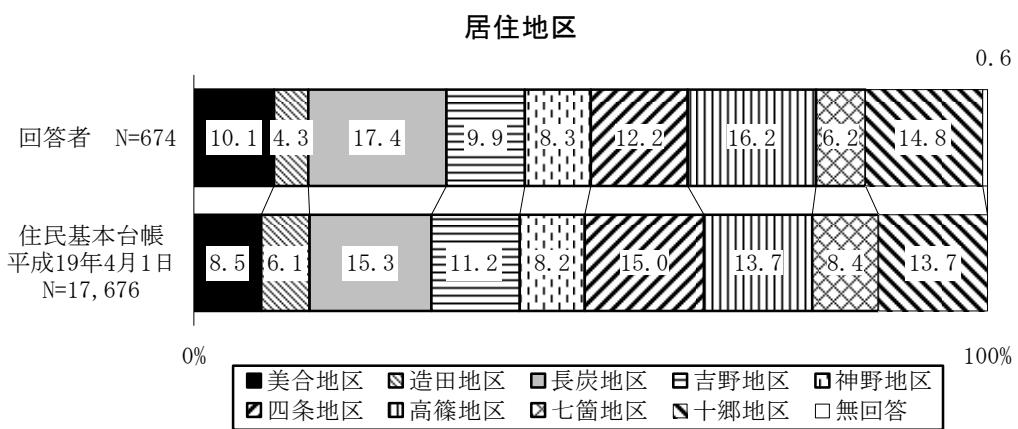
実際の住民の年齢構成と比較すると、「60歳代」「70歳代」が多く、「10・20歳代」「30歳代」「40歳代」が少なくなっています。



### 3 居住地（問3）

回答者の居住地構成は、「美合地区」10.1%、「造田地区」4.3%、「長炭地区」17.4%、「吉野地区」9.9%、「神野地区」8.3%、「四条地区」12.2%、「高篠地区」16.2%、「七箇地区」6.2%、「十郷地区」14.8%です。

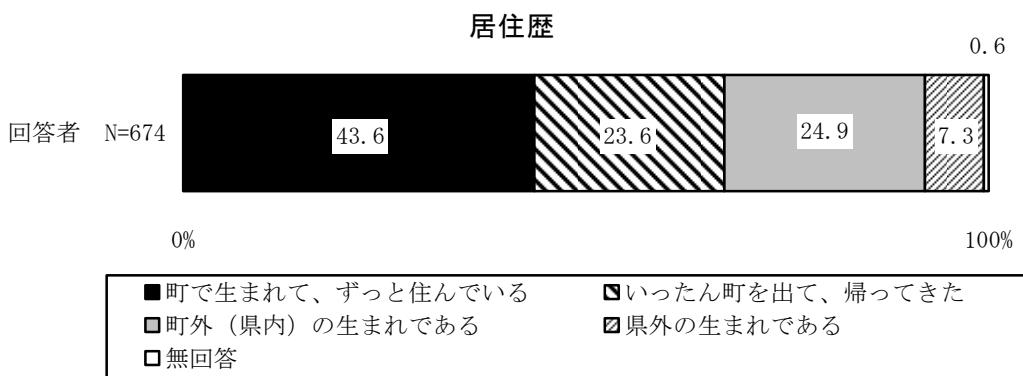
実際の住民の居住地構成と比較すると、「長炭地区」「高篠地区」が多く、「造田地区」「四条地区」「七箇地区」が少なくなっています。



### 4 居住歴（問4）

居住歴をみると、「町で生まれて、ずっと住んでいる」43.6%、「町外（県内）の生まれである」24.9%、「いったん町を出て、帰ってきた」23.6%、「県外の生まれである」7.3%です。

性別・年齢別にみると、「町で生まれて、ずっと住んでいる」は「70歳代」以上で、「いったん町を出て、帰ってきた」は「50歳代」で、「町外（県内）の生まれである」は「女性」、「40歳代」で高くなっています。



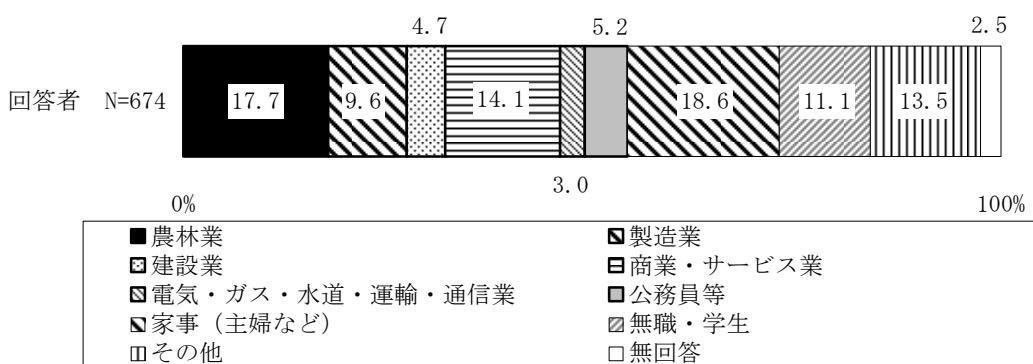
### 性別・年齢別にみた、居住歴

		合計	問4居住歴				
性別 ・ 年 齢	全 体		町で生ま れて、ずっと 住んでい る	いたん町を 出て、帰って きた	町外(県 内)の生ま れである	県外の生 まれであ る	無回答
	全体	674 100.0	294 43.6	159 23.6	168 24.9	49 7.3	4 0.6
性別 ・ 年 齢	男	333 100.0	169 50.8	94 28.2	48 14.4	20 6.0	2 0.6
	女	334 100.0	120 35.9	65 19.5	119 35.6	29 8.7	1 0.3
10・20歳代		65 100.0	27 41.6	19 29.2	13 20	6 9.2	0 0.0
30歳代		70 100.0	17 24.3	21 30.0	22 31.4	10 14.3	0 0.0
40歳代		62 100.0	18 29.0	13 21.0	27 43.5	4 6.5	0 0.0
50歳代		138 100.0	47 34.0	47 34.1	35 25.4	9 6.5	0 0.0
60歳代		125 100.0	54 43.2	34 27.2	27 21.6	9 7.2	1 0.8
70歳代		143 100.0	92 64.3	16 11.2	26 18.2	8 5.6	1 0.7
80歳以上		67 100.0	37 55.2	8 11.9	18 26.9	3 4.5	1 1.5

### 5 職業の産業分野（問5）

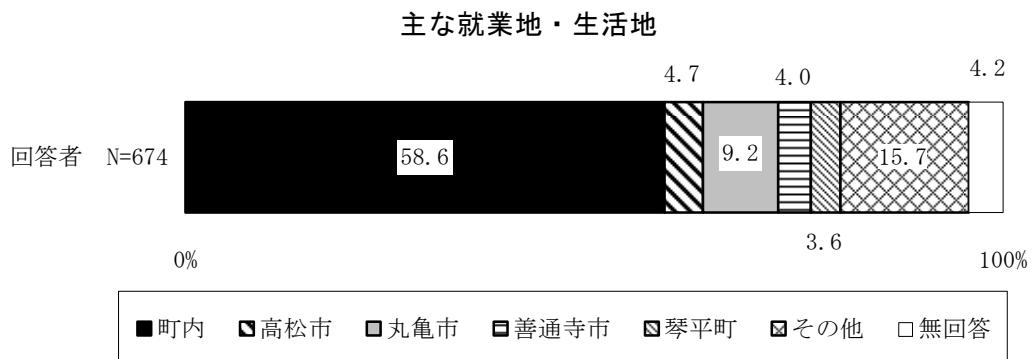
住民の仕事の産業分野をみると、「家事（主婦など）」18.6%、「農林業」17.7%、「商業・サービス業」14.1%、「無職・学生」11.1%、「製造業」9.6%、「公務員等」5.2%、「建設業」4.7%、「電気・ガス・水道・運輸・通信業」3.0%などです。

仕事の産業分野



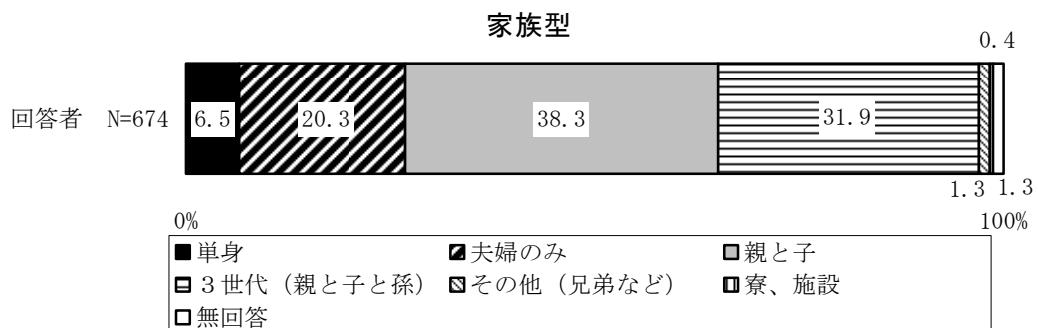
## 6 主な就業地・生活地（問6）

住民の主な就業地・生活地をみると、「町内」58.6%、「丸亀市」9.2%、「高松市」4.7%、「善通寺市」4.0%、「琴平町」3.6%です。



## 7 家族型（問7）

住民の家族型をみると、「親と子」38.3%、「夫婦のみ」20.3%を合わせた核家族は58.6%で、「3世代（親と子と孫）」31.9%、「単身」6.5%、「その他」2.5%、「寮、施設」0.4%です。

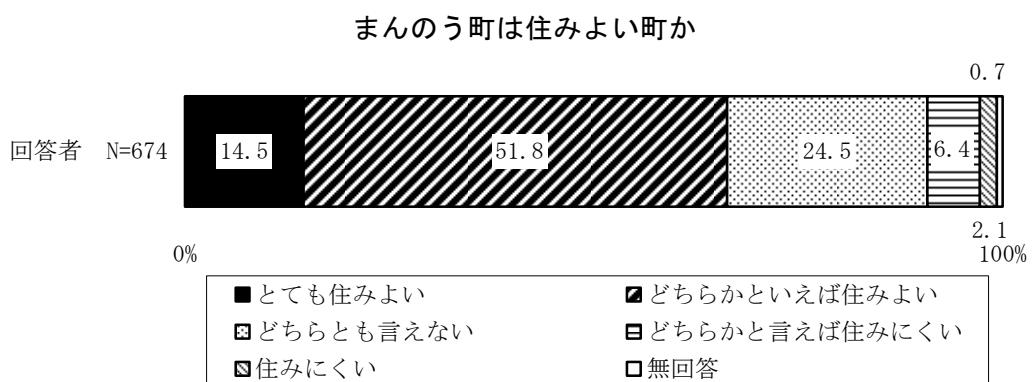


## 8 まんのう町は住みよい町か（問8）

まんのう町は住みよい町かをみると、「とても住みよい」14.5%、「どちらかと言えば住みよい」51.8%、「どちらとも言えない」24.5%、「どちらかと言えば住みにくい」6.4%、「住みにくい」2.1%です。

「とても住みよい」と「どちらかと言えば住みよい」をあわせると 66.3%、「どちらかと言えば住みにくい」と「住みにくい」をあわせると 8.5%で、住みよいと思う人の割合が 7 割近くを占めます。

年齢別にみると「とても住みよい」は「80 歳以上」で、「どちらとも言えない」は「50 歳代」以下で高い傾向です。



### 性別・年齢別にみた、まんのう町は住みよい町か

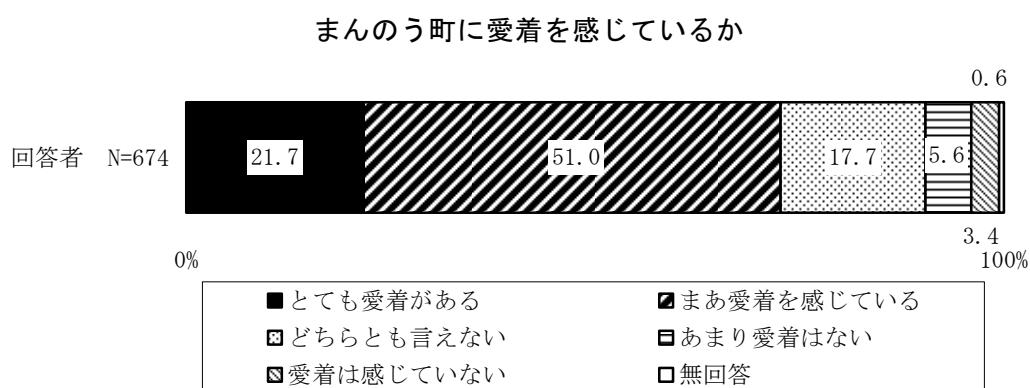
		合計	問8まんのう町は住みよい町か						
			とても住みよい	どちらかといえれば住みよい	どちらとも言えない	どちらかと言えば住みにくい	住みにくい	無回答	
全体		674 100.0	98 14.5	349 51.8	165 24.5	43 6.4	14 2.1	5 0.7	
性別・年齢	男	333 100.0	41 12.3	176 52.9	87 26.1	22 6.6	5 1.5	2 0.6	
	女	334 100.0	55 16.5	169 50.5	77 23.1	21 6.3	9 2.7	3 0.9	
	10・20歳代	65 100.0	10 15.4	26 40.0	16 24.6	10 15.4	2 3.1	1 1.5	
	30歳代	70 100.0	9 12.9	34 48.5	18 25.7	6 8.6	3 4.3	0 0.0	
	40歳代	62 100.0	7 11.3	31 50.0	19 30.6	4 6.5	0 0.0	1 1.6	
	50歳代	138 100.0	10 7.2	67 48.7	42 30.4	13 9.4	6 4.3	0 0.0	
	60歳代	125 100.0	15 12.0	72 57.6	28 22.4	6 4.8	2 1.6	2 1.6	
	70歳代	143 100.0	27 18.9	82 57.3	30 21.0	4 2.8	0 0.0	0 0.0	
	80歳以上	67 100.0	19 28.4	34 50.7	12 17.9	0 0.0	1 1.5	1 1.5	

## 9 まんのう町に愛着を感じているか（問9）

まんのう町に愛着を感じるかみると、「とても愛着がある」21.7%、「まあ愛着を感じている」51.0%、「どちらとも言えない」17.7%、「あまり愛着はない」5.6%、「愛着は感じていない」5.6%です。

「とても愛着がある」と「まあ愛着を感じている」をあわせると72.7%、「あまり愛着はない」と「愛着は感じていない」をあわせると9.0%で、愛着を感じている人の割合が7割を超えてます。

年齢別にみると「とても愛着がある」は「80歳以上」が、「どちらとも言えない」は「40歳代」で高くなっています。



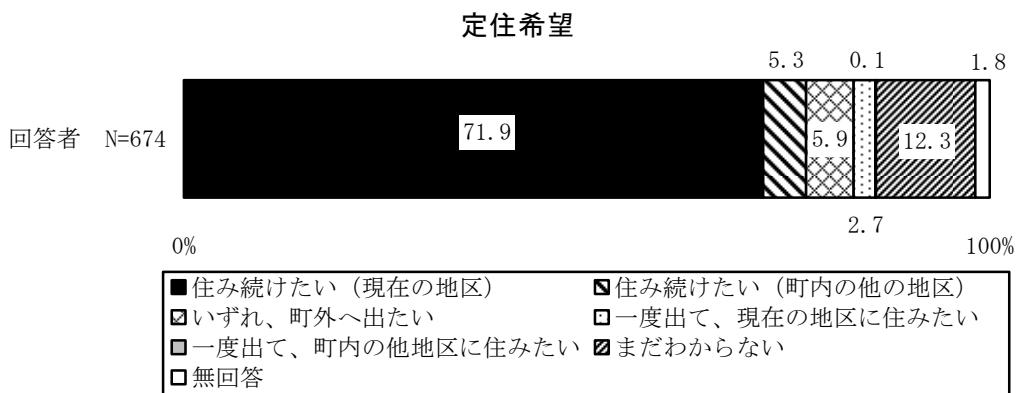
## 性別・年齢別にみた、まんのう町に愛着を感じているか

		合計	問9まんのう町に愛着を感じている					
性別	年齢		とても愛着がある	まあ愛着を感じている	どちらとも言えない	あまり愛着はない	愛着は感じていない	無回答
全	体	674 100.0	146 21.7	344 51.0	119 17.7	38 5.6	23 3.4	4 0.6
性別・年齢	男	333 100.0	73 21.9	176 52.9	48 14.4	23 6.9	11 3.3	2 0.6
	女	334 100.0	71 21.3	163 48.7	71 21.3	15 4.5	12 3.6	2 0.6
	10・20歳代	65 100.0	12 18.5	34 52.2	10 15.4	4 6.2	4 6.2	1 1.5
	30歳代	70 100.0	10 14.3	33 47.1	14 20.0	10 14.3	3 4.3	0 0.0
	40歳代	62 100.0	7 11.3	30 48.4	20 32.3	3 4.8	1 1.6	1 1.6
	50歳代	138 100.0	20 14.5	69 49.9	31 22.5	11 8.0	7 5.1	0 0.0
	60歳代	125 100.0	26 20.8	73 58.4	16 12.8	4 3.2	5 4.0	1 0.8
	70歳代	143 100.0	41 28.7	74 51.7	20 14.0	5 3.5	3 2.1	0 0.0
	80歳以上	67 100.0	28 41.8	29 43.3	8 11.9	1 1.5	0 0.0	1 1.5

## 10 定住意向（問10）

まんのう町への定住希望をみると、「住み続けたい（現在の地区）」71.9%、「住み続けたい（町内の他の地区）」5.3%、「いずれ、町外へ出たい」5.9%、「一度出て、現在の地区に住みたい」2.7%、「一度町を出て、町内の他地区に住みたい」0.1%などです。

年齢別にみると、「ずっと住みたい」は「60歳代」以上で、「いずれ、町外へ出たい」は「10・20歳代」「30歳代」で、「一度出て、現在の地区に住みたい」は「10・20歳代」で高くなっています。

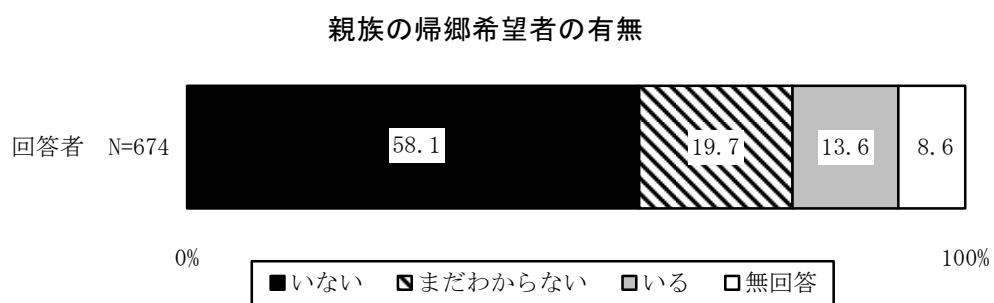


### 性別・年齢別にみた、定住希望

		合計	問10まんのう町に住み続けたいか						
			住み続けたい（現在の地区）	住み続けたい（町内の他の地区）	いずれ、町外へ出たい	一度出て、現在の地区に住みたい	一度出て、町内の他地区に住みた	まだわからない	無回答
全体		674 100.0	484 71.9	36 5.3	40 5.9	18 2.7	1 0.1	83 12.3	12 1.8
年齢	10・20歳代	65 100.0	17 <b>26.2</b>	4 6.2	13 <b>20.0</b>	9 <b>13.8</b>	1 1.5	20 <b>30.8</b>	1 1.5
	30歳代	70 100.0	28 <b>40.0</b>	5 7.1	14 <b>20.0</b>	3 4.3	0 0.0	20 <b>28.6</b>	0 0.0
	40歳代	62 100.0	41 66.2	2 3.2	3 4.8	1 1.6	0 0.0	13 21.0	2 3.2
	50歳代	138 100.0	99 71.8	8 5.8	6 4.3	3 2.2	0 0.0	20 14.5	2 1.4
	60歳代	125 100.0	108 <b>86.4</b>	6 4.8	3 2.4	0 0.0	0 0.0	6 4.8	2 1.6
	70歳代	143 100.0	129 <b>90.2</b>	7 4.9	1 0.7	1 0.7	0 0.0	3 <b>2.1</b>	2 1.4
	80歳以上	67 100.0	59 <b>88.0</b>	3 4.5	0 0.0	1 1.5	0 0.0	1 <b>1.5</b>	3 4.5

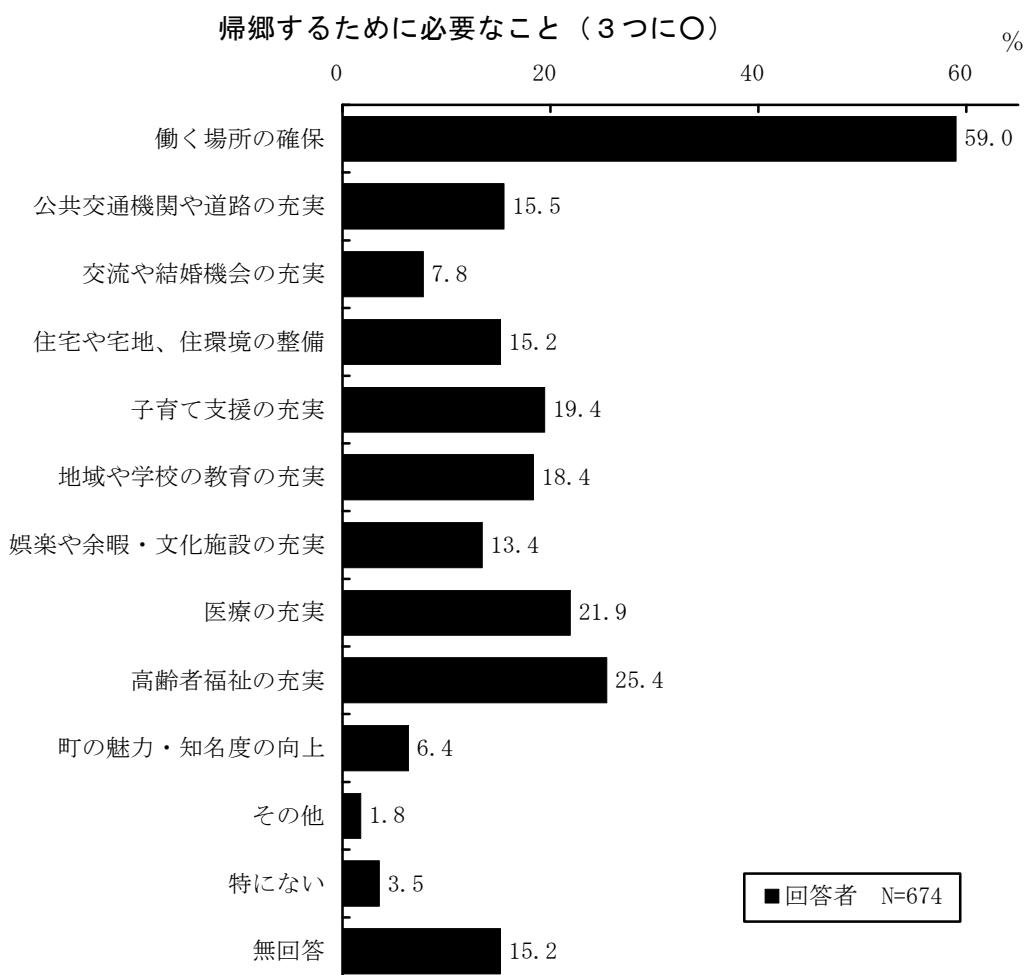
## 11 親族の帰郷希望者の有無（問11）

住民の兄弟姉妹・子どもに帰郷希望者が、「いない」は58.1%、「まだわからない」は19.7%、「いる」は13.6%です。



## 12 帰郷するためには必要なこと（問12）

住民の兄弟姉妹・子どもが帰郷するために必要なことは、「働く場所の確保」59.0%が半数を超えて高く、あとは「高齢者福祉の充実」25.4%、「医療の充実」21.9%、「子育て支援の充実」19.4%、「地域や学校の教育の充実」18.4%、「公共交通機関や道路の充実」15.5%、「住宅や宅地、住環境の整備」15.2%、「娯楽や余暇・文化施設の充実」13.4%など多様です。

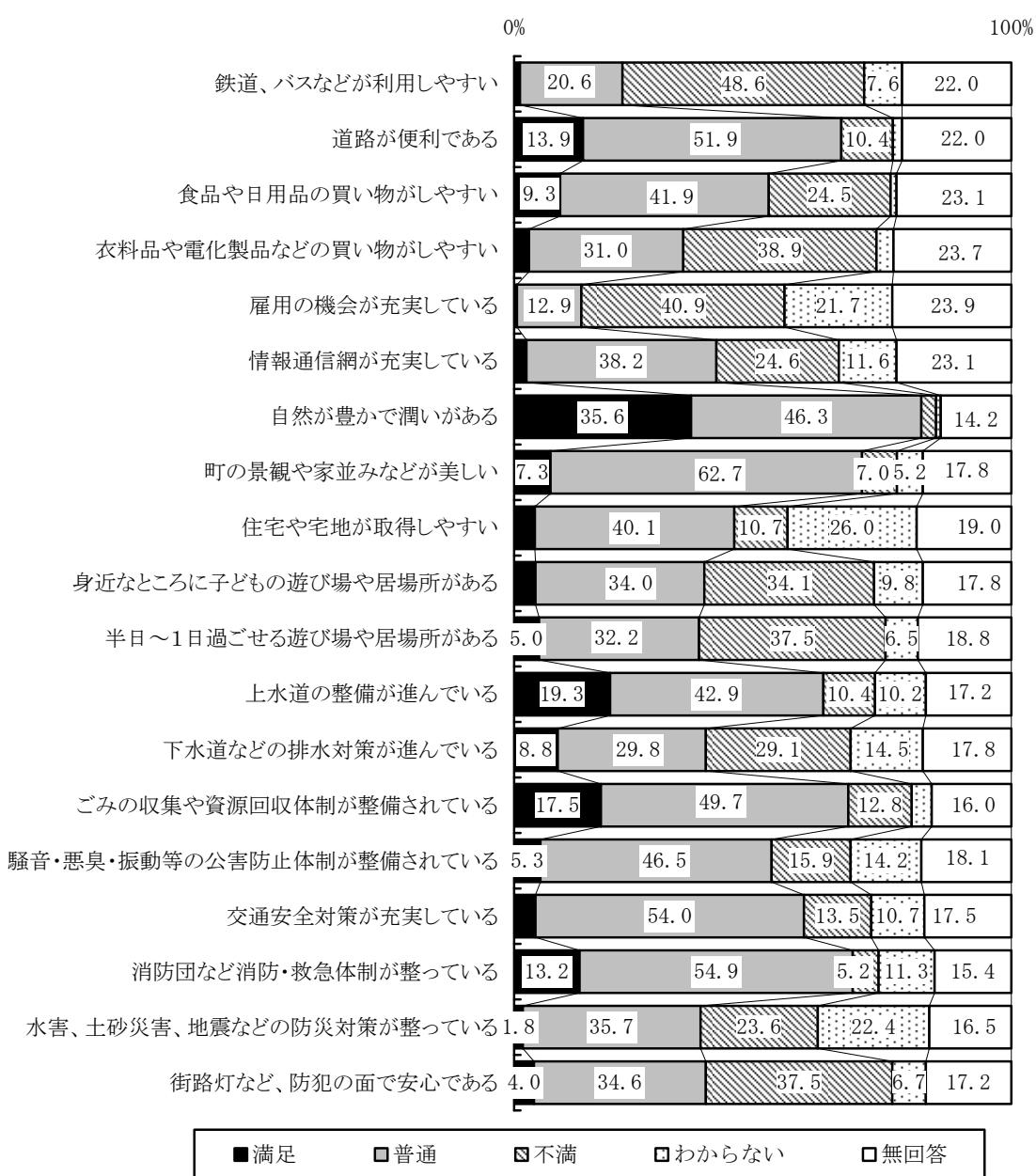


### 13 生活環境の満足度（問13）

生活環境について満足度が高いのは「自然が豊かで潤いがある」35.6%、「上水道の整備が進んでいる」19.3%、「ごみの収集や資源回収体制が整備されている」17.5%、「住民健診や健康指導の充実」16.8%、「道路が便利である」13.9%、「消防団など消防・救急態勢が整っている」13.2%などです。

反対に不満度が高いのは、「鉄道、バスなどが利用しやすい」48.6%、「雇用の機会が充実している」40.9%、「衣料品や電化製品などの買い物がしやすい」38.9%、「半日～1日過ごせる遊び場や居場所がある」「街路灯など、防犯の面で安心である」37.5%、「身近なところに子どもの遊び場や居場所がある」34.1%、「娯楽（喫茶、飲酒含む）やレジヤーの環境が整っている」30.3%などです。

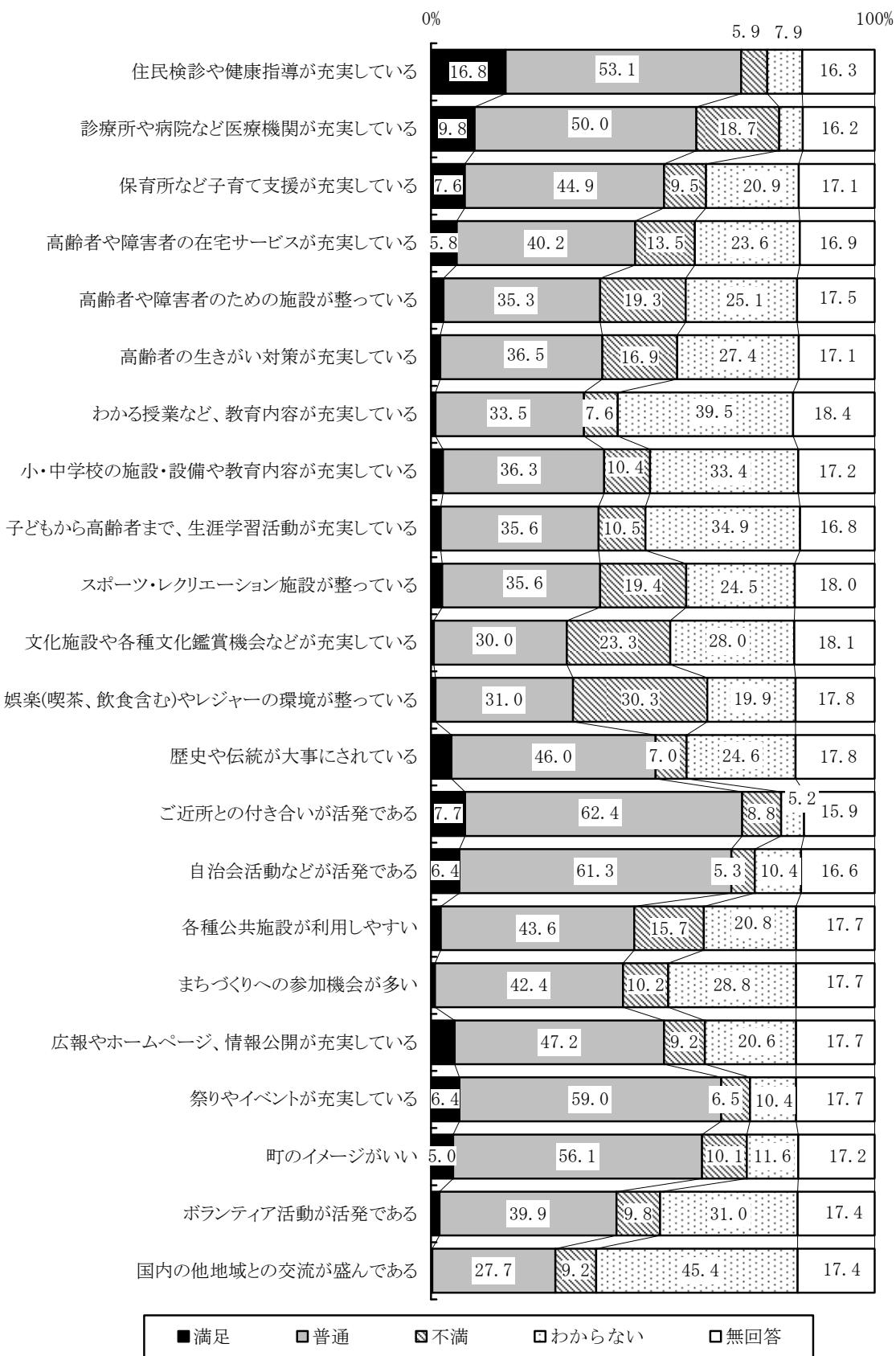
生活環境の満足度



※ 5 %未満の数値は不掲載

回答者 N=674

## 生活環境の満足度（つづき）



※ 5 %未満の数値は不掲載

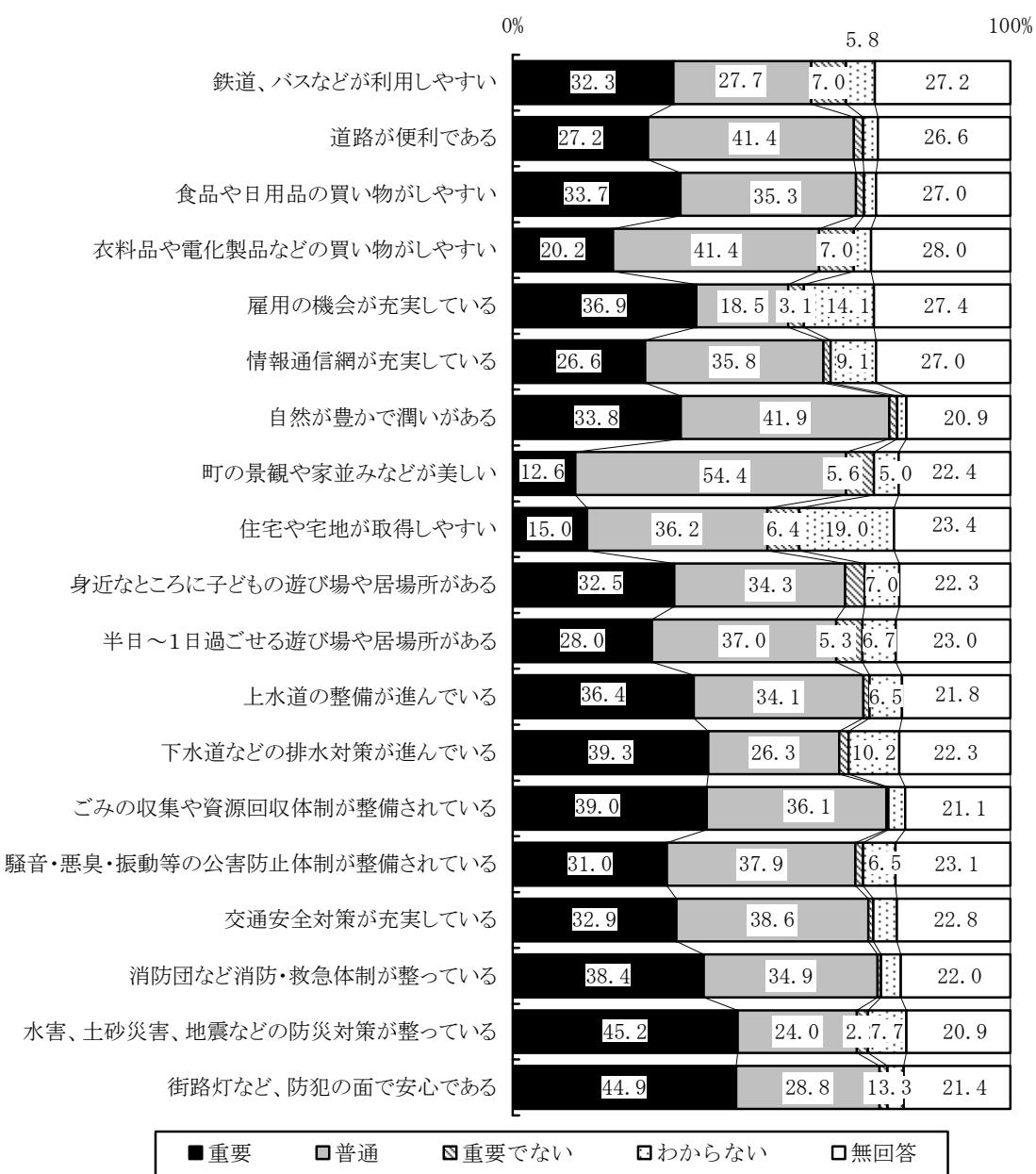
回答者 N=674

## 14 生活環境の重要度（問14）

生活環境の重要度が高いのは、「水害、土砂災害、地震などの防災対策が整っている」45.2%、「街路灯など、防犯の面で安心である」44.9%、「診療所や病院など医療機関が充実している」41.0%、「下水道などの排水対策が進んでいる」39.3%、「ごみの収集や資源回収体制が整備されている」39.0%、「消防団など消防・救急体制が整っている」38.4%をはじめ、「雇用の機会が充実している」「上水道の整備が進んでいる」「騒音・悪臭・振動等の公害防止体制が整備されている」「高齢者や障害者の在宅サービスが充実している」などです。

全体的に「重要でない」は低く、すべての項目で1割弱です。

生活環境の重要度

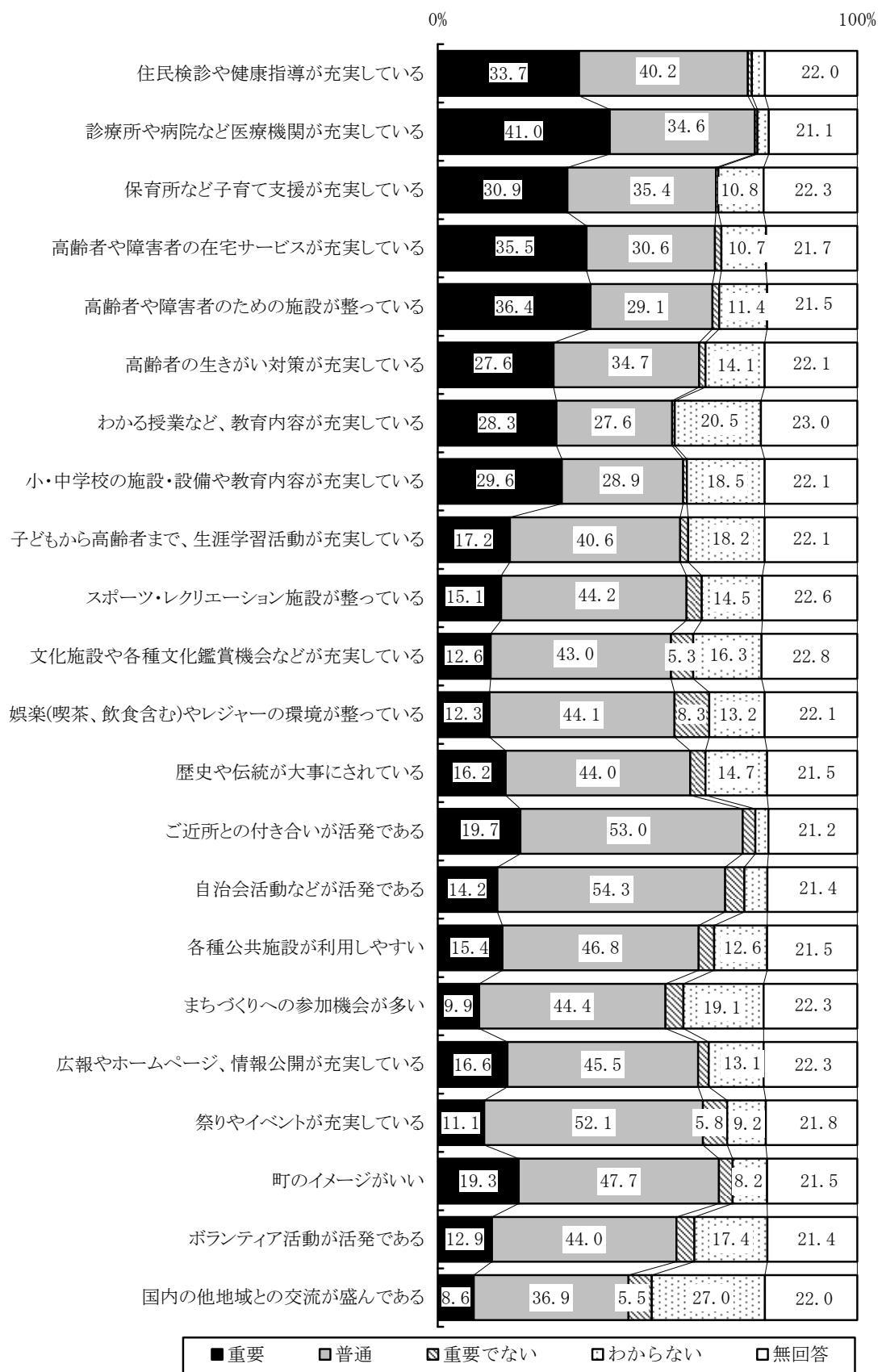


■ 重要 □ 普通 ▨ 重要でない □ わからない □ 無回答

※ 5 %未満の数値は不掲載

回答者 N=674

### 生活環境の重要度（つづき）

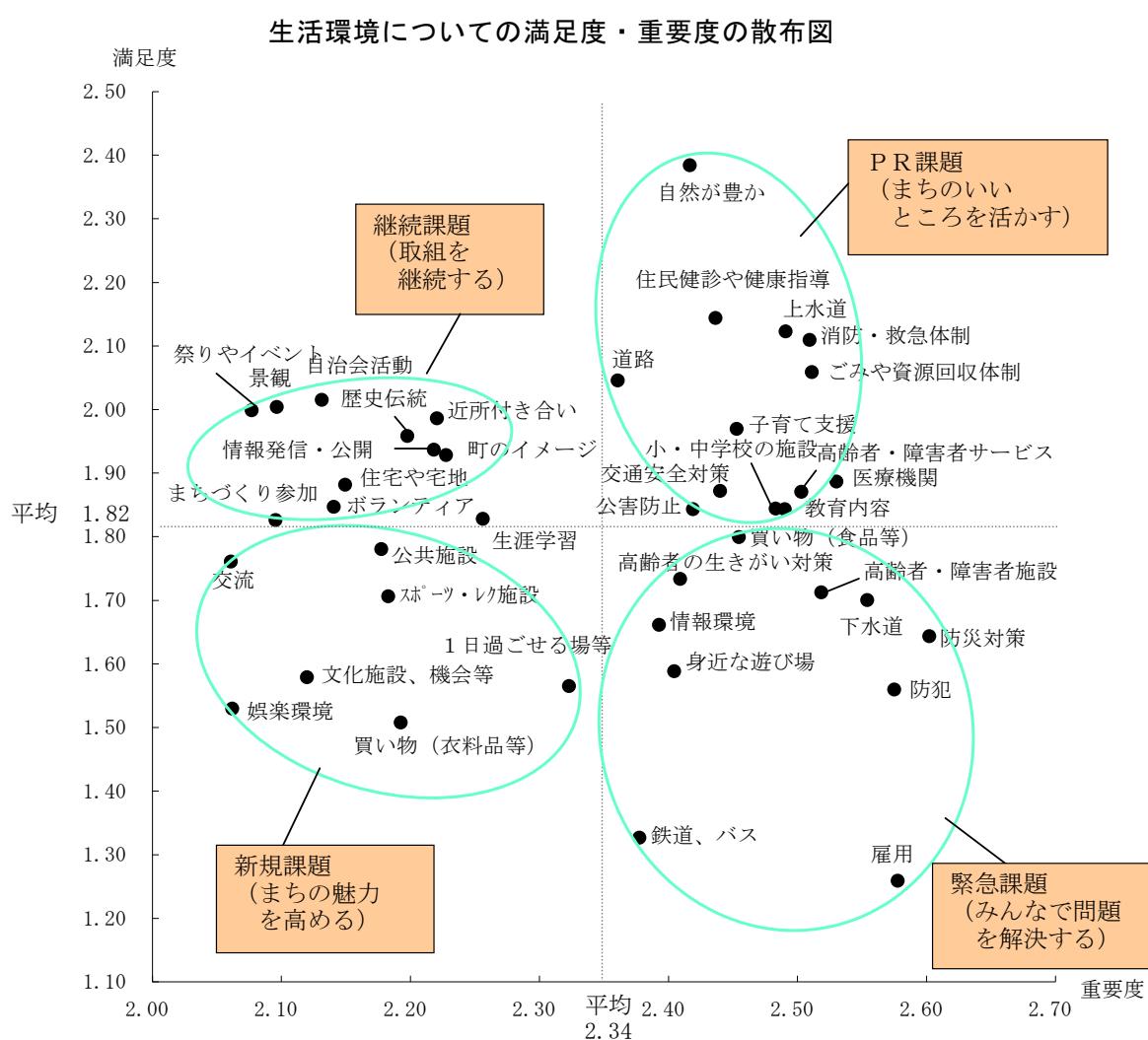


※ 5 %未満の数値は不掲載

回答者 N=674

生活環境の満足度と重要度についてみると、満足度・重要度がともに高い「自然が豊か」「住民検診や健康指導」「上水道」「消防・救急体制」「ごみや資源回収体制」などと、満足度が低くて重要度が高い「雇用」「防犯」「防災」など、満足度は高いものの重要度が低い「祭やイベント」「景観」「自治会活動」「近隣づきあい」「歴史伝統」など、満足度・重要度がともに低い「娯楽環境」「買い物（衣料品等）」「文化施設、機会等」など、4つのタイプに分類されます。

「みんなで問題を解決する」必要のある緊急課題群（重要度が高いにもかかわらず満足度が低い施策・事業）に重点的に取組むとともに、「まちのいいところを活かす」ためのPR課題群（満足度・重要度とも高い）をアピールしたまちづくりも課題です。また、「まちの魅力を高める」ための新規課題群（満足度・重要度とも低く、個性を出しやすい取組み）も検討が求められます。



#### 満足度—重要度散布図の見方

- ◆縦軸が満足度、横軸が重要度であり、それぞれ点数が高いほど満足度又は重要度が高いことを表しています。
- ◆「満足（重要）」を3点、「普通」を2点、「不満（重要でない）」を1点として加重平均を取っています。
- ◆計算式は「 $(a \times 3\text{点}) + (b \times 2\text{点}) + (c \times 1\text{点}) / (a + b + c)$ 」です
- a = 「満足（重要）」の割合 (%)、b = 「普通」の割合 (%)、c = 「不満（重要でない）」の割合 (%)

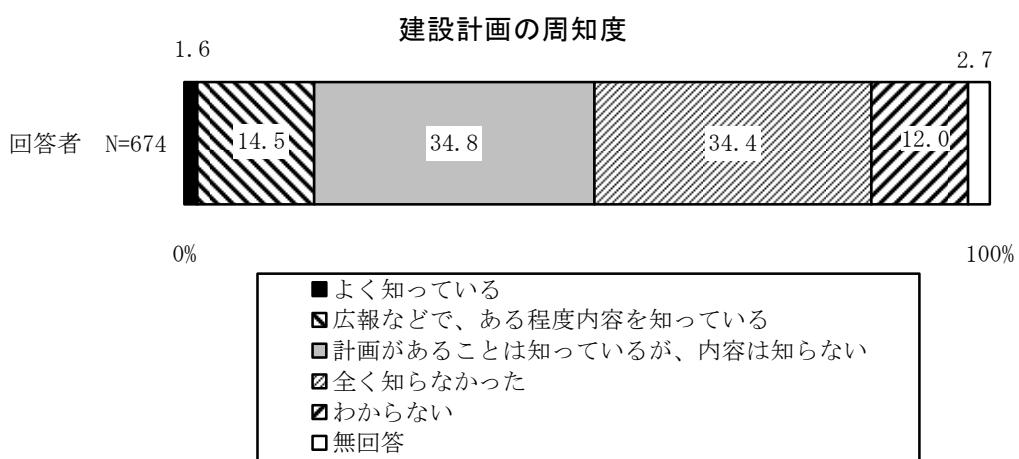
## 15 建設計画の周知度（問15）

まんのう町建設計画がどのくらい住民に知られているかをみると、「よく知っている」

1.6%、「広報などで、ある程度内容を知っている」14.5%で、合わせても2割弱です。

一方、「計画があることは知っているが、内容は知らない」34.8%、「全く知らなかつた」

34.4%、「わからない」12.0%です。

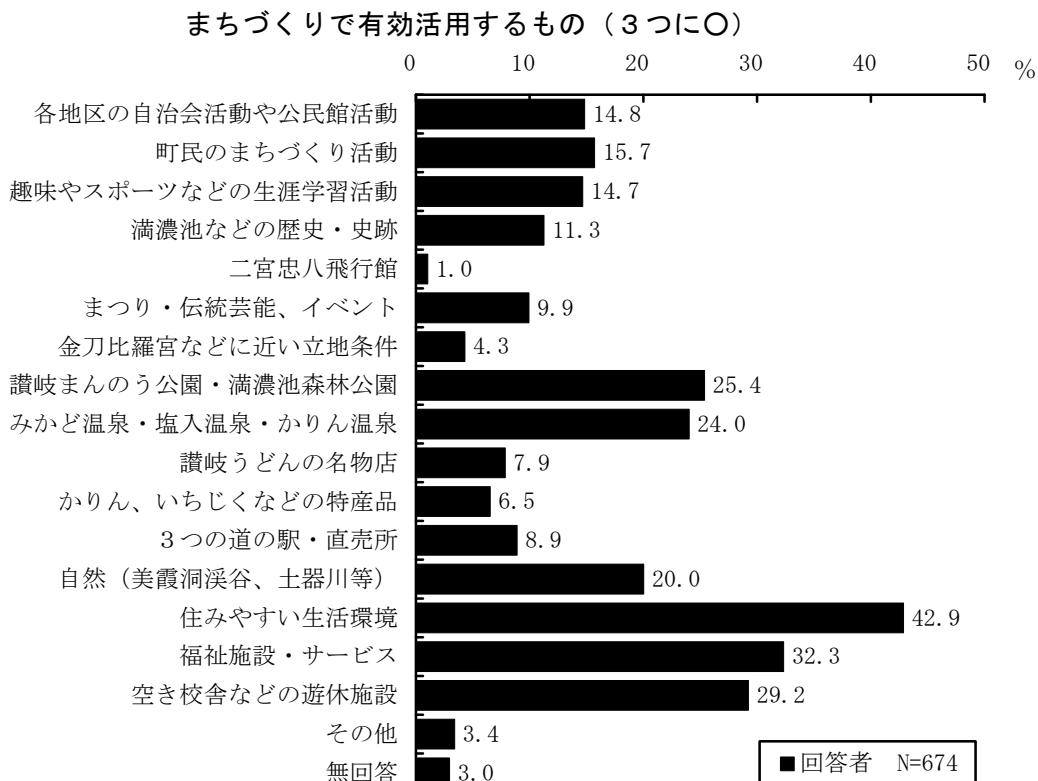


## 16 まちづくりで有効活用するもの（問16）

まちづくりで有効活用するものとして、「住みやすい生活環境」42.9%が高く、あとは

「福祉施設・サービス」32.3%、「空き校舎などの遊休施設」29.2%、「讃岐まんのう公

園・満濃池森林公园」25.4%、「みかど温泉・塩入温泉・かりん温泉」24.0%、「自然（美霞洞渓谷、土器川、ホタル等）」20.0%などが続いています。



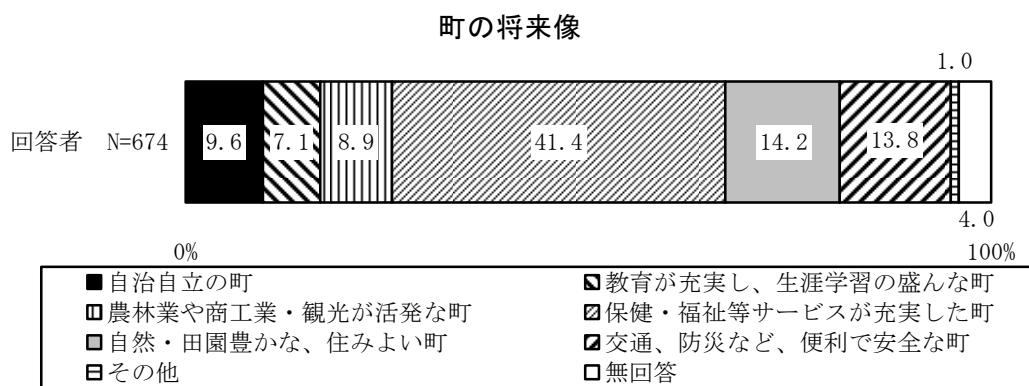
問16 これからまちづくりを進める上で、何を有効に活用していけばよいとお考えでしょうか。(5つまで○)

		回答者 人数(人)	割合(%)
1	各地区の自治会活動や公民館活動	100	14.8
2	町民のまちづくり活動	106	15.7
3	趣味やスポーツなどの生涯学習活動	99	14.7
4	満濃池などの歴史・史跡	76	11.3
5	二宮忠八飛行館	7	1.0
6	まつり・伝統芸能、イベント	67	9.9
7	金刀比羅宮などに近い立地条件	29	4.3
8	讃岐まんのう公園・満濃池森林公園	171	25.4
9	みかど温泉・塩入温泉・かりん温泉	162	24.0
10	讃岐うどんの名物店	53	7.9
11	かりん、いちじく、ひまわり、そばなどの特産品	44	6.5
12	3つの道の駅・直売所	60	8.9
13	自然(美霞洞渓谷、土器川、ホタル等)	135	20.0
14	住みやすい生活環境	289	42.9
15	福祉施設・サービス	218	32.3
16	空き校舎などの遊休施設	197	29.2
17	その他	23	3.4
	無回答	20	3.0
	回答者数	674	100.0

## 17 町の将来像（問17）

将来のまんのう町の姿は、「保健・福祉等サービスが充実した町」41.4%と高く、あとは「自然・田園豊かな、住みよい町」14.2%、「交通、防災など、便利で安全な町」13.8%などが続いています。

性別・年齢・居住地別にみると、「保健・福祉等サービスが充実した町」は「七箇地区」で、「自然・田園豊かな、住みよい町」は「造田地区」で、「交通、防災など、便利で安全な町」は「40歳代」で高くなっています。



### 問17 あなたは、将来のまんのう町がどんな町になって欲しいですか。(3つまで○)

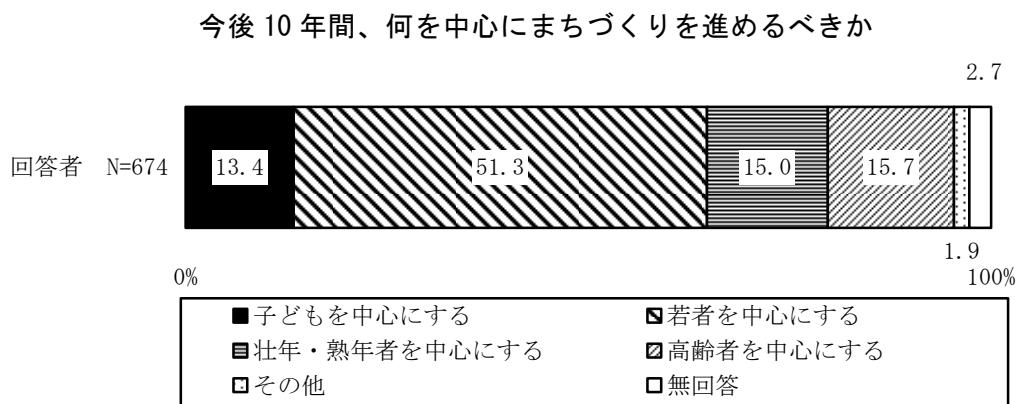
選択肢	回答者 人数(人)	割合(%)	回答者
			回答者
1 住民活動や交流が活発な、行財政の健全な、 <b>自治自立の町</b>	65	9.6	回答者
2 教育が充実し、生涯学習やスポーツ活動の盛んな、心ゆたかな町	48	7.1	回答者
3 農林業や商工業・観光が活発な、活力のある町	60	8.9	回答者
4 保健医療・福祉サービスが充実した、安心して暮らせる町	278	41.4	回答者
5 自然・田園豊かな、住宅・公園や上下水道などが整備された、潤いのある住みよい町	96	14.2	回答者
6 道路・交通が整備され、防災・防犯体制などが整った、便利で安全な町	93	13.8	回答者
7 その他	7	1.0	回答者
無回答	27	4.0	回答者
回答者数	674	100.0	回答者

性別・年齢・居住地別にみた、町の将来像

		合計	問17まちの将来像							
			自治自立の町	教育が充実し、生涯学習の盛んな町	農林業や商工業・観光が活発な町	保健・福祉等サービスが充実した町	自然・田園豊かな、住みよい町	交通、防災など、便利で安全な町	その他	無回答
全体		674 100.0	65 9.6	48 7.1	60 8.9	278 41.4	96 14.2	93 13.8	7 1.0	27 4.0
性別・年齢・居住地	男	333 100.0	35 10.5	23 6.9	37 11.1	138 41.5	45 13.5	41 12.3	4 1.2	10 3.0
	女	334 100.0	30 9.0	25 7.5	22 6.6	138 41.2	51 15.3	49 14.7	3 0.9	16 4.8
	10・20歳代	65 100.0	4 6.2	8 12.3	6 9.2	19 29.2	13 20.0	12 18.5	2 3.1	1 1.5
	30歳代	70 100.0	1 1.4	8 11.4	5 7.1	26 37.2	16 22.9	11 15.7	2 2.9	1 1.4
	40歳代	62 100.0	0 0.0	7 11.3	3 4.8	28 45.2	9 14.5	15 24.2	0 0.0	0 0.0
	50歳代	138 100.0	17 12.3	13 9.4	15 10.9	53 38.5	19 13.8	17 12.3	2 1.4	2 1.4
	60歳代	125 100.0	19 15.2	5 4.0	11 8.8	60 48.0	21 16.8	8 6.4	0 0.0	1 0.8
	70歳代	143 100.0	16 11.2	6 4.2	15 10.5	64 44.7	11 7.7	19 13.3	0 0.0	12 8.4
	80歳以上	67 100.0	8 11.9	1 1.5	5 7.5	28 41.9	7 10.4	8 11.9	1 1.5	9 13.4
	美合地区	68 100.0	6 8.8	2 2.9	6 8.8	26 38.3	14 20.6	6 8.8	1 1.5	7 10.3
	造田地区	29 100.0	3 10.3	1 3.4	3 10.3	7 24.1	8 27.8	4 13.8	0 0.0	3 10.3
	長炭地区	117 100.0	12 10.3	7 6.0	14 12.0	44 37.5	15 12.8	20 17.1	1 0.9	4 3.4
	吉野地区	67 100.0	4 6.0	7 10.4	4 6.0	30 44.8	11 16.4	9 13.4	0 0.0	2 3.0
	神野地区	56 100.0	6 10.7	4 7.1	6 10.7	20 35.7	9 16.1	10 17.9	0 0.0	1 1.8
	四条地区	82 100.0	10 12.2	7 8.5	5 6.1	38 46.4	10 12.2	7 8.5	1 1.2	4 4.9
	高篠地区	109 100.0	9 8.3	7 6.4	13 11.9	43 39.5	15 13.8	18 16.5	2 1.8	2 1.8
	七箇地区	42 100.0	5 11.9	3 7.1	3 7.1	23 54.9	3 7.1	4 9.5	1 2.4	0 0.0
	十郷地区	100 100.0	10 10.0	10 10.0	6 6.0	47 47.0	10 10.0	13 13.0	1 1.0	3 3.0

## 18 今後10年間、誰を中心にもちづくりを進めるべきか（問18）

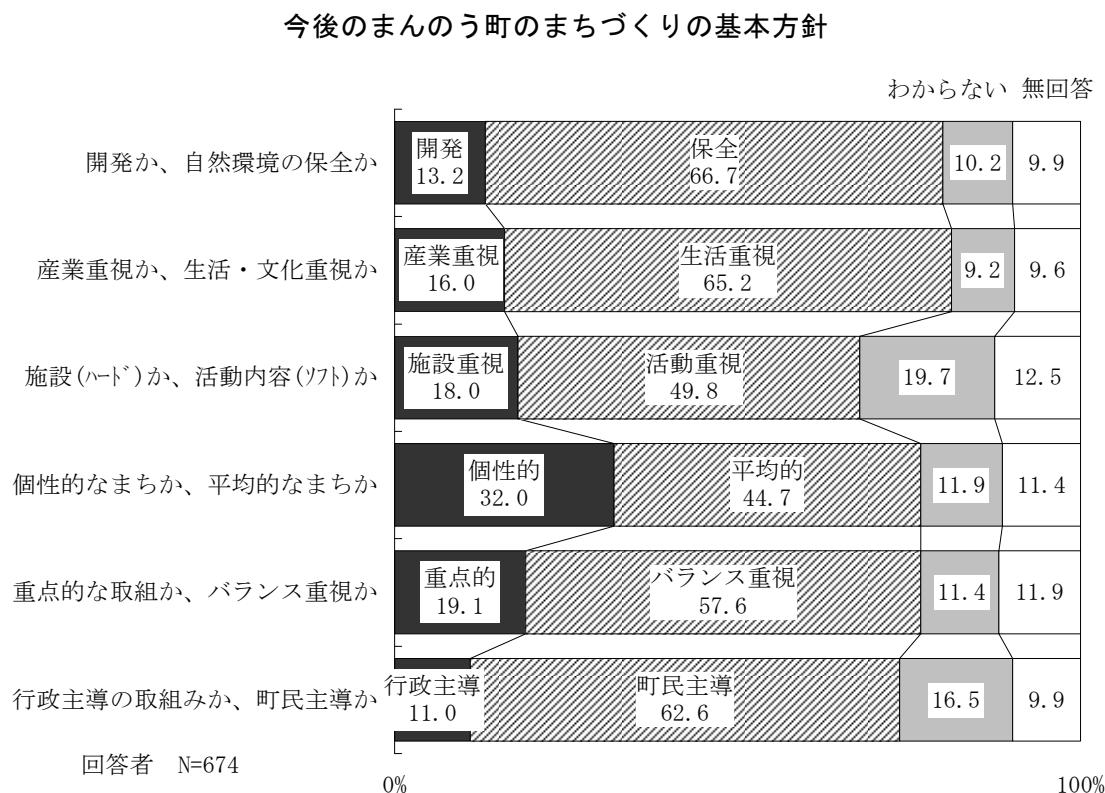
今後 10 年間、誰を中心にもちづくりを進めるべきかでは、「若者を中心にする」が 51.3%と半数以上を占め、あとは「高齢者を中心にする」15.7%、「壮年・熟年者を中心にする」15.0%、「子どもを中心にする」13.4%がほぼ並んでいます。



## 19 今後のまんのう町のまちづくりの基本方針（問19）

今後のまんのう町のまちづくりの基本方針としては、「自然環境の保全」66.7%、「生活重視」65.2%、「活動重視」49.8%、「平均的なまち」44.7%、「バランス重視」57.6%、「町民主導」62.6%となっています。

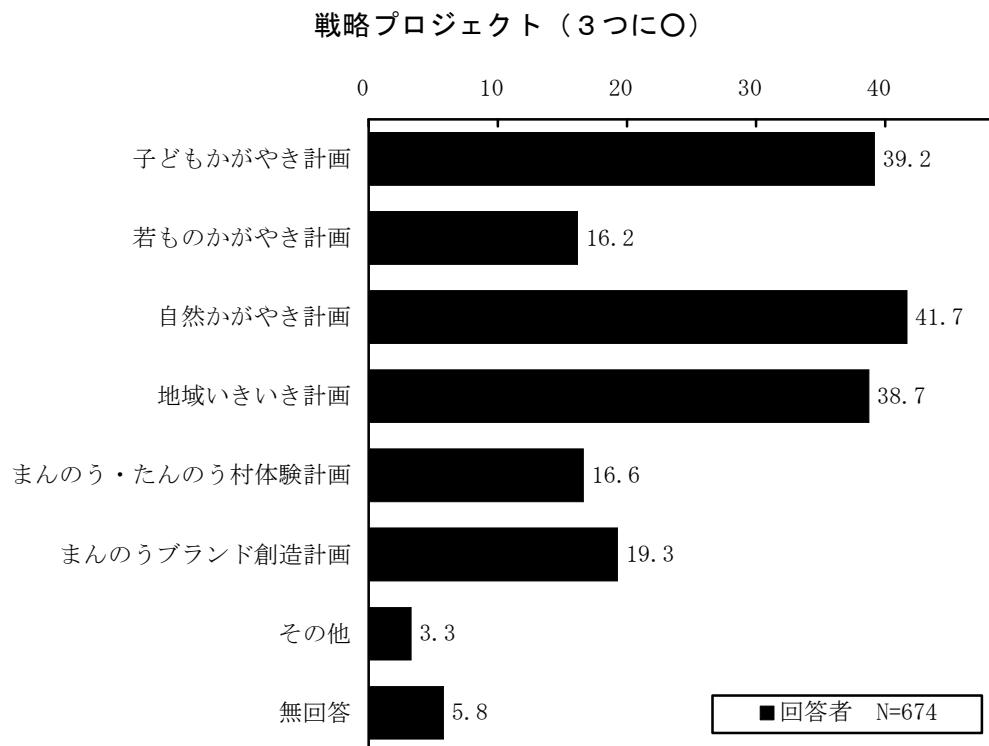
「個性的なまちか、平均的なまちか」については、意見が割れています。



## 20 戰略プロジェクト（問20）

戦略プロジェクトでは、「自然かがやき計画」41.7%、「子どもかがやき計画」39.2%、「地域いきいき計画」38.7%とほぼ並んでいます。あとは「まんのうブランド創造計画」「まんのう・たんのう村体験計画」「若ものかがやき計画」が2割弱です。

性別・年齢・居住地・職業別でみると、「子どもかがやき計画」は「30歳代」で、「自然かがやき計画」は「建設業」で、「地域いきいき計画」は「60歳代」、「十郷地区」で、「まんのう・たんのう村体験計画」は「造田地区」で、それぞれ高くなっています。



問20 個性的で魅力的なまちづくりの要(かなめ)となる戦略的なまちづくり計画(戦略プロジェクト)を決めるしたら、次の1~7のどれがよいと思いますか。(2つに○)

	回答者 人數(人)	割合(%)
1 子どもかがやき計画(子どもの自信、自尊心、自立力を高めるための、子ども同士の遊びや様々な体験・交流機会の充実、学ぶ意欲や基礎学力を高める授業、子育て支援ボランティアの育成など)	264	39.2
2 若ものかがやき計画(地域クラブ・サークル活動や若もの自身によるイベントやパーティの応援など)	109	16.2
3 自然かがやき計画(満濃池、大川山、尾の瀬山、土器川、金倉川、財田川などの自然遺産や森林、ため池、棚田、古い町並みなどの景観を守る。また、綾子踊り、大川念佛踊り、三島神社湯立て神楽、中寺などの文化遺産や伝統行事を大切に保存し、活用するなど)	281	41.7
4 地域いきいき計画(地域クラブ・サークル活動、ボランティア活動、コミュニティ活動など子どもから高齢者までが安全で安心していきいきと生活できるまちづくりなど)	261	38.7
5 まんのう・たんのう村体験計画(国営讃岐まんのう公園・県立満濃池森林公园と連携した自然体験(エコツーリズム)や農業体験観光(グリーンツーリズム)、讃岐うどん名人の手ほどきによるうどん打ち体験など)	112	16.6
6 まんのうブランド創造計画(「讃岐うどんのまち」づくりや、かりん、いちじく、ひまわり、そば、竹などの特産品を活かした特産品の開発、など)	130	19.3
7 その他	22	3.3
無回答	39	5.8
回答者数	674	100.0

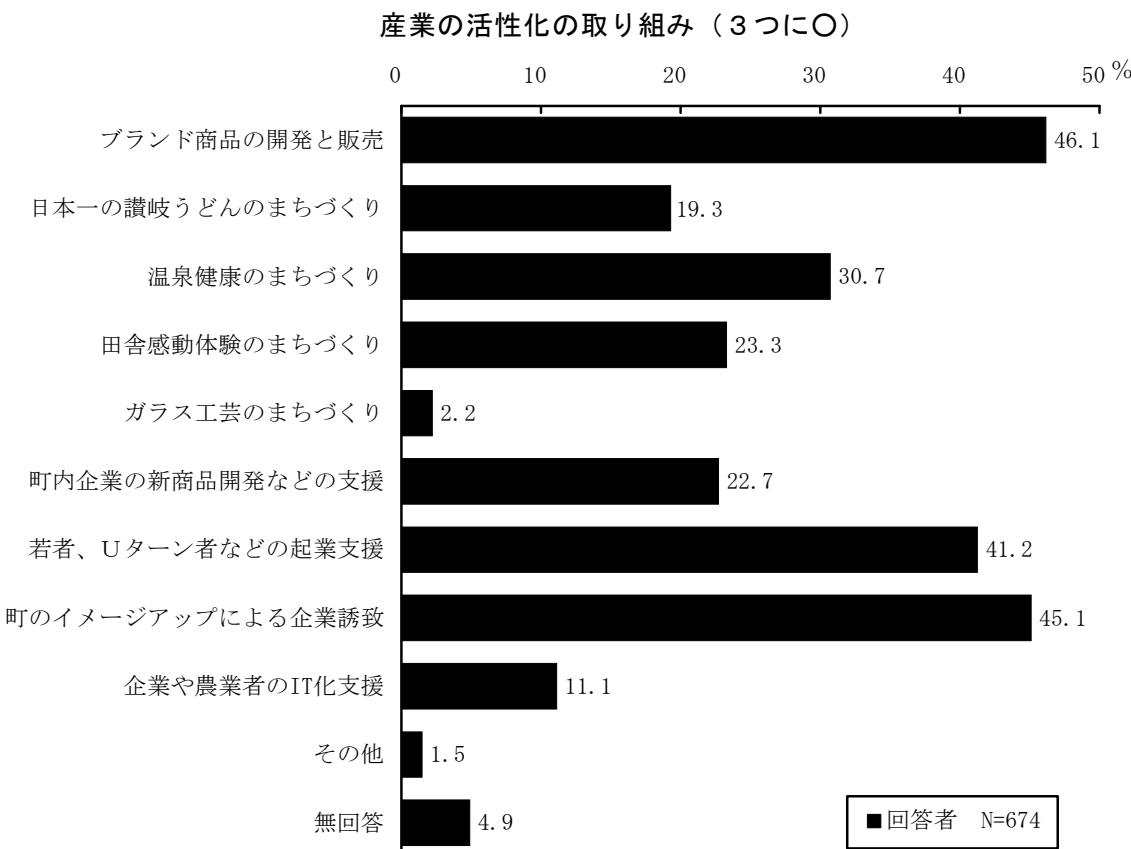
性別・年齢・居住地・職業別にみた、戦略プロジェクト

		合計	問20戦略的なまちづくり計画							
			子どもかがやき計画	若ものかがやき計画	自然かがやき計画	地域いきいき計画	まんのう・たんのう村体験計画	まんのうブランド創造計画	その他	無回答
性別	全体	674 100.0	264 39.2	109 16.2	281 41.7	261 38.7	112 16.6	130 19.3	22 3.3	39 5.8
年齢	男	333 100.0	118 35.4	59 17.7	141 42.3	126 37.8	55 16.5	74 22.2	15 4.5	18 5.4
居住地	女	334 100.0	143 42.8	49 14.7	139 41.6	132 39.5	57 17.1	55 16.5	7 2.1	19 5.7
職業	10・20歳代	65 100.0	29 44.6	13 20.0	25 38.5	16 24.6	18 27.7	13 20.0	1 1.5	2 3.1
	30歳代	70 100.0	35 50.0	15 21.4	24 34.3	18 25.7	17 24.3	7 10.0	3 4.3	3 4.3
	40歳代	62 100.0	25 40.3	13 21.0	25 40.3	21 33.9	12 19.4	16 25.8	2 3.2	1 1.6
	50歳代	138 100.0	49 35.5	19 13.8	70 50.7	63 45.7	25 18.1	28 20.3	6 4.3	0 0.0
	60歳代	125 100.0	56 44.8	18 14.4	51 40.8	65 52.0	17 13.6	23 18.4	3 2.4	2 1.6
	70歳代	143 100.0	46 32.2	20 14.0	60 42.0	50 35.0	15 10.5	34 23.8	4 2.8	19 13.3
	80歳以上	67 100.0	23 34.3	10 14.9	25 37.3	27 40.3	8 11.9	9 13.4	3 4.5	11 16.4
	美合地区	68 100.0	21 30.9	11 16.2	31 45.6	25 36.8	4 5.9	16 23.5	1 1.5	10 14.7
	造田地区	29 100.0	9 31.0	5 17.2	8 27.6	9 31.0	9 31.0	6 20.7	1 3.4	3 10.3
	長炭地区	117 100.0	51 43.6	16 13.7	56 47.9	39 33.3	26 22.2	25 21.4	5 4.3	3 2.6
	吉野地区	67 100.0	25 37.3	12 17.9	27 40.3	26 38.8	9 13.4	13 19.4	2 3.0	3 4.5
	神野地区	56 100.0	23 41.1	6 10.7	23 41.1	25 44.6	14 25.0	11 19.6	2 3.6	2 3.6
	四条地区	82 100.0	36 43.9	12 14.6	34 41.5	30 36.6	10 12.2	19 23.2	3 3.7	3 3.7
	高篠地区	109 100.0	46 42.2	21 19.3	47 43.1	37 33.9	15 13.8	21 19.3	4 3.7	4 3.7
	七箇地区	42 100.0	11 26.2	9 21.4	20 47.6	20 47.6	8 19.0	3 7.1	3 7.1	2 4.8
	十郷地区	100 100.0	41 41.0	16 16.0	35 35.0	49 49.0	16 16.0	16 16.0	1 1.0	7 7.0
	農林業	119 100.0	49 41.2	18 15.1	49 41.2	49 41.2	12 10.1	25 21.0	4 3.4	11 9.2
	製造業	65 100.0	23 35.4	9 13.8	27 41.5	25 38.5	9 13.8	17 26.2	3 4.6	0 0.0
	建設業	32 100.0	9 28.1	8 25.0	17 53.1	15 46.9	5 15.6	8 25.0	0 0.0	1 3.1
	商業・サービス	95 100.0	38 40.0	16 16.8	37 38.9	39 41.1	17 17.9	19 20.0	3 3.2	3 3.2
	電気・ガス・水・運輸・通信業	20 100.0	4 20.0	6 30.0	10 50.0	6 30.0	5 25.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0
	公務員等	35 100.0	13 37.1	9 25.7	15 42.9	11 31.4	9 25.7	6 17.1	2 5.7	2 5.7
	家事（主婦など）	125 100.0	53 42.4	17 13.6	54 43.2	52 41.6	18 14.4	19 15.2	3 2.4	5 4.0
	無職・学生	75 100.0	27 36.0	7 9.3	34 45.3	27 36.0	15 20.0	16 21.3	4 5.3	4 5.3
	その他	91 100.0	45 49.5	16 17.6	34 37.4	33 36.3	18 19.8	14 15.4	2 2.2	6 6.6

## 21 産業活性化の取り組み（問21）

産業活性化の取り組みでは、「ブランド商品の開発と販売」46.1%、「町のイメージアップによる企業誘致」45.1%、「若者、Uターン者などの起業支援」41.2%が飛び抜けており、次いで「温泉健康のまちづくり」30.7%などが続いています。

職業別にみると、「ブランド商品の開発と販売」は「建設業」、「温泉健康のまちづくり」は「電気・ガス・水道・運輸・通信業」と「無職・学生」、「田舎感動体験のまちづくり」は「建設業」、「町のイメージアップによる企業誘致」は「建設業」が平均より高くなっています。



問21 産業の活性化のために、どのような取組が必要でしょうか。(3つまで○)

		回答者 人数(人)	割合(%)
1	道の駅・直売所を核とした「まんのうブランド商品」の開発と販売	311	46.1
2	うどん祭りやうどん名人による体験会など、日本一の「讃岐うどん」のまちづくり	130	19.3
3	温泉健康のまちづくり(温泉健康インストラクターの育成、リハビリなど)	207	30.7
4	農業体験や民泊など、田舎感動体験(グリーンツーリズム)のまちづくり	157	23.3
5	「古代トンボ玉」を活かした、ガラス工芸のまちづくり	15	2.2
6	県や大学などと連携した、町内企業の新商品開発、新規事業進出などの支援	153	22.7
7	若者や女性、Uターン者などの起業(新会社づくり)の支援	278	41.2
8	町のイメージアップによる、空校舎などを活かした企業誘致	304	45.1
9	企業や農業者のホームページ作成やインターネットなどの支	75	11.1
10	その他	10	1.5
	無回答	33	4.9
	回答者数	674	100.0

職業別にみた、産業の活性化の取り組み

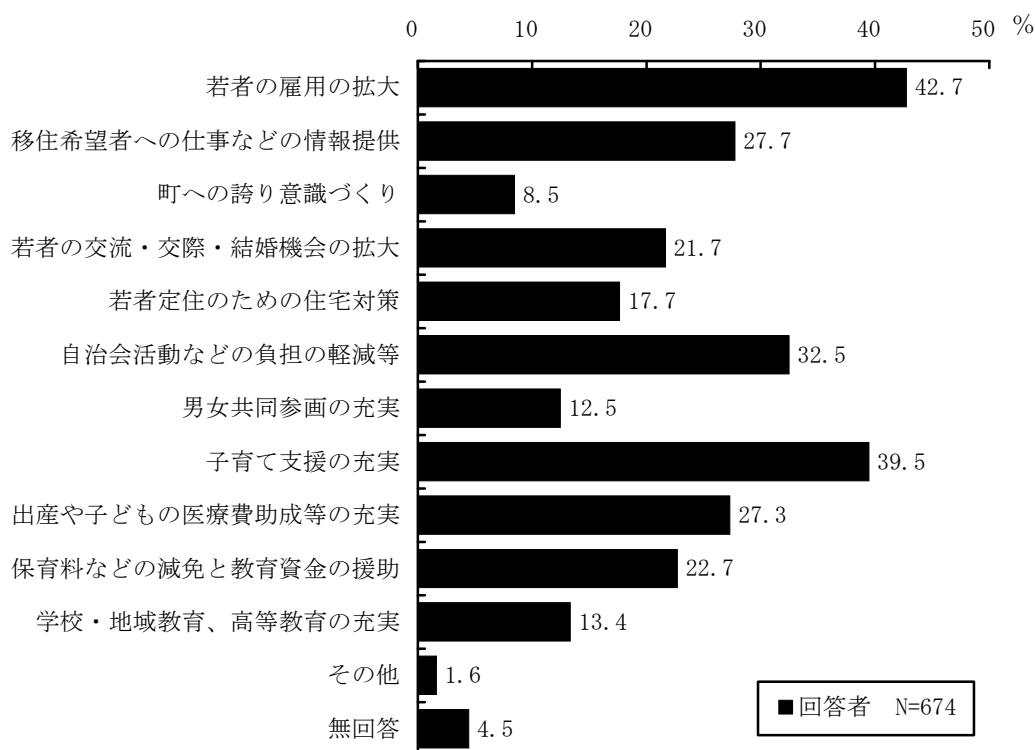
		合計	問21産業の活性化のために必要な取組										
問 5 職業 (産業分野)	職業		ブランド商 品の開発 と販売	日本一の 讃岐うど んのまち づくり	温泉健康 のまちづく り	田舎感動 体験のま ちづくり	ガラス工 芸のまち づくり	町内企業 の新商品 開発など の支援	若者、U ターン者な どの起業 支援	町のイ メージアッ プによる 企業誘致	企業や農 業者のIT 化支援	その他	無回答
	全体	674 100.0	311 46.1	130 19.3	207 30.7	157 23.3	15 2.2	153 22.7	278 41.2	304 45.1	75 11.1	10 1.5	33 4.9
	農林業	119 100.0	66 55.5	16 13.4	31 26.1	30 25.2	0 0.0	26 21.8	44 37.0	56 47.1	15 12.6	1 0.8	9 7.6
	製造業	65 100.0	35 53.8	11 16.9	17 26.2	15 23.1	0 0.0	20 30.8	26 40.0	26 40.0	9 13.8	2 3.1	0 0.0
	建設業	32 100.0	20 <b>62.5</b>	3 9.4	7 21.9	13 <b>40.6</b>	1 3.1	5 15.6	15 46.9	18 <b>56.3</b>	4 12.5	0 0.0	0 0.0
	商業・サービス業	95 100.0	38 40.0	22 23.2	28 29.5	22 23.2	2 2.1	26 27.4	41 43.2	44 46.3	13 13.7	2 2.1	2 2.1
	電気・ガス・水道 ・運輸・通信業	20 100.0	11 55.0	2 10.0	9 <b>45.0</b>	1 5.0	1 5.0	4 20.0	8 40.0	7 <b>35.0</b>	0 0.0	1 5.0	2 10.0
	公務員等	35 100.0	16 45.7	10 28.6	10 28.6	9 25.7	2 5.7	4 <b>11.4</b>	15 42.9	17 48.6	5 14.3	1 2.9	1 2.9
	家事 (主婦など)	125 100.0	51 40.8	31 24.8	41 32.8	28 22.4	2 1.6	24 19.2	61 48.8	59 47.2	7 5.6	1 0.8	4 3.2
	無職・学生	75 100.0	31 41.3	11 14.7	33 <b>44.0</b>	19 25.3	1 1.3	19 25.3	28 37.3	37 49.3	2 9.3	2 2.7	4 5.3
	その他	91 100.0	37 40.7	21 23.1	28 30.8	18 19.8	4 4.4	22 24.2	35 38.5	37 40.7	12 13.2	0 0.0	7 7.7

## 22 若者の定住や子育てのために必要なこと（問22）

若者の定住や子育てのために必要なこととしては、「若者の雇用の拡大」42.7%、「子育て支援の充実」39.5%がほぼ並んで高く、次いで「自治会活動などの負担の軽減等」32.5%、「移住希望者への仕事などの情報提供」27.7%、「出産や子どもの医療費助成等の充実」27.3%、「保育料などの減免と教育資金の援助」22.7%、「若者の交流・交際・結婚機会の拡大」21.7%などが続いています。

性別・年齢別にみると、「若者の雇用の拡大」は「60歳代」で、「若者定住のための住宅対策」「保育料などの減免と教育資金の援助」は「30歳代」で、「自治会活動などの負担の軽減等」は「40歳代」で、「子育て支援の充実」、「出産や子どもの医療費助成等の充実」は「10・20歳代」で高くなっています。

若者の定住のために必要なこと（3つに○）



問22 あなたは、少子化が進むまんのう町において、若者の定住や結婚・子育てのためにどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

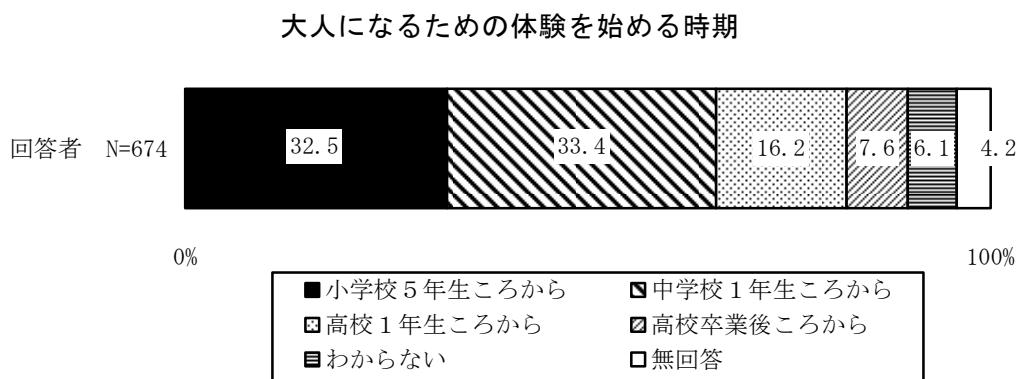
		回答者 人数(人)	割合(%)
1	若者の起業支援、既存企業の経営革新の支援、企業誘致などによる若者の雇用の拡大	288	42.7
2	Uターン(帰郷)や移住希望者に対する仕事や住宅などの情報提供	187	27.7
3	個性的なまちづくりと情報発信、郷土学習による町への誇り意識づくり	57	8.5
4	若者の交流・交際・結婚機会の拡大に向けたクラブ活動やイベントなどの支援	146	21.7
5	若者定住に向けたマンションや住宅地などの整備促進	119	17.7
6	若い世代の自治会活動などの負担の軽減や古いしきたりなどの改善	219	32.5
7	女性の雇用機会の充実と男女共同参画の充実	84	12.5
8	保育所や子育てサークル、子育てしやすい職場環境など子育て支援の充実	266	39.5
9	出産や子どもの医療費の助成制度などの充実	184	27.3
10	保育料などの減免措置と教育ローンなどの資金援助	153	22.7
11	学校教育や地域教育、高等教育などの充実	90	13.4
12	その他	11	1.6
	無回答	30	4.5
	回答者数	674	100.0

性別・年齢別にみた、若者の定住のために必要なこと

		合計	問22若者の定住等のために必要な取組							
			若者の雇用の拡大	移住希望者への仕事などの情報提供	町への誇り意識づくり	若者の交流・交際・結婚機会の拡大	若者定住のための住宅対策	自治会活動などの負担の軽減等	男女共同参画の充実	子育て支援の充実
全体		674 100.0	288 42.7	187 27.7	57 8.5	146 21.7	119 17.7	219 32.5	84 12.5	266 39.5
性別・年齢	男	333 100.0	155 46.5	92 27.6	33 9.9	80 24.0	65 19.5	101 30.3	41 12.3	118 35.4
	女	334 100.0	129 38.6	94 28.1	24 7.2	64 19.2	53 15.9	118 35.3	42 12.6	144 43.1
	10・20歳代	65 100.0	12 18.5	17 26.2	3 4.6	11 16.9	14 21.5	19 29.2	6 9.2	33 50.8
	30歳代	70 100.0	21 30.0	25 35.7	3 4.3	7 10.0	21 30.0	24 34.3	5 7.1	26 37.1
	40歳代	62 100.0	27 43.5	15 24.2	8 12.9	18 29.0	6 9.7	28 45.2	10 16.1	29 46.8
	50歳代	138 100.0	55 39.9	38 27.5	13 9.4	32 23.2	27 19.6	50 36.2	16 11.6	58 42.0
	60歳代	125 100.0	67 53.6	40 32.0	11 8.8	27 21.6	23 18.4	38 30.4	17 13.6	42 33.6
	70歳代	143 100.0	75 52.4	39 27.3	12 8.4	29 20.3	22 15.4	36 25.2	19 13.3	50 35.0
	80歳以上	67 100.0	30 44.8	13 19.4	7 10.4	21 31.3	5 7.5	23 34.3	10 14.9	27 40.3
		合計	出産や子どもの医療費助成等の充実	保育料などの減免と教育資金の援助	学校・地域教育、高等教育の充実	その他	無回答			
全体		674 100.0	184 27.3	153 22.7	90 13.4	11 1.6	30 4.5			
性別・年齢	男	333 100.0	95 28.5	82 24.6	43 12.9	4 1.2	11 3.3			
	女	334 100.0	88 26.3	71 21.3	47 14.1	7 2.1	17 5.1			
	10・20歳代	65 100.0	28 43.1	21 32.3	9 13.8	4 6.2	2 3.1			
	30歳代	70 100.0	21 30.0	28 40.0	12 17.1	1 1.4	1 1.4			
	40歳代	62 100.0	11 17.7	16 25.8	6 9.7	0 0.0	0 0.0			
	50歳代	138 100.0	41 29.7	32 23.2	13 9.4	3 2.2	1 0.7			
	60歳代	125 100.0	31 24.8	24 19.2	17 13.6	2 1.6	4 3.2			
	70歳代	143 100.0	32 22.4	18 12.6	20 14.0	0 0.0	15 10.5			
	80歳以上	67 100.0	20 29.9	14 20.9	13 19.4	1 1.5	6 9.0			

### 23 大人になるための体験を始める時期（問23）

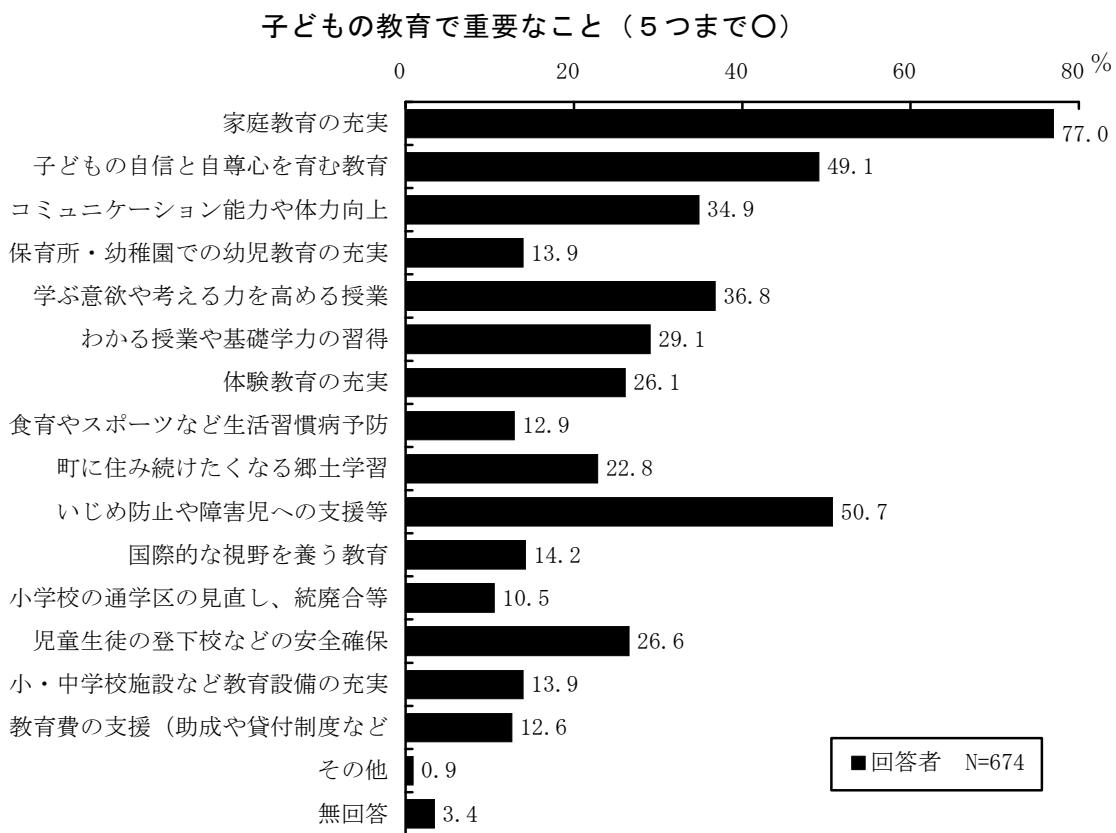
大人になるための体験を始める時期は、「中学校1年生ころから」33.4%、「小学校5年生ころから」32.5%が並んで高く、あとは「高校1年生ころから」16.2%、「高校卒業後から」7.6%です。



### 24 子どもの教育で重要なこと（問24）

子どもの教育で重要なことでは、「家庭教育の充実」が77.0%と飛び抜けて高く、「いじめ防止や障害児への支援等」50.7%、「子どもの自信と自尊心を育む教育」49.1%も5割前後で高い割合です。あとは、「学ぶ意欲や考える力を高める授業」36.8%、「コミュニケーション能力や体力の向上」34.9%、「わかる授業や基礎学力の習得」29.1%、「児童生徒の登下校などの安全確保」26.6%、「体験教育の充実」26.1%、「住み続けたくなる郷土学習」22.8%などが並んでいます。

年齢別にみると、「コミュニケーション能力や体力の向上」は「10・20歳代」で、「わかる授業や基礎学力の習得」は「50歳代」で、「いじめ防止や障害児への支援等」は「30歳代」で平均より高くなっています。



問24 子どもの教育について重要と考えることはどのようなことですか。(5つまで〇)

	回答者 人数(人)	割合(%)
1 家事や家業の手伝い、挨拶、早寝早起き朝ご飯などの家庭教育の充実	519	77.0
2 子どもの自信と自尊心、自立心を育む、ほめて伸ばし、力をつける教育の推進	331	49.1
3 屋外での集団遊びの充実によるコミュニケーション能力や体力の向上	235	34.9
4 保育所・幼稚園での幼児教育の充実	94	13.9
5 興味をかきたてる授業や読書活動など、学ぶ意欲や考える力を高める授業の実施	248	36.8
6 わかる授業や家庭学習習慣の確立による基礎学力の習得	196	29.1
7 町の自然や歴史、仕事、まちづくり、ボランティア活動などの体験教育の充実	176	26.1
8 生活習慣病予防に向けた食育やスポーツ習慣確立に向けた教育の充実	87	12.9
9 町に誇りを持ち、住み続けたいと思うようになる郷土学習の推進	154	22.8
10 いじめのない学校づくりや障害を持つ子どもたちへの支援、教育環境の整備	342	50.7
11 外国語学習や国際交流など国際的な視野を養う教育の推進	96	14.2
12 小学校の適正配置の検討(通学区の見直し、統廃合など)	71	10.5
13 児童生徒の登下校などの安全確保	179	26.6
14 小・中学校施設の整備や、教育設備の充実	94	13.9
15 教育費の支援(助成や貸付制度など)	85	12.6
16 その他	6	0.9
無回答	23	3.4
回答者数	674	100.0

性別・年齢別にみた、子どもの教育で重要なこと

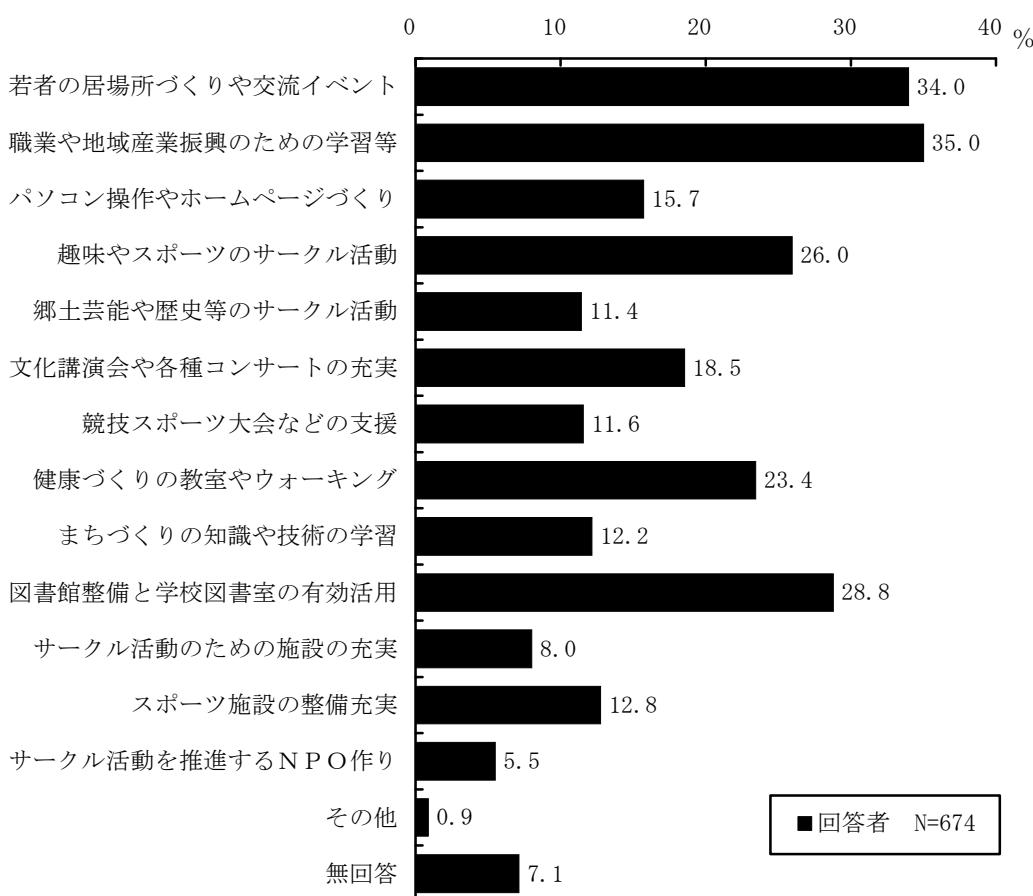
		合計	問24子どもの教育に重要なこと								
			家庭教育の充実	子どもの自信と自尊心を育む教育	コミュニケーション能力や体力向上	保育所・幼稚園での幼児教育の充実	学ぶ意欲や考える力を高める授業	わかる授業や基礎学力の習得	体験教育の充実	食育やスポーツなど生活習慣病予防	町に住み続けたくなる郷土学習
全体		674 100.0	519 77.0	331 49.1	235 34.9	94 13.9	248 36.8	196 29.1	176 26.1	87 12.9	154 22.8
性別・年齢	男	333 100.0	266 79.9	148 44.4	122 36.6	46 13.8	117 35.1	97 29.1	94 28.2	51 15.3	77 23.1
	女	334 100.0	248 74.3	180 53.9	110 32.9	48 14.4	130 38.9	97 29.0	81 24.3	36 10.8	74 22.2
	10・20歳代	65 100.0	38 58.5	20 30.8	31 47.7	11 16.9	29 44.6	20 30.8	18 27.7	12 18.5	8 12.3
	30歳代	70 100.0	44 62.9	33 47.1	27 38.6	8 11.4	27 38.6	19 27.1	17 24.3	10 14.3	9 12.9
	40歳代	62 100.0	48 77.4	31 50.0	19 30.6	1 1.6	24 38.7	21 33.9	22 35.5	12 19.4	9 14.5
	50歳代	138 100.0	108 78.3	64 46.4	60 43.5	18 13.0	65 47.1	34 24.6	42 30.4	17 12.3	28 20.3
	60歳代	125 100.0	106 84.8	70 56.0	42 33.6	20 16.0	50 40.0	35 28.0	33 26.4	17 13.6	37 29.6
	70歳代	143 100.0	121 84.6	75 52.4	43 30.1	22 15.4	43 30.1	45 31.5	27 18.9	15 10.5	42 29.4
	80歳以上	67 100.0	52 77.6	36 53.7	13 19.4	14 20.9	10 14.9	21 31.3	16 23.9	4 6.0	20 29.9
		合計	いじめ防止や障害児への支援等	国際的な視野を養う教育	小学校の通学区の見直し、統廃合等	児童生徒の登下校などの安全確保	小・中学校施設など教育設備の充実	教育費の支援(助成や貸付制度など)	その他	無回答	
全体		674 100.0	342 50.7	96 14.2	71 10.5	179 26.6	94 13.9	85 12.6	6 0.9	23 3.4	
性別・年齢	男	333 100.0	155 46.5	49 14.7	46 13.8	83 24.9	51 15.3	42 12.6	2 0.6	8 2.4	
	女	334 100.0	182 54.5	46 13.8	24 7.2	94 28.1	43 12.9	43 12.9	4 1.2	14 4.2	
	10・20歳代	65 100.0	25 38.5	13 20.0	4 6.2	22 33.8	11 16.9	12 18.5	1 1.5	2 3.1	
	30歳代	70 100.0	43 61.4	14 20.0	7 10.0	21 30.0	12 17.1	9 12.9	1 1.4	1 1.4	
	40歳代	62 100.0	33 53.2	12 19.4	4 6.5	16 25.8	6 9.7	13 21.0	0 0.0	0 0.0	
	50歳代	138 100.0	71 51.4	16 11.6	16 11.6	26 18.8	25 18.1	15 10.9	1 0.7	1 0.7	
	60歳代	125 100.0	66 52.8	16 12.8	16 12.8	33 26.4	9 7.2	11 8.8	1 0.8	4 3.2	
	70歳代	143 100.0	68 47.6	13 9.1	17 11.9	38 26.6	15 10.5	17 11.9	1 0.7	9 6.3	
	80歳以上	67 100.0	35 52.2	11 16.4	7 10.4	23 34.3	16 34.3	8 23.9	1 11.9	5 1.5	7.5

## 25 社会教育や社会体育に望むこと（問25）

社会教育や社会体育に望むこととしては、「職業や地域産業振興のための学習等」35.0%、「若者の居場所づくりや交流イベント」34.0%が高く、「図書館整備と学校図書室の有効活用」28.8%、「趣味やスポーツのサークル活動」26.0%、「健康づくりの教室やウォーキング」23.4%などが続いている。

性別・年齢別にみると、「職業や地域産業振興のための学習等」は「70歳代」で、「文化講演会や各種コンサート」は「40歳代」で、「図書館整備と学校図書室の有効活用」は「10・20歳代」「30歳代」で平均より高くなっています。

社会教育や社会体育に望むこと（3つに○）



問25 あなたが、町の社会教育や社会体育に望むことは何ですか。(3つまで○)

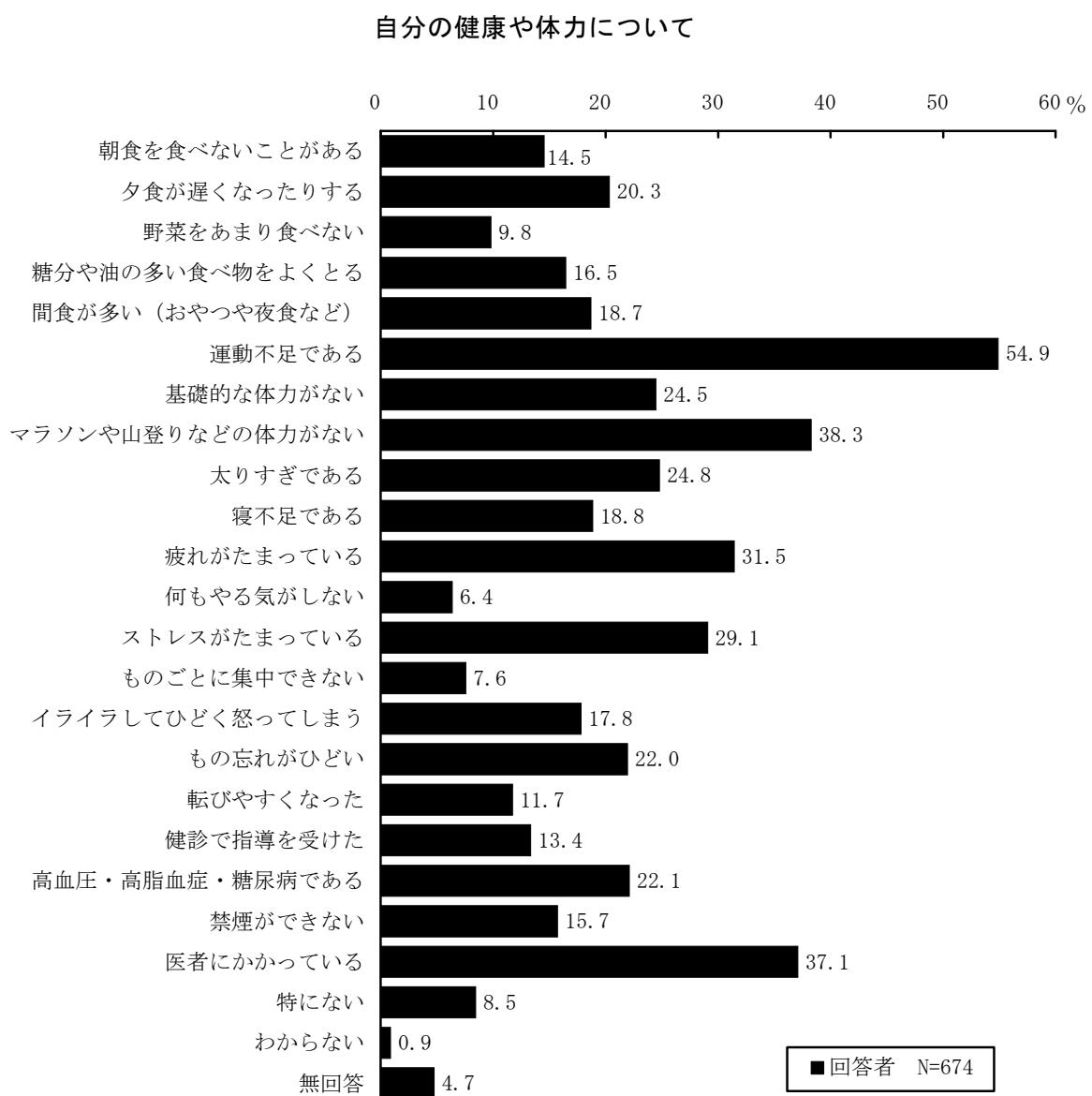
		回答者 人数(人)	割合(%)
1	若者の居場所づくりや交流・イベント	229	34.0
2	職業知識や能力を高める学習や地域産業振興のための学習・交流	236	35.0
3	パソコン操作やホームページづくりなどのスクール	106	15.7
4	趣味やスポーツのクラブ・サークル活動	175	26.0
5	郷土芸能や歴史・文化を学ぶためのクラブ・サークル活動	77	11.4
6	文化講演会や各種コンサートなどの充実	125	18.5
7	競技スポーツ大会などの支援	78	11.6
8	健康づくりの教室やウォーキングなどのクラブ・サークル活動	158	23.4
9	まちづくりの知識や技術を学ぶためのクラブ・サークル活動	82	12.2
10	図書館の整備と学校・公民館図書室の有効活用	194	28.8
11	クラブ・サークル活動のための施設の充実	54	8.0
12	スポーツ施設(グラウンドや体育館など)の整備充実	86	12.8
13	クラブ・サークル活動を推進する住民が中心となったNPO組織づくり	37	5.5
14	その他	6	0.9
	無回答	48	7.1
	回答者数	674	100.0

性別・年齢別にみた、町の社会教育や社会体育に望むこと

		合計	問25社会教育や社会体育に望むこと							
			若者の居場所づくりや交流イベント	職業や地域産業振興のための学習等	パソコン操作やホームページづくり	趣味やスポーツのサークル活動	郷土芸能や歴史等のサークル活動	文化講演会や各種コンサートの充実	競技スポーツ大会などの支援	健康づくりの教室やウォーキング
全体		674 100.0	229 34.0	236 35.0	106 15.7	175 26.0	77 11.4	125 18.5	78 11.6	158 23.4
性別・年齢	男	333 100.0	126 37.8	125 37.5	60 18.0	96 28.8	36 10.8	57 17.1	50 15.0	69 20.7
	女	334 100.0	101 30.2	109 32.6	45 13.5	78 23.4	39 11.7	68 20.4	27 8.1	88 26.3
	10・20歳代	65 100.0	18 27.7	16 <b>24.6</b>	11 16.9	20 30.8	8 12.3	10 15.4	10 15.4	9 13.8
	30歳代	70 100.0	14 <b>20.0</b>	17 <b>24.3</b>	10 14.3	23 32.9	3 4.3	13 18.6	10 14.3	8 <b>11.4</b>
	40歳代	62 100.0	18 29.0	20 32.3	12 19.4	15 24.2	6 9.7	18 <b>29.0</b>	8 12.9	11 17.7
	50歳代	138 100.0	49 35.5	46 33.3	23 16.7	32 23.2	17 12.3	31 22.5	9 6.5	44 31.9
	60歳代	125 100.0	43 34.4	42 33.6	15 12.0	32 25.6	17 13.6	24 19.2	17 13.6	38 30.4
	70歳代	143 100.0	60 42.0	65 <b>45.5</b>	27 18.9	34 23.8	13 9.1	19 13.3	15 10.5	32 22.4
	80歳以上	67 100.0	26 38.8	30 44.8	8 11.9	19 28.4	13 19.4	10 14.9	9 13.4	16 23.9
		合計	まちづくりの知識や技術の学習	図書館整備と学校図書室の有効活用	サークル活動のための施設の充実	スポーツ施設の整備充実	サークル活動を推進するNPO作り	その他	無回答	
性別・年齢	全体	674 100.0	82 12.2	194 28.8	54 8.0	86 12.8	37 5.5	6 0.9	48 7.1	
	男	333 100.0	48 14.4	74 22.2	32 9.6	42 12.6	25 7.5	2 0.6	21 6.3	
	女	334 100.0	33 9.9	120 35.9	22 6.6	43 12.9	12 3.6	3 0.9	25 7.5	
	10・20歳代	65 100.0	4 6.2	27 <b>41.5</b>	10 15.4	17 <b>26.2</b>	4 6.2	2 3.1	3 4.6	
	30歳代	70 100.0	2 2.9	31 <b>44.3</b>	10 14.3	15 21.4	4 5.7	0 0.0	3 4.3	
	40歳代	62 100.0	5 8.1	23 37.1	7 11.3	9 14.5	2 3.2	0 0.0	1 1.6	
	50歳代	138 100.0	19 13.8	38 27.5	12 8.7	17 12.3	5 3.6	2 1.4	3 2.2	
	60歳代	125 100.0	23 18.4	33 26.4	10 8.0	11 8.8	10 8.0	0 0.0	8 6.4	
	70歳代	143 100.0	15 10.5	31 21.7	3 2.1	14 9.8	9 6.3	1 0.7	17 11.9	
	80歳以上	67 100.0	13 19.4	11 <b>16.4</b>	2 3.0	3 4.5	2 3.0	1 1.5	11 16.4	

## 26 自分の健康や体力について（問26）

自分の健康や体力については、「運動不足である」54.9%が最も高く、あとは「マラソンや山登りなどの体力がない」38.3%、「医者にかかっている」37.1%、「疲れがたまっている」31.5%、「ストレスがたまっている」29.1%などがあげられています。



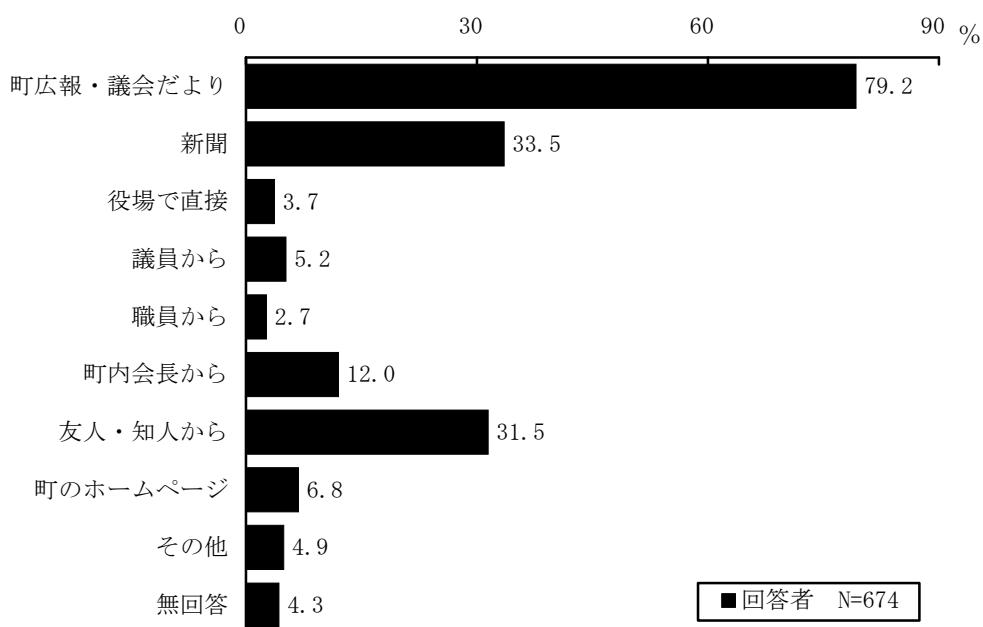
## 27 町に関する情報源（問27）

町に関する情報を主に何から得ているかでは、「町広報・議会だより」が 79.2%と飛び抜けて高く、あとは「新聞」33.5%、「友人・知人から」31.5%などです。

「議員から」5.2%と「町内会長から」12.0%を合わせると、2割弱になります。「職員から」2.7%、「役場で直接」3.7%はともに低く、「町のホームページ」は6.8%です。

性別・年齢別にみると、「新聞」は「80歳以上」、「友人・知人から」は、「10・20歳代」で高くなっています。

町に関する情報源（すべてに○）



性別・年齢別にみた、町に関する情報源

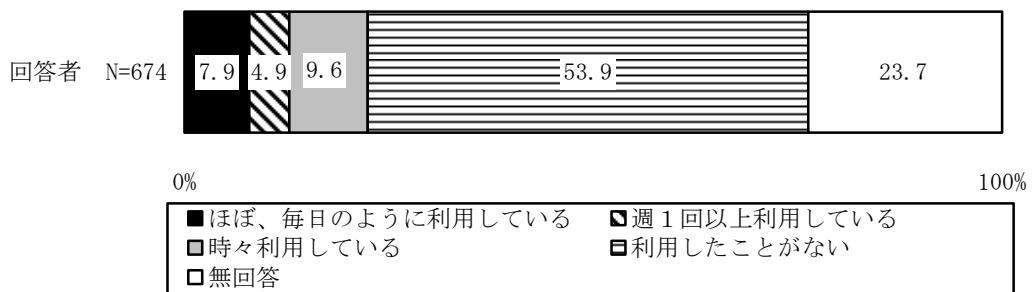
		合計	問27町に関する情報源										
性別	・年齢		町広報・議会だより	新聞	役場で直接	議員から	職員から	町内会長から	友人・知人から	町のホームページ	その他	無回答	
	全体	674 100.0	534 79.2	226 33.5	25 3.7	35 5.2	18 2.7	81 12.0	212 31.5	46 6.8	33 4.9	29 4.3	
性別	男		333 100.0	267 80.2	121 36.3	20 6.0	26 7.8	8 2.4	44 13.2	100 30.0	29 8.7	10 3.0	9 2.7
	女		334 100.0	263 78.7	104 31.1	4 1.2	9 2.7	10 3.0	33 9.9	110 32.9	17 5.1	23 6.9	20 6.0
年齢	10・20歳代		65 100.0	35 53.8	13 20.0	1 1.5	0 0.0	3 4.6	1 1.5	27 41.5	6 9.2	10 15.4	4 6.2
	30歳代		70 100.0	53 75.7	17 24.3	0 0.0	1 1.4	3 4.3	2 2.9	22 31.4	3 4.3	5 7.1	1 1.4
	40歳代		62 100.0	55 88.7	15 24.2	2 3.2	1 1.6	0 0.0	4 6.5	16 25.8	7 11.3	1 1.6	1 1.6
	50歳代		138 100.0	117 84.8	39 28.3	7 5.1	8 5.8	5 3.6	19 13.8	37 26.8	9 6.5	5 3.6	4 2.9
	60歳代		125 100.0	111 88.8	47 37.6	5 4.0	8 6.4	0 0.0	16 12.8	47 37.6	5 4.0	3 2.4	0 0.0
	70歳代		143 100.0	115 80.4	59 41.3	6 4.2	14 9.8	4 2.8	27 18.9	43 30.1	10 7.0	5 3.5	10 7.0
	80歳以上		67 100.0	46 68.7	36 53.7	4 6.0	3 4.5	3 4.5	10 14.9	20 29.9	6 9.0	4 6.0	9 13.4

## 28 パソコンによるインターネットの利用頻度（問28）

パソコンによるインターネットの利用は、「ほぼ、毎日のように利用している」7.9%、「週1回以上利用している」4.9%、「時々利用している」9.6%で、あわせると利用している人は22.4%になりますが、前項の町の情報を「町のホームページ」で得ている人は6.8%にとどまります。また、「利用したことがない」は53.9%です。

性別・年齢別に利用している人をあわせてみると、「10・20歳代」53.8%、「30歳代」48.5%、「40歳代」50.1%ですが、「50歳代」では23.1%、「60歳代」で8.8%などと、50歳代以上は年齢とともに低下しています。職業別の利用している割合は、「公務員等」は62.9%と高く、あとは「電気・ガス・水道・運輸・通信業」45.0%、「商業・サービス業」34.7%、「製造業」30.8%などです。

パソコンによるインターネットの利用頻度



性別・年齢別・職業別にみた、PCによるインターネットの利用頻度

	合計	問28パソコンでのメールやHPの閲覧				
		ほぼ、毎日のように利用している	週1回以上利用している	時々利用している	利用したことがない	無回答
全体	674 100.0	53 7.9	33 4.9	65 9.6	363 53.9	160 23.7
性別	男 100.0	333 100.0	35 10.5	21 6.3	33 9.9	178 53.5
・年齢	女 100.0	334 100.0	18 5.4	12 3.6	32 9.6	182 54.5
・職業	10・20歳代 100.0	65 100.0	11 16.9	11 16.9	13 20.0	17 26.2
	30歳代 100.0	70 100.0	15 21.4	7 10.0	12 17.1	21 30.1
	40歳代 100.0	62 100.0	12 19.4	5 8.1	14 22.6	26 41.8
	50歳代 100.0	138 100.0	12 8.7	6 4.3	14 10.1	81 58.8
	60歳代 100.0	125 100.0	1 0.8	3 2.4	7 5.6	87 69.6
	70歳代 100.0	143 100.0	1 0.7	1 0.7	5 3.5	85 59.4
	80歳以上 100.0	67 100.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	43 64.2
	農林業 100.0	119 100.0	4 3.4	1 0.8	1 0.8	72 60.5
	製造業 100.0	65 100.0	7 10.8	7 10.8	6 9.2	35 53.8
	建設業 100.0	32 100.0	2 6.3	2 6.3	2 6.3	18 56.1
	商業・サービス業 100.0	95 100.0	14 14.7	5 5.3	14 14.7	52 54.8
	電気・ガス・水道 ・運輸・通信業 100.0	20 5.0	1 5.0	1 5.0	7 35.0	9 45.0
	公務員等 100.0	35 22.9	8 17.1	6 22.9	8 22.9	9 25.7
	家事（主婦など） 100.0	125 100.0	5 4.0	4 3.2	10 8.0	68 54.4
	無職・学生 100.0	75 6.7	5 4.0	3 6.7	5 6.7	41 54.6
	その他 100.0	91 100.0	7 7.7	3 3.3	10 11.0	52 57.1

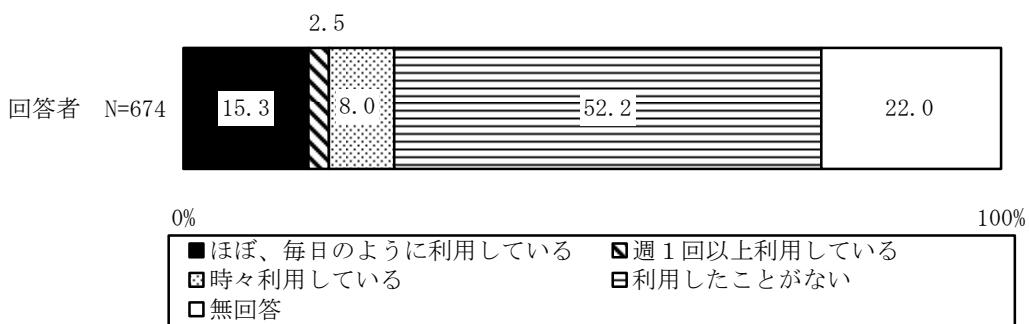
## 29 携帯電話によるインターネットの利用頻度（問29）

携帯電話によるインターネットの利用は、「ほぼ、毎日のように利用している」15.3%、「週1回以上利用している」2.5%、「時々利用している」8.0%で、利用している人はあわせて25.8%です。一方、「利用したことがない」は52.2%です。

性別・年齢別にみると、「ほぼ毎日のように利用している」は、「10・20歳代」「30歳代」で、「利用したことがない」は「60歳代」以上で高くなっています。

職業別でみると、「ほぼ毎日のように利用している」は「製造業」で、「時々利用している」は「電気・ガス・水道・運輸・通信業」で高くなっています。

携帯電話によるインターネットの利用頻度



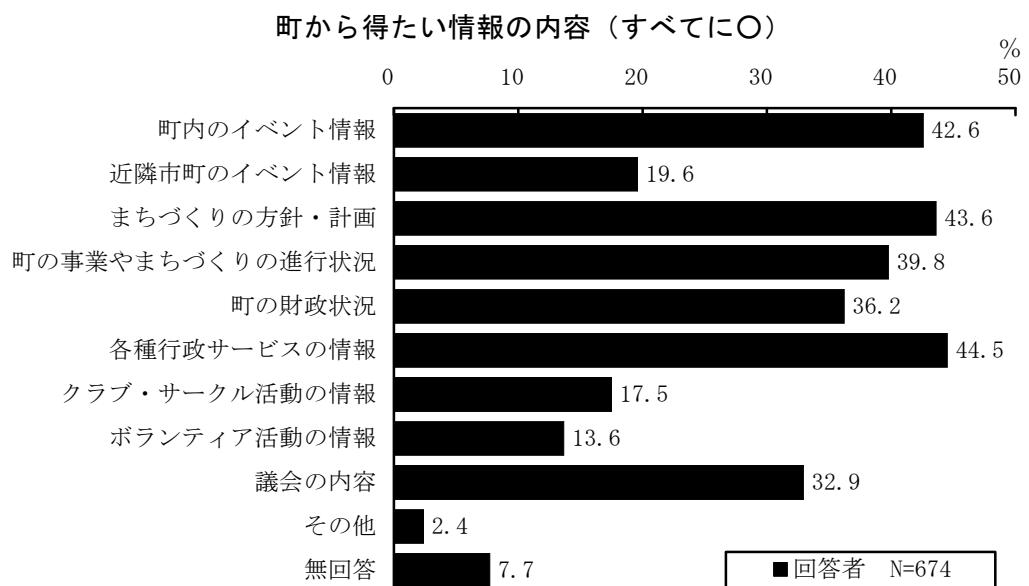
性別・年齢別・職業別にみた、携帯によるインターネットの利用頻度

		合計	問29携帯電話でのメールやHPの閲覧				
性別	年齢		ほぼ、毎日のように利用している	週1回以上利用している	時々利用している	利用したことがない	無回答
全体		674 100.0	103 15.3	17 2.5	54 8.0	352 52.2	148 22.0
性別	男	333 100.0	45 13.5	12 3.6	32 9.6	169 50.8	75 22.5
・年齢	女	334 100.0	57 17.1	5 1.5	20 6.0	181 54.1	71 21.3
・職業	10・20歳代	65 100.0	34 <b>52.3</b>	4 6.2	7 10.8	11 <b>16.9</b>	9 13.8
	30歳代	70 100.0	28 <b>40.0</b>	4 5.7	8 11.4	20 <b>28.6</b>	10 14.3
	40歳代	62 100.0	12 19.4	2 3.2	10 16.1	29 46.8	9 14.5
	50歳代	138 100.0	16 11.6	3 2.2	12 8.7	82 59.4	25 18.1
	60歳代	125 100.0	5 <b>4.0</b>	3 2.4	7 5.6	84 <b>67.2</b>	26 20.8
	70歳代	143 100.0	7 <b>4.9</b>	1 0.7	6 4.2	83 58.0	46 <b>32.2</b>
	80歳以上	67 100.0	1 <b>1.5</b>	0 0.0	3 4.5	41 61.2	22 <b>32.8</b>
農林業		119 100.0	8 6.7	1 0.8	7 5.9	69 58.0	34 28.6
製造業		65 100.0	18 <b>27.7</b>	4 6.2	4 6.2	31 47.6	8 12.3
建設業		32 100.0	4 12.5	0 0.0	3 9.4	15 46.8	10 31.3
商業・サービス業		95 100.0	21 22.1	0 0.0	8 8.4	51 53.7	15 15.8
電気・ガス・水道・運輸・通信業		20 100.0	4 20.0	2 10.0	4 <b>20.0</b>	8 <b>40.0</b>	2 <b>10.0</b>
公務員等		35 100.0	7 20.0	3 8.6	4 11.4	14 40.0	7 20.0
家事（主婦など）		125 100.0	14 11.2	3 2.4	13 10.4	64 51.2	31 24.8
無職・学生		75 100.0	11 14.7	1 1.3	4 5.3	41 54.7	18 24.0
その他		91 100.0	16 17.6	3 3.3	6 6.6	50 54.9	16 17.6

### 30 町から得たい情報の内容（問30）

町から得たい情報の内容では、「各種行政サービスの情報」44.5%、「まちづくりの方針・計画」43.6%、「町内のイベント情報」42.6%がほぼ並び、「町の事業やまちづくりの進行状況」39.8%、「町の財政状況」36.2%、「議会の内容」32.9%などが続いています。

性別・年齢別では、「町内のイベント情報」は「10・20歳代」「30歳代」「40歳代」、「近隣市町のイベント情報」は「30歳代」、「町の財政状況」は「40歳代」、「各種行政サービスの情報」は「50歳代」、「クラブ・サークル活動の情報」は「10・20歳代」で平均より高くなっています。



### 性別・年齢別にみた、町から得たい情報の内容

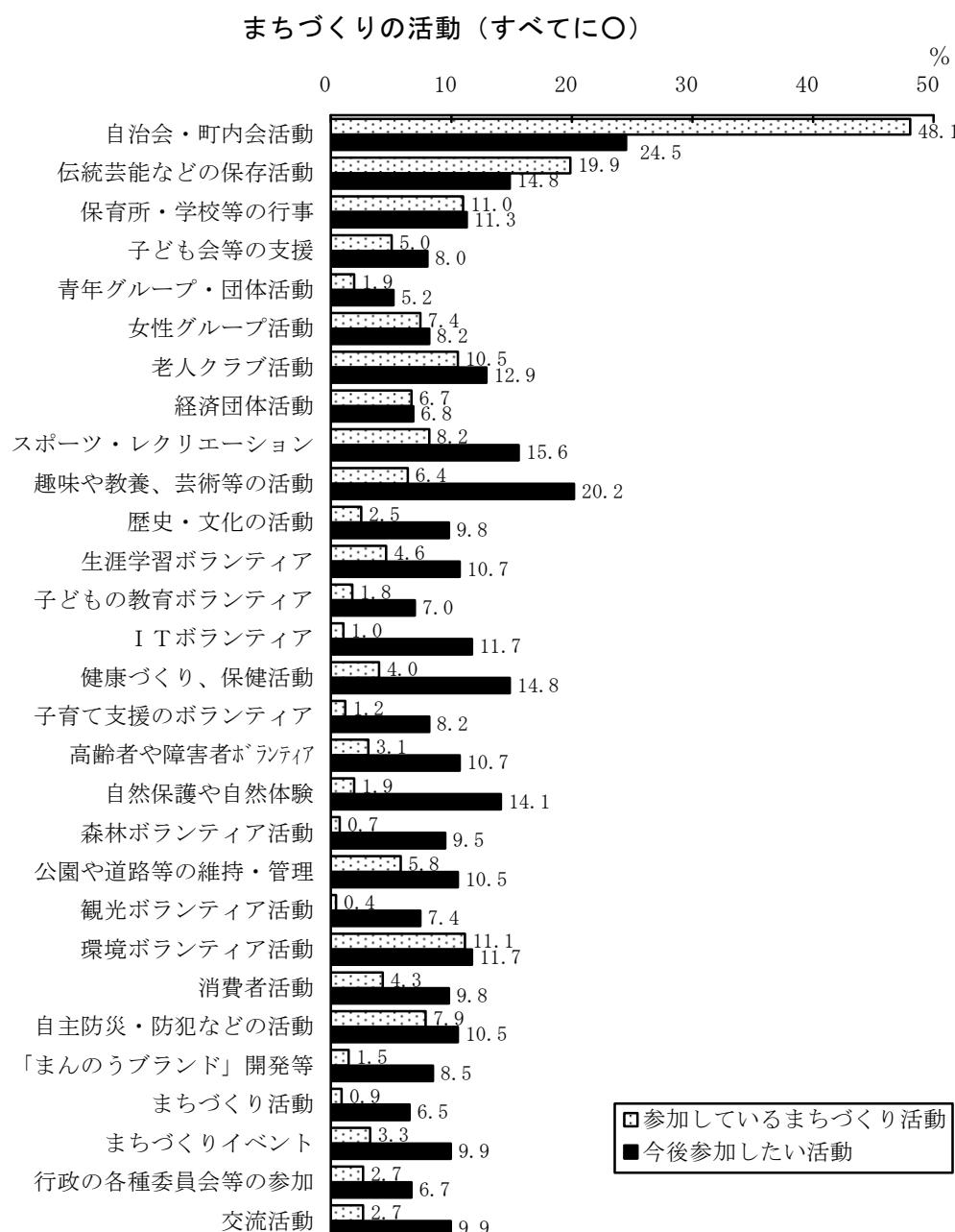
		合計	問30町から得たい情報										
性別	年齢		町内のイベント情報	近隣市町のイベント情報	まちづくりの方針・計画	町の事業やまちづくりの進行状況	町の財政状況	各種行政サービスの情報	クラブ・サークル活動の情報	ボランティア活動の情報	議会の内容	その他	無回答
	全体	674	287	132	294	268	244	300	118	92	222	16	
		100.0	42.6	19.6	43.6	39.8	36.2	44.5	17.5	13.6	32.9	2.4	
性別	男		333	133	53	174	147	136	148	59	37	136	7
	女		100.0	39.9	15.9	52.3	44.1	40.8	44.4	17.7	11.1	40.8	2.1
年齢	10・20歳代		334	151	77	117	118	105	148	59	55	85	9
	30歳代		100.0	45.2	23.1	35.0	35.3	31.4	44.3	17.7	16.5	25.4	2.7
年齢	40歳代		65	35	17	19	17	21	22	22	13	13	6
	50歳代		100.0	53.8	26.2	29.2	26.2	32.3	33.8	33.8	20.0	20.0	7.7
年齢	60歳代		70	44	22	24	22	35	19	8	13	1	2
	70歳代		100.0	62.9	31.4	34.3	31.4	31.4	50.0	27.1	11.4	18.6	1.4
年齢	80歳以上		125	33	14	25	23	16	27	15	8	16	0
	80歳以上		100.0	53.2	22.6	40.3	37.1	25.8	43.5	24.2	12.9	25.8	0.0
年齢	80歳以上		138	59	33	59	46	51	81	22	14	54	2
	80歳以上		100.0	42.8	23.9	42.8	33.3	37.0	58.7	15.9	10.1	39.1	4.3
年齢	80歳以上		143	50	11	75	70	52	51	8	20	57	1
	80歳以上		100.0	35.0	7.7	52.4	49.0	36.4	35.7	5.6	14.0	39.9	19
年齢	80歳以上		67	23	14	28	31	21	24	9	11	21	2
	80歳以上		100.0	34.3	20.9	41.8	46.3	31.3	35.8	13.4	16.4	31.3	14

### 31 まちづくりの活動（問31.32）

「参加しているまちづくり活動」は、「自治会・町内会活動」48.1%が飛び抜けて高く、あとは「伝統芸能や祭りなどの保存活動」19.9%、「環境ボランティア活動」11.0%、「老人クラブ活動」10.5%などが高くなっています。

「今後参加したい活動」としては、「自治会・町内会活動」24.5%、「趣味や教養、芸術等の活動」20.2%、「スポーツ・レクリエーション」15.6%、「伝統芸能や祭りなどの保存活動」14.8%、「健康づくり、保健活動」14.8%などです。

「趣味や教養、芸術等の活動」「自然保護や自然体験」「健康づくり、保健活動」「ITボランティア」をはじめほとんどの活動が活発化すると予想されます。逆に「自治会・町内会活動」「伝統芸能や祭りなどの保存活動」は活動の低下が懸念されます。

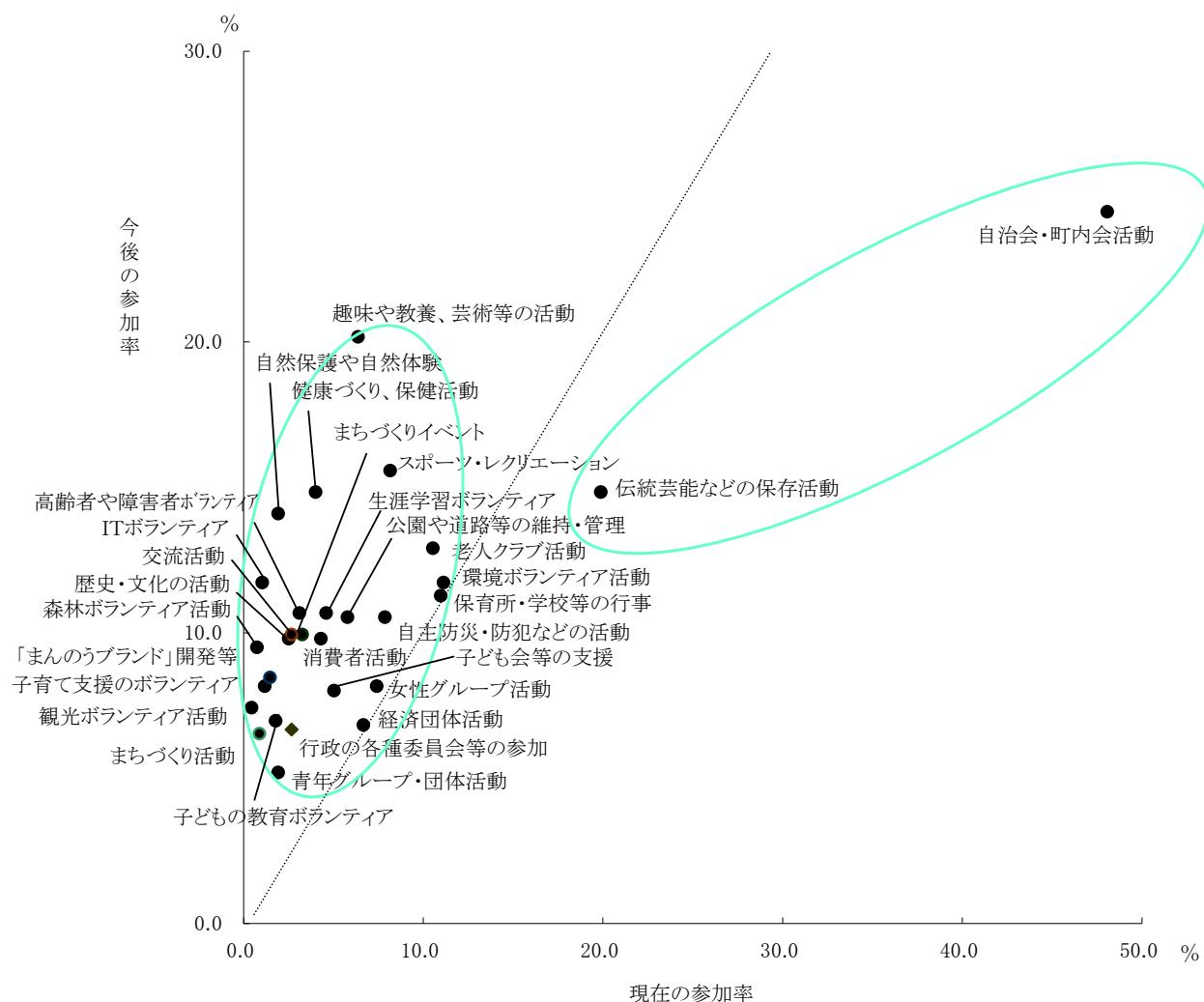


「参加しているまちづくり活動」と「今後参加したい活動」をあわせてみると、多くの活動で現在の参加より今後の参加の方が多くなり、多様なクラブ活動やまちづくり活動が活発化すると考えられます。反対に、全員参加型の「自治会・町内会活動」は、参加率が減る可能性があります。

参加している活動を年齢別に見ると、「自治会・町内会活動」は「40歳代」「50歳代」「60歳代」で、「保育園・幼稚園・学校の行事」は「30歳代」「40歳代」で、「子ども会やスポーツ少年団等の活動」は「30歳代」で高くなっています。

参加したい活動は、「自治会・町内会活動」は「50歳代」で、「伝統芸能や祭りなどの保存活動」「スポーツ・レクリエーション」「趣味や教養、芸術等の活動」は「10・20歳代」で、「保育園・幼稚園・学校の行事」は「10・20歳代」「30歳代」で、「老人クラブ」は「70歳代」で高くなっています。

### まちづくり活動参加意向の今後の動き



問31・32 自治会や何らかのグループの組織に加わって、まちづくり活動に参加していますか。また、今後、参加したい(あるいは、続けたい)でしょうか。現在参加している活動、今後参加したい活動のすべてに○を付けてください。

回答者  
(現在参加し(今後参加している活動)たい活動)

		割合(%)	割合(%)
1	自治会・町内会活動	48.1	24.5
2	伝統芸能や祭りなどの保存活動	19.9	14.8
3	保育所・幼稚園・学校(PTA活動など)の行事	11.0	11.3
4	子ども会やスポーツ少年団、青少年の自主活動などの支援	5.0	8.0
5	青年グループ・団体活動	1.9	5.2
6	女性の会など女性グループ・団体活動	7.4	8.2
7	老人クラブ活動	10.5	12.9
8	JA、森林組合、商工会などの経済団体活動	6.7	6.8
9	スポーツ・レクリエーション活動	8.2	15.6
10	趣味や教養、芸術などのクラブ・サークル活動	6.4	20.2
11	歴史・文化の学習、調査、保存活動	2.5	9.8
12	生涯学習や読書、公民館活動などのボランティア活動	4.6	10.7
13	子どもの遊びや体験活動、教育などのボランティア活動	1.8	7.0
14	パソコンの研修などのIT(情報通信)ボランティア活動	1.0	11.7
15	食育など健康づくり、保健・医療、衛生などの保健活動	4.0	14.8
16	子育て支援のボランティア活動	1.2	8.2
17	高齢者や障害者へのボランティア活動	3.1	10.7
18	自然の保護や自然体験、花植えなどのボランティア活動	1.9	14.1
19	里山の保全や植林、林業体験などの森林ボランティア活動	0.7	9.5
20	公園や道路、河川の維持・管理などのボランティア活動	5.8	10.5
21	うどん打ち体験や観光ガイドなど観光ボランティア活動	0.4	7.4
22	ごみのリサイクルや地球環境保全などの環境ボランティア活	11.1	11.7
23	共同購入、食べ物の安全性などの消費者活動	4.3	9.8
24	自主防災や防火、防犯、交通安全などのボランティア活動	7.9	10.5
25	特産品・名物料理などの「まんのうブランド」開発・販売	1.5	8.5
26	まちづくり活動(研究会、情報発信、人材育成など)	0.9	6.5
27	まちづくりイベントの主催・協力・参加	3.3	9.9
28	行政の各種委員会等への参加	2.7	6.7
29	他地域の人々との交流活動や国際交流	2.7	9.9
	無回答	37.7	39.9
	回答者数	100.0	100.0

## 年齢別にみた、参加している活動

		合計	問31現在、参加している活動									
			自治会・町内会活動	伝統芸能や祭りなどの保存活動	保育所・幼稚園・学校の行事	子ども会やスポーツ少年団等の支援	青年グループ・団体活動	女性の会など女性グループ活動	老人クラブ活動	JA、森林組合などの経済団体活動	スポーツ・レクリエーション活動	趣味や教養、芸術などの活動
全体		674 100.0	324 48.1	134 19.9	74 11.0	34 5.0	13 1.9	50 7.4	71 10.5	45 6.7	55 8.2	43 6.4
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	6 9.2	4 6.2	9 13.8	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.1	1 1.5
	30歳代	70 100.0	18 25.7	18 25.7	28 40.0	13 18.6	2 2.9	1 1.4	0 0.0	1 1.4	10 14.3	2 2.9
	40歳代	62 100.0	37 59.7	14 22.6	14 22.6	4 6.5	0 0.0	9 14.5	0 0.0	1 1.6	4 6.5	2 3.2
	50歳代	138 100.0	95 68.8	39 28.3	9 6.5	7 5.1	5 3.6	14 10.1	2 1.4	13 9.4	4 9.4	4 2.9
	60歳代	125 100.0	75 60.0	24 19.2	5 4.0	2 1.6	1 0.8	12 9.6	16 12.8	15 12.0	12 9.6	12 9.6
	70歳代	143 100.0	74 51.7	25 17.5	5 3.5	4 2.8	4 2.8	13 9.1	34 23.8	11 7.7	10 7.0	15 10.5
	80歳以上	67 100.0	19 28.4	10 14.9	3 4.5	3 4.5	1 1.5	1 1.5	19 28.4	4 6.0	4 6.0	7 10.4
		合計	歴史・文化の学習、調査、保存活動	生涯学習や読書などのボランティア	子どもの教育などのボランティア	ITボランティア	健康づくり、保健活動	子育て支援のボランティア	高齢者や障害者へのボランティア	自然保護や自然体験などの活動	森林ボランティア活動	公園や道路、河川の維持・管理活動
全体		674 100.0	17 2.5	31 4.6	12 1.8	7 1.0	27 4.0	8 1.2	21 3.1	13 1.9	5 0.7	39 5.8
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30歳代	70 100.0	0 0.0	2 2.9	3 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	62 100.0	1 1.6	3 4.8	1 1.6	1 1.6	1 1.6	2 3.2	2 3.2	2 3.2	0 0.0	2 3.2
	50歳代	138 100.0	5 3.6	5 3.6	1 0.7	3 2.2	3 2.2	2 1.4	4 2.9	4 2.9	2 1.4	15 10.9
	60歳代	125 100.0	4 3.2	6 4.8	1 0.8	2 1.6	10 8.0	2 1.6	7 5.6	3 2.4	2 1.6	9 7.2
	70歳代	143 100.0	5 3.5	13 9.1	2 1.4	1 0.7	9 6.3	1 0.7	5 3.5	2 1.4	0 0.0	11 7.7
	80歳以上	67 100.0	2 3.0	2 3.0	3 4.5	0 0.0	3 4.5	1 1.5	2 3.0	2 3.0	1 1.5	2 3.0
		合計	観光ボランティア活動	環境ボランティア活動	食べ物の安全・性などの消費者活動	自主防災・防犯などのボランティア	「まんのうプラン」開発・販売	まちづくり活動	まちづくりイベントの主催・協力等	行政の各種委員会等への参加	他地域や国際間の交流	無回答
全体		674 100.0	3 0.4	75 11.1	29 4.3	53 7.9	10 1.5	6 0.9	22 3.3	18 2.7	18 2.7	254 37.7
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	48 73.8
	30歳代	70 100.0	0 0.0	2 2.9	0 0.0	4 5.7	0 0.0	0 0.0	3 4.3	1 1.4	2 2.9	26 37.1
	40歳代	62 100.0	0 0.0	2 3.2	4 6.5	6 9.7	0 0.0	1 1.6	2 3.2	0 0.0	2 3.2	16 25.8
	50歳代	138 100.0	0 0.0	21 15.2	9 6.5	16 11.6	2 1.4	2 1.4	4 2.9	5 3.6	2 1.4	34 24.6
	60歳代	125 100.0	0 0.0	22 17.6	8 6.4	14 11.2	4 3.2	0 0.0	7 5.6	7 5.6	5 4.0	36 28.8
	70歳代	143 100.0	3 2.1	19 13.3	5 3.5	10 7.0	3 2.1	2 1.4	3 2.1	4 2.8	3 2.1	57 39.9
	80歳以上	67 100.0	0 0.0	9 13.4	2 3.0	3 4.5	1 1.5	1 1.5	3 4.5	1 1.5	3 4.5	34 50.7

## 年齢別にみた、参加したい活動

		問32今後、参加したい・続けたい活動										
		合計	自治会・町内会活動	伝統芸能や祭りなどの保存活動	保育所・幼稚園・学校の行事	子ども会やスポーツ少年団等の支援	青年グループ・団体活動	女性の会など女性グループ活動	老人クラブ活動	JJA、森林組合などの経済団体活動	スポーツ・レクリエーション活動	趣味や教養、芸術などの活動
全体		674 100.0	165 24.5	100 14.8	76 11.3	54 8.0	35 5.2	55 8.2	87 12.9	46 6.8	105 15.6	136 20.2
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	12 18.5	18 27.7	15 23.1	9 13.8	8 12.3	3 4.6	4 6.2	4 6.2	18 27.7	21 32.3
	30歳代	70 100.0	9 12.9	14 20.0	19 27.1	10 14.3	5 7.1	6 8.6	4 5.7	7 10.0	16 22.9	14 20.0
	40歳代	62 100.0	12 19.4	9 14.5	7 11.3	5 8.1	2 3.2	5 8.1	1 1.6	2 3.2	12 19.4	18 29.0
	50歳代	138 100.0	53 38.4	25 18.1	16 11.6	14 10.1	10 7.2	16 11.6	11 8.0	13 9.4	28 20.3	33 23.9
	60歳代	125 100.0	33 26.4	18 14.4	14 11.2	11 8.8	7 5.6	15 12.0	22 17.6	13 10.4	19 15.2	25 20.0
	70歳代	143 100.0	37 25.9	11 7.7	4 2.8	3 2.1	1 0.7	8 5.6	35 24.5	5 3.5	11 7.7	21 14.7
	80歳以上	67 100.0	9 13.4	5 7.5	1 1.5	2 3.0	2 3.0	2 3.0	10 14.9	2 3.0	1 1.5	4 6.0
		合計	歴史・文化の学習・調査・保存活動	生涯学習や読書などのボランティア	子どもの教育などのボランティア	ITボランティア	健康づくり、保健活動	子育て支援のボランティア	高齢者や障害者へのボランティア	自然保護や自然体験などの活動	森林ボランティア活動	公園や道路、河川の維持・管理活動
全体		674 100.0	66 9.8	72 10.7	47 7.0	79 11.7	100 14.8	55 8.2	72 10.7	95 14.1	64 9.5	71 10.5
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	8 12.3	11 16.9	11 16.9	8 12.3	15 23.1	11 16.9	9 13.8	9 13.8	7 10.8	7 10.8
	30歳代	70 100.0	4 5.7	7 10.0	9 12.9	15 21.4	10 14.3	8 11.4	6 8.6	7 10.0	9 12.9	8 11.4
	40歳代	62 100.0	4 6.5	5 8.1	2 3.2	8 12.9	7 11.3	2 3.2	3 4.8	10 16.1	5 8.1	3 4.8
	50歳代	138 100.0	23 16.7	19 13.8	9 6.5	22 15.9	33 23.9	18 13.0	20 14.5	32 23.2	20 14.5	23 16.7
	60歳代	125 100.0	15 12.0	16 12.8	11 8.8	16 12.8	16 12.8	10 8.0	18 14.4	26 20.8	15 12.0	18 14.4
	70歳代	143 100.0	8 5.6	12 8.4	3 2.1	8 5.6	15 10.5	4 2.8	12 8.4	10 7.0	4 2.8	10 7.0
	80歳以上	67 100.0	4 6.0	2 3.0	2 3.0	2 3.0	4 6.0	2 3.0	4 6.0	1 1.5	4 6.0	2 3.0
		合計	観光ボランティア活動	環境ボランティア活動	食べ物の安全性などの消費者活動	自主防災・防犯などのボランティア	「まんのうプラン」開発・販売	まちづくり活動	まちづくりイベントの主催・協力等	行政の各種委員会等への参加	他地域や国際間の交流	無回答
全体		674 100.0	50 7.4	79 11.7	66 9.8	71 10.5	57 8.5	44 6.5	67 9.9	45 6.7	67 9.9	269 39.9
問 2 年 齢	10・20歳代	65 100.0	7 10.8	7 10.8	8 12.3	7 10.8	6 9.2	7 10.8	7 10.8	5 7.7	13 20.0	23 35.4
	30歳代	70 100.0	5 7.1	8 11.4	7 10.0	12 17.1	6 8.6	4 5.7	7 10.0	3 4.3	10 14.3	20 28.6
	40歳代	62 100.0	5 8.1	3 4.8	6 9.7	6 9.7	4 6.5	4 6.5	8 12.9	2 3.2	9 14.5	22 35.5
	50歳代	138 100.0	13 9.4	25 18.1	16 11.6	16 11.6	15 10.9	14 10.1	17 12.3	12 8.7	10 7.2	41 29.7
	60歳代	125 100.0	13 10.4	20 16.0	16 12.8	18 14.4	17 13.6	10 8.0	17 13.6	14 11.2	17 13.6	41 32.8
	70歳代	143 100.0	6 4.2	15 10.5	8 5.6	11 7.7	7 4.9	4 2.8	8 5.6	6 4.2	6 4.2	71 49.7
	80歳以上	67 100.0	1 1.5	1 1.5	5 7.5	1 1.5	2 3.0	1 1.5	3 4.5	3 4.5	2 3.0	47 70.1

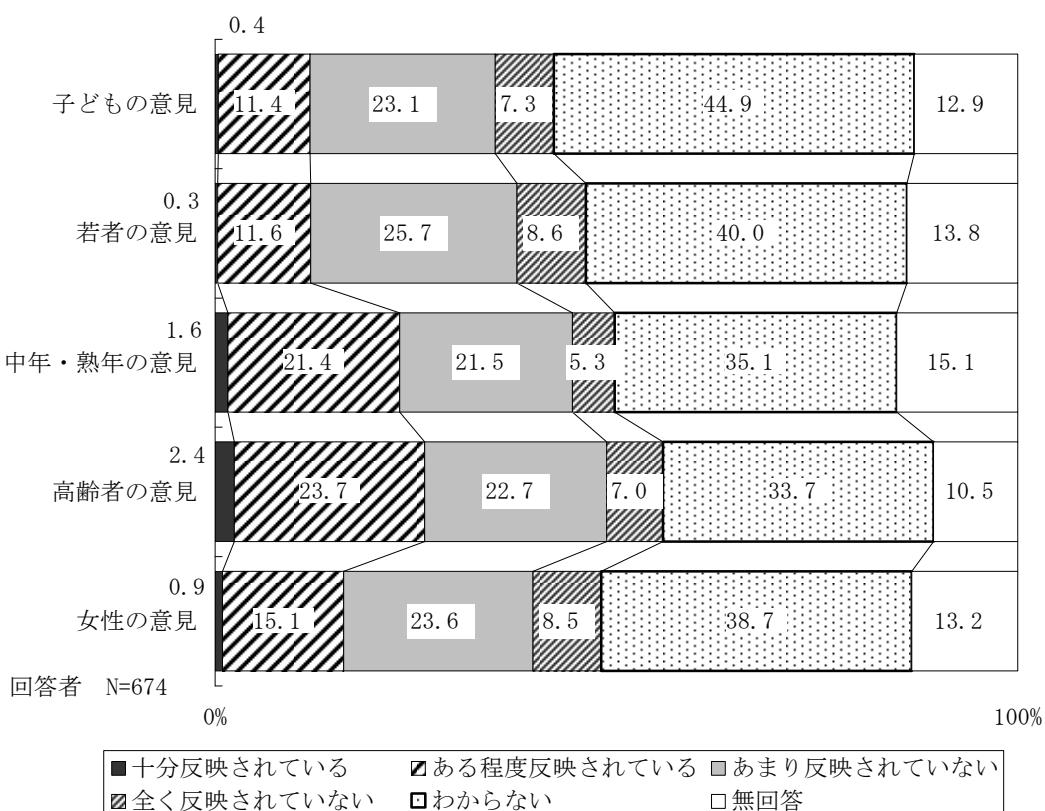
## 32 政策への意見の反映（問33）

政策へ意見が「十分反映されている」は各層ともに低く、「高齢者の意見」2.4%、「中年・熟年の意見」1.6%などです。「ある程度反映されている」もあわせると、「高齢者の意見」は26.1%、「中年・熟年の意見」23.0%、「女性の意見」16.0%ですが、その他の層では1割程度です。

一方、「あまり反映されていない」「全く反映されていない」をあわせると、「若者の意見」34.3%、「女性の意見」32.1%、「子どもの意見」30.4%をはじめすべての世代で3割前後になります。

年齢別にみると、「子どもの意見」が「あまり反映されていない」は「40歳代」で、「全く反映されていない」は「10・20歳代」で高く、「若者の意見」が「あまり反映されていない」は「40歳代」で、「全く反映されていない」は「10・20歳代」で高くなっています。「高齢者の意見」が「ある程度反映されている」は「10・20歳代」で平均より高い割合です。

政策への意見の反映



## 性別・年齢別にみた、政策への意見の反映

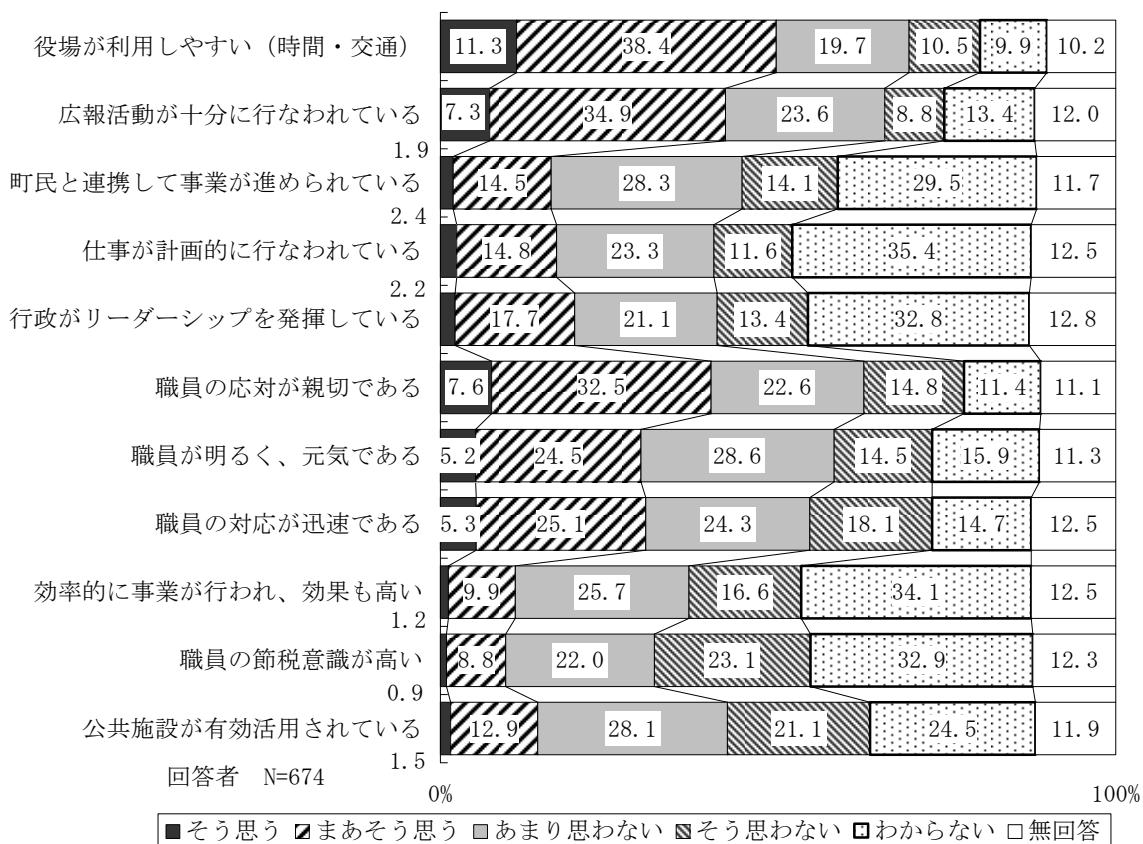
		合計	33-1 子どもの意見						33-2 若者の意見					
			十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	わからない	無回答	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	全く反映されていない	わからない	無回答
全体		674 100.0	3 0.4	77 11.4	156 23.1	49 7.3	302 44.9	87 12.9	2 0.3	78 11.6	173 25.7	58 8.6	270 40.0	93 13.8
性別・年齢	男	333 100.0	2 0.6	41 12.3	81 24.3	24 7.2	147 44.2	38 11.4	0 0.0	46 13.8	83 24.9	31 9.3	130 39.1	43 12.9
	女	334 100.0	1 0.3	36 10.8	75 22.5	25 7.5	151 45.1	46 13.8	2 0.6	31 9.3	89 26.6	27 8.1	138 41.3	47 14.1
	10・20歳代	65 100.0	0 0.0	9 13.8	18 27.7	12 18.5	24 36.9	2 3.1	0 0.0	7 10.8	23 35.3	16 35.3	17 35.3	2 3.1
	30歳代	70 100.0	0 0.0	8 11.4	21 30.0	8 11.4	27 38.6	6 8.6	0 0.0	8 11.4	23 32.9	10 14.3	24 34.3	5 7.1
	40歳代	62 100.0	0 0.0	4 6.5	24 38.7	3 4.8	31 50.0	0 0.0	0 0.0	4 6.5	27 43.5	1 1.6	30 35.3	0 0.0
	50歳代	138 100.0	0 0.0	10 7.2	31 22.5	13 9.4	77 55.8	7 5.1	0 0.0	13 9.4	35 25.4	14 10.1	70 50.8	6 4.3
	60歳代	125 100.0	0 0.0	14 11.2	29 23.2	5 4.0	66 52.8	11 8.8	0 0.0	17 13.6	30 24.0	8 6.4	59.0 47.2	11 8.8
	70歳代	143 100.0	1 0.7	23 16.1	23 16.1	6 4.2	53 37.0	37 25.9	0 0.0	18 12.6	24 16.8	6 4.2	52 36.3	43 30.1
	80歳以上	67 100.0	2 3.0	9 13.4	9 13.4	2 3.0	24 35.9	21 31.3	2 3.0	10 14.9	10 35.3	3 4.5	18 26.9	24 35.8
		合計	33-3 中年・熟年の意見						33-4 高齢者の意見					
性別・年齢	男	333 100.0	7 2.1	79 23.7	67 20.1	16 4.8	119 35.8	45 13.5	8 2.4	160 23.7	153 22.7	47 7.0	227 33.7	71 10.5
	女	334 100.0	4 1.2	65 19.5	77 23.1	20 6.0	115 34.3	53 15.9	7 2.1	77 23.1	78 23.4	23 6.9	113 33.7	36 10.8
	10・20歳代	65 100.0	5 7.7	18 27.7	15 23.1	6 9.2	19 29.2	2 3.1	4 6.2	23 35.3	15 23.1	5 7.7	15 23.1	3 4.6
	30歳代	70 100.0	0 0.0	17 24.3	17 24.3	6 8.6	25 35.7	5 7.1	0 0.0	18 25.7	15 21.4	5 7.1	27 38.7	5 7.1
	40歳代	62 100.0	2 3.2	18 29.0	15 24.2	0 0.0	27 43.6	0 0.0	3 4.8	16 25.8	16 25.8	0 0.0	27 43.6	0 0.0
	50歳代	138 100.0	1 0.7	24 17.4	37 26.8	8 5.8	62 45.0	6 4.3	3 2.2	26 18.8	28 20.3	13 9.4	62 45.0	6 4.3
	60歳代	125 100.0	1 0.8	34 27.2	23 18.4	9 7.2	47 37.6	11 8.8	1 0.8	22 17.6	34 27.2	9 7.2	46 36.8	13 10.4
	70歳代	143 100.0	0 0.0	23 16.1	28 19.6	4 2.8	41 28.7	47 32.8	2 1.4	37 25.8	33 23.1	12 8.4	33 23.1	26 18.2
	80歳以上	67 100.0	2 3.0	10 14.9	9 13.4	3 4.5	15 22.4	28 41.8	3 4.5	18 26.8	11 16.4	3 4.5	16 23.9	16 23.9
		合計	33-5 女性の意見											
性別・年齢	男	333 100.0	6 0.9	102 15.1	159 23.6	57 8.5	261 38.7	89 13.2						
	女	334 100.0	3 0.6	61 12.0	70 26.6	24 9.9	132 37.7	43 13.2						
	10・20歳代	65 100.0	1 1.5	14 21.5	19 29.2	8 12.3	21 32.4	2 3.1						
	30歳代	70 100.0	0 0.0	11 15.7	22 31.4	8 11.4	24 34.4	5 7.1						
	40歳代	62 100.0	0 0.0	11 17.7	18 29.0	3 4.8	30 48.5	0 0.0						
	50歳代	138 100.0	0 0.0	13 9.4	39 28.3	14 10.1	67 48.6	5 3.6						
	60歳代	125 100.0	2 1.6	19 15.2	27 21.6	11 8.8	55 44.0	11 8.8						
	70歳代	143 100.0	1 0.7	20 14.0	28 19.6	9 6.3	45 31.4	40 28.0						
	80歳以上	67 100.0	2 3.0	14 20.9	5 7.5	4 6.0	19 28.4	23 34.2						

### 33 町政に対して感じていること（問34）

町政に対して「そう思う」と感じていることは、「役場が利用しやすい（時間・交通）」が 11.3%である他は、「職員の対応が親切である」7.6%、「広報活動が十分に行なわれている」7.3%など 10%未満です。

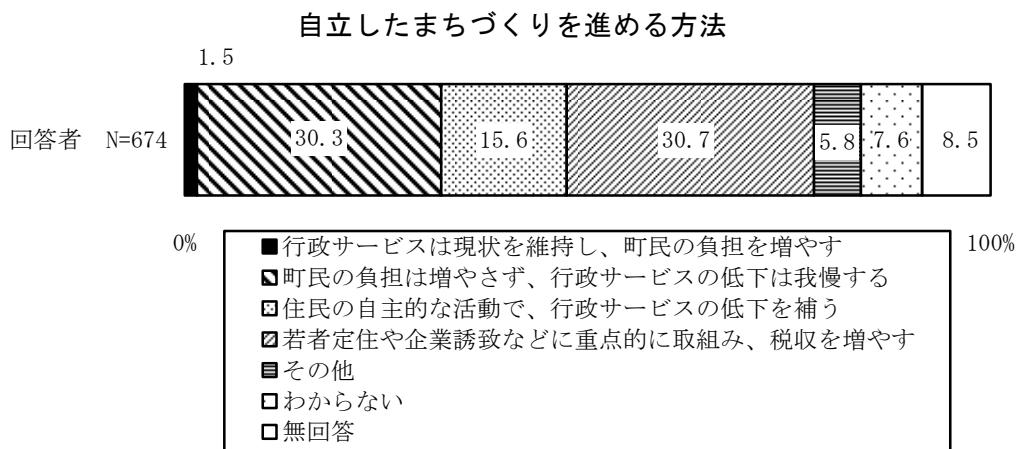
一方、「そう思わない」は、「職員の節税意識が高い」23.1%、「公共施設が有効利用されている」21.1%、「職員の対応が迅速である」18.1%、「効率的に事業が行われ、効果も高い」16.6%をはじめ、「広報活動が十分に行なわれている」を除くすべての項目で 1 割を超えていました。

町政に対して感じていること



### 34 自立したまちづくりを進める方法（問35）

自立したまちづくりを進める方法では、「若者定住や企業誘致などを重点的に取組み、税収を増やす」30.7%、「町民の負担は増やさず、行政サービスの低下は我慢する」30.3%がほぼ並んでいます。あとは、「住民の自主的な活動で、行政サービスの低下を補う」が15.6%です。「行政サービスは現状を維持し、町民の負担を増やす」はわずかに1.5%です。



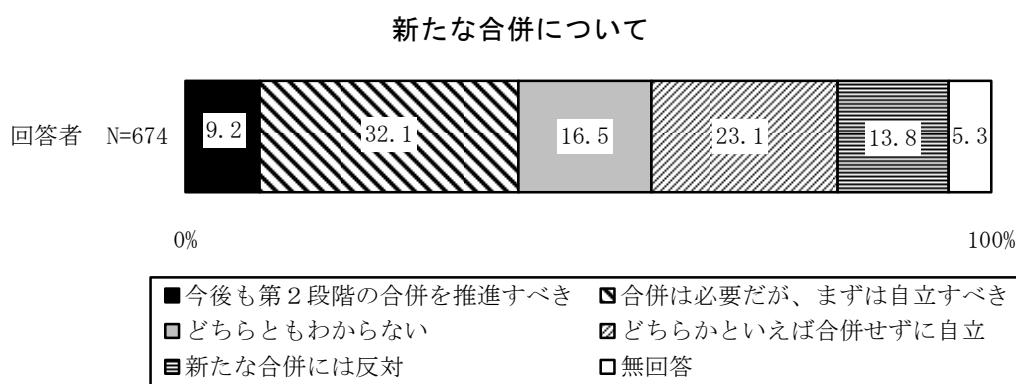
問35 国の財政悪化により、町への地方交付税などがさらに削減されることが予想されます。自立した町づくりを進めていくために、どのような方法がよいとお考えでしょうか。（1つに○）

	回答者 人数(人)	割合(%)
1 行政サービスは現状を維持し、料金値上げや増税など町民の負担を増やす	10	1.5
2 町民の負担は増やさないようにし、ある程度の行政サービスの低下は我慢する	204	30.3
3 ボランティア活動など住民の自主的な活動で、行政サービスの低下を補う	105	15.6
4 若者定住や企業誘致などに重点的に取組み、税収を増やす	208	30.7
5 その他ご意見をお聞かせください	39	5.8
6 わからない	51	7.6
無回答	57	8.5
回答者数	674	100.0

### 35 新たな合併について（問36）

新たな合併については、「合併は必要だが、まずは自立すべき」が 32.1%と最も高い割合です。次いで、「どちらかといえば合併せずに自立」23.1%、「新たな合併には反対」13.8%、「今後も、第2段階の合併を推進すべき」9.2%と、合併推進派は41.3%、合併反対派は36.9%です。

年齢別・職業別にみると、「合併は必要だが、まずは自立すべき」は「男性」で、「どちらかといえば合併せずに自立」は「80歳以上」で、「どちらともわからない」は「40歳代」で高くなっています。

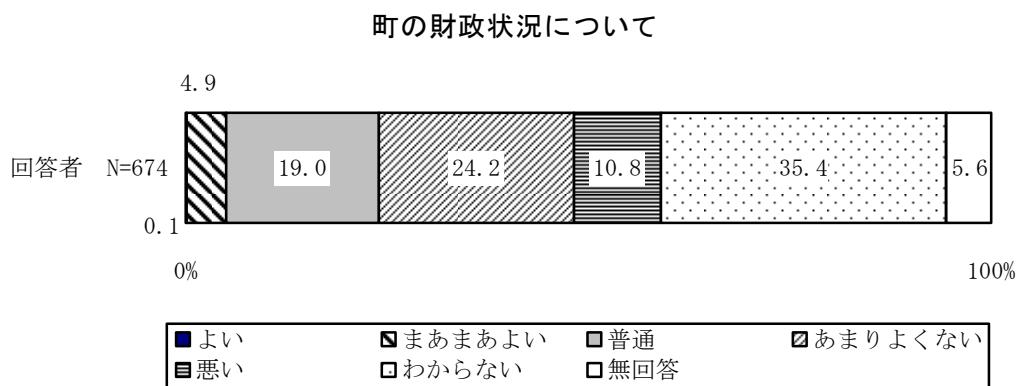


### 年齢別・職業別にみた、新たな合併について

		合計	今後も第2段階の合併を推進すべき	合併は必要だが、まずは自立すべき	どちらともわからない	どちらかといえば合併せずに自立	新たな合併には反対	無回答
全体		674 100.0	62 9.2	216 32.1	111 16.5	156 23.1	93 13.8	36 5.3
性別・年齢	男	333 100.0	35 10.5	140 <b>42.1</b>	41 12.3	68 20.4	34 10.2	15 4.5
	女	334 100.0	27 8.1	74 22.2	70 21.0	85 25.3	58 17.4	20 6.0
	10・20歳代	65 100.0	4 6.2	15 23.1	11 16.9	20 30.7	12 18.5	3 4.6
	30歳代	70 100.0	10 14.3	23 32.9	12 17.1	14 20.0	7 10.0	4 5.7
	40歳代	62 100.0	3 4.8	24 38.7	18 <b>29.0</b>	13 21.0	4 6.5	0 0.0
	50歳代	138 100.0	12 8.7	51 36.9	26 18.8	27 19.6	19 13.8	3 2.2
	60歳代	125 100.0	13 10.4	44 35.2	18 14.4	30 24.0	18 14.4	2 1.6
	70歳代	143 100.0	16 11.2	47 32.8	22 15.4	25 17.5	20 14.0	13 9.1
80歳以上		67 100.0	4 6.0	11 <b>16.4</b>	4 <b>6.0</b>	26 <b>38.8</b>	11 16.4	11 16.4

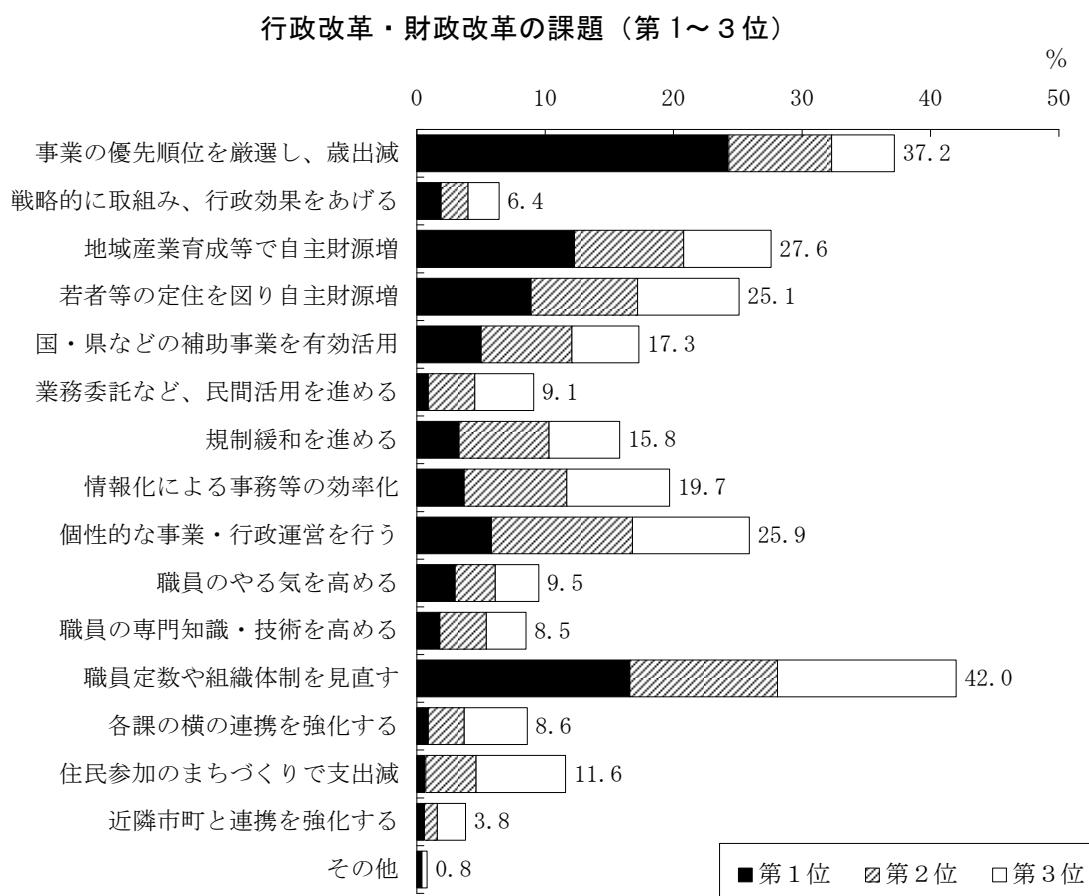
### 36 町の財政状況について（問37）

町の財政状況についての認識については、「よい」と「まあまあよい」はそれぞれ 0.1%、4.9%とともに低く、「あまりよくない」と「悪い」は、それぞれ 24.2%、10.8%と、あわせて 35.0%の人が“よくない”“悪い”と考えています。



### 37 行政改革・財政改革の課題（問38）

行政改革・財政改革の課題について第1位から第3位までを積み上げると、「職員定数や組織体制を見直す」42.0%、「事業の優先順位を厳選し、歳出減」37.2%が高く、あとは「地域産業育成等で、自主財源増」27.6%、「個性的な事業・行政運営を行う」25.9%、「若者等の定住を図り自主財源増」25.1%などが続いています。





### **III　自由回答結果**

### 1 町政についての意見（問39）

最後に町政について、ご自由にご意見やご提案をご記入ください。（記載自由）

分類キーワード		意見数
1	まちづくり	10
2	地区	3
3	産業	3
4	自然	3
5	若者	10
6	子育て・教育	7
7	健康・高齢者	4
8	道路・交通	10
9	公園	4
10	施設	11
11	情報	6
12	その他基盤	2
13	美化・ごみ	6
14	行政	42
15	合併	14
16	職員	18
17	議員	6
18	アンケート	9
19	その他	8
合計		176

※ご意見ご提案はまちづくり委員会の皆さんに選んでいただき、抜粋して掲載しました。

### 1 まちづくり

- ◆まんのう町民のお互いの交流を大切にしてボランティア活動を盛んに行ってほしいと思います。そして引きこもりや心の病などで悩んでいる人達のサポートや利用できる施設を作ってほしいと思います。（女、10・20歳代）
- ◆一部の町民だけでなく、町民全員が関われる様な町政に取り組んで欲しいと思います。（女、50歳代）
- ◆町に魅力があると転入者や町外からの関心も強まる。近隣の町と同じことをしていては、町民も個性を感じなくなる。まんのう町が町民に好かれるとはどういう事か、まんのう町の町民でよかったですなあと喜ばれるにはどうすればよいか。心温まる言葉かけや、励ましの言葉をいつも町民にかける事が大切。一人一人を大切にする職員の言動が継続する事で町民は役場へ来てほっとするようになる。人との信頼関係は笑顔やあいさつでも強くなる。人づくりがまちづくりだと思う。（女、40歳代）
- ◆町の発展のために住民も協力し、町と住民とが力を合わせて町を発展させていくことが大切だと思います。また、弱者（人間だけでなく動物も）に対して優しい町でなければ

ならないと思います。選挙で選ばれた人たちは自分のためにではなく住民のために仕事をして欲しいです。(女、50歳代)

◆町民一人一人の意識が変わらなければ何も変わらないと思う。自分の利益のみにこだわりそれにしがみついていては何もできない。子どもたちはそういう姿を見て育つ。(女、60歳代)

◆別にまんのう町は田舎なのだから、無理に、活性化しなくていいと思う。町に人をよびもどしたいなら、きれいな田舎を作つて公害のない住みよい町にしたら、そういう所が好きな人々が集まつてくると思う。まんのう町にアミューズメントパークとか若者向けの公共施設など作つてもあまり流行らないと思うし、逆に、そんな田舎は嫌なので、私は、出て行きます。ただの、住みよい田舎でいいんではないでしょうか？(女、10・20歳代)

◆利用しないようなしせつは作らない。へんに都会っぽくしない。田舎らしくすべき。成功している田舎をみならう。まねてみる。(男、30歳代)

◆私は他町よりまんのうに来て永住するつもりです。まんのうの気候風土すべて好きです。しかしまんのうにいる方は私達を他者として見ている様に思います。特に選挙を投票場の人達の目は最悪です。又かりん温泉も好きで行つていましたが、地元の人や職員さんがかたまって話をし、地元意識が強い様に思います。私も温泉にさそうのですが「かりん温泉は感じが悪いから行かない」という声をよく聞きます。又ボランティア活動も御手伝いしたく町の方にも問い合わせしたのですが返事はいただけませんでした。せっかくまんのう町民になったのにまんのう町では受け入れ体制がないようです。若者のUターン等と言っていますが、本当に受け入れる体制をまず作らなくては言葉だけの立派さで終わるのではないでしようか。私たちは協力する気持ち十分ありますのでまずそれから始めてください。(女、60歳代)

## 2 地区

◆3町それぞれに地域性がある。地域の特色を活かした行政の取り組みをお願いしたい。そのためには、地域住民の声を集約して行政に反映していただければ幸甚である。それぞれの領域で埋もれている人材を活用してもらいたい。町長との座談会等を実施しているが大変良い方法である。今後も続けてほしい。出来れば昼よりも夜間の方が出席しやすいので考慮をしていただければ幸甚です。(男、70歳代)

◆3町合併により旧町のイベント等ができなくなつて、また横のつながりが薄れてきている。(男、50歳代)

◆合併してから地区の祭りなどの行事の経費を町が出てくれなくなつたと聞いた。財政が苦しかったり、合併前の3町のやり方にそれぞれ違いがあったとは思うが、地区ごとの行事をこれからも続けていくためには少しでも町に負担してもらった方がいいと思う。(男、10・20歳代)

## 3 産業

◆活性化させるには企業誘致したり、まんのう公園や森林公园などにも手軽に老人、子供

らが行ったり来たり出来るように、又高松方面にも、又高松方面からまんのう町に多くの人々が来るよう電車の駅、そこからシャトルバスが出るようにならいかがでしょうか。（男、70歳代）

- ◆・観光やイベント等は一時的なものである。各種産業に従事し、お金を稼ぎ給料をもらう青年・壮年の数が町の実力である。・旧琴南地域について言えば、琴南出身で県内の町外に居住する人の中には旧琴南町に戻りたい人も多くいると思う。みんなが「こんないい住宅があるのか」と驚くような町営賃貸住宅を建てれば、必ず需要はある。・町内の産業振興には限界がある。他地域の輝かしい成功例（上勝町や馬路村等）は強力な指導力とアイデア・努力の賜物であり、真似ることは困難である。一気にトップを目指すのではなく地道な努力の積み重ねが必要と思う。・琴南中については、統合による廃止が噂されているが、満濃中については良くない話も聞く。町にとって琴南中は邪魔なのか。ならば校区制を明確に廃止し競争させてほしい。少人数にレベルの高い教育を行っている琴南中は、社会の評価も高いはずである。琴南中が消え去るべき存在ならば、社会が判断してくれる。長々とすいませんでした。（男、40歳代）

## 4 自然

- ◆インフラ整備も当然必要と考えるが、自然環境保全をもっと重点的に考えておくべきだと思う。生活環境の基盤作り！ お年寄りや障害を持った人ができるだけ家族と一緒に暮らせる環境を作る。おもいやりの気持ち！ ボランティア活動をもっと支援すべきである。本当のやさしさは金で買う事ができない！ 町ももっと一般の人（特に町内に住むそれぞれのプロフェッショナルの方々を含めた）の意見を聞き入れ社会のため地元のためという意識を強くもって業務に臨んでほしい。（男、50歳代）
- ◆まんのう町の良い所は自然の美しさだと思っています。そこで、その自然の美しさを伸ばしつつ、不便な所、例えば情報通信についてなどを充実してほしいと思います。私は高篠地区に住んでいますが、自分の住んでいる近隣地区の事しか情報を知りません。私が情報を仕入れるとすれば広報からというのが主です。そこで広報の充実をはかってほしいと思います。町内又は近隣の町のイベントなどの情報や各公民館の活動、などを載せて欲しいです。それから高令者の為に医療機関や福祉施設の充実をはかって欲しいです。また、財政面についてですが、今の状態は決して良い状態であるとは私は思いません。しかし、国民の負担を増やすというのは私は概に良い方法とは思っていません。アンケートにもありましたが、ボランティア活動などの取り組みでサービスの低下を補うことが重要だと思いました。その為に情報サービス、例えばボランティア情報を公開するなどして欲しいです。勿論、町民の交流ネットワークとして“オフトーク”があります。しかし、私は学生で帰宅時間も遅いのでオフトークからは情報を殆ど得ることができません。そこで公報や役場にボランティア募集のコーナーを設けるなどしてボランティアの充実をはかるべきであると思います。町民が町民を支え合うすばらしいまんのう町になって欲しいです。（女、10・20歳代）
- ◆借金があるのはあたり前！田舎の良さをだしてほしい！！自然と近所を大切にしたいのです。子供と老人に優しい町が親世代の我々に一番嬉しい町です。（男、30歳代）

## 5 若者

- ◆町外、県外に出た若者が古里に帰って来て明るく楽しく暮らせる町（安心できる町）にしてもらいたいと思います。（男、30歳代）
- ◆○若者が生活しやすい環境の育成　・古い伝統・文化を大切にすることはよいことだが、それに若者・子どもをしばりつけることはよくない。　・例として祭りへの参加である。半強制的である。自治会等での自助努力にも限界がある。　○自然と緑　大切にしたいのは雑木林である（どんぐりのとれる林である。虫がくる。鳥がくる）緑化もいいが自然の緑を維持したい。自然をこわし人工の緑化を進めた県営・国営の両公園はある意味で自然生態の破壊者である。県のどんぐり計画はどこへいったのだ。何がサクラだ。人工桜の吉野がなぜ満濃池に似合うのか。自然林の中で美しく生き続ける塩入野口ダム周辺の山桜をこそ見てほしい。　・満濃池にサクラなら並木にせず堤防の西の高台（寺の北）に集団に植え、花見団地がよい。池の周辺に植樹は景観を損ねる。人工桜の寿命は60年である（ヨシノ）。その管理に人がいる金がいる。雑木林こそ満濃池によく似合う。昔はよかつた鳥のさえずりがいつも聞こえていた。都会人的発想の現構想、再考を願う。（男、80歳以上）
- ◆・近隣の市、町等比べて自治会、子供会、婦人会等々の会が多くすぎる為仕事を持つて働いている共働きの家での負担が多くすぎ。時にはうんざりする事が多い。強制的に参加ではなく、個人々の自由参加等にしては。非国民的な意識がありすぎる。　・子どもを育てるのには良い環境だとは思うが、学校までの交通手段等問題も多いのでは（バス、JR等の運賃が月の定期にしても高くつく為家計にひびく）　・学校（大学や専門学校）の誘致等、自然環境を生かした町の活性化を目指して欲しい。（女、40歳代）
- ◆まず、成人式を冬にしてください。なぜ旧満濃町は夏だったんですか？しかも、合併して新しい町になったにも関わらず、なぜ今後も旧満濃町を受け継いで夏に行うんですか。一般的にも冬に行っているのに。しかも振袖を着れないなんてあんまりです。成人式に浴衣とかありません。冬に変えて下さい！！！！！　また、まんのう町は土地が豊富にあります。高松などの街は土地がなくて困っています。そこで、y u m eタウンなどの大型ショッピングモールをまんのう町につくってはどうでしょう。大型ショッピングモールは高松などしかありません。行きたいけど遠くて不便だと思っている人は多いと思います。土地が豊富なのに利用しないのはもったいないと思います。まんのう町の人口が少ないので田舎だからです。都市開発のいい機会だとは思いませんか？（女、10・20歳代）
- ◆自治会活動（婦人会含む）古いしきたり等、改善していくところは改善してほしい。必要でないことも沢山あると思う。決まり事、決まり事ばかりで絶対というところがあり、嫌になることが多い。もっと皆が言いたい事も言い合え、助け合える様になれるといいと思う。人が傷ついている事があるのを知った時、もっと住みよいところに変えていきたいと思った。こんなことでは若い人は住みたくないと思うと思う。付き合いは必要だとは思うが、無駄が多すぎるし自分の生活より自治会行事を選ばなければ冷たくされるようなところはどうかと思う。（女、30歳代）

◆中学生子供に朝会えば気を付けてと、帰りて来て会えばおつかれさん気を付けてお帰り言葉の一言が私の朝のあいさつです。家には子供はありません。今嫁のないのが若者に可愛そうです。私は主人と2人で19組して今はたくさんの孫があちこちかだ来て下さって居ますが、どうかお嫁さんの世話をしてあげる方をお願いします。私の息子は2人とも琴南に住んで居ます。(女、一)

## 6 子育て・教育

◆・小さい子供を持ち、健診に行くたびに感じるのでですが、その日の健診では何をどういう順番で進めていくのか明確にして頂きたいです。職員の方々は毎回のことでの十分わかっていると思いますが、何ヵ月かに1度しか行かない私達親は何をして良いのかわかりません。通知を出して何が行われるか書かれてありますが、当日のもっと詳しい順序説明が必要と毎回感じます。第二子なら何をするかわかつてますよね？！という考え方もやめて頂きたいです。第二子でも、第一子の場合でも同じで、忘れている事はたくさんあると思います。・第二子の時、初めてチャイルドシート購入に対する補助が出ると知りました。親にあまり負担のかからない、そのようなすばらしい制度があるのなら、母子手帳発行の際に、町民に伝えるのが義務ではないのでしょうか？他の面においては、育児・出産に対する制度は他の市町村と比べて非常に良いと思っていましたが、教えない、知っている人だけ利用できるのではあまり感心できません。・都会でもないのにアパート（築何十年以上）の家賃が高すぎる。何故でしょうか？(女、30歳代)

◆①満濃中学校の校舎は何十年前に建設されたものですか？現在の建築基準法による耐震基準は満たしていないと私は認識していますが、やはりそうですか。そうであれば、いきがい中核施設や土器川の親水公園等より先に予算を投入して新築し、大地震に備えた安全な学校にすべきと考えます。県による補助制度の話もありますが、いずれにしても直ちに対応すべき状態にあると思います。準備がまだなら、早急に議会で討論してください。義務教育の場の安全性確保は町の重要な役割です。町の宝である子供達を守ることを町政の最優先施策のひとつとしてください。②光ケーブルによる通信が早期に実現するようNTT等へ働きかけていただきたい。(ADSLでは限界あり)よろしくお願ひします。(男、40歳代)

◆今後も子供を育てやすい、住みやすい町になるように町政を良くしていってもらいたいです。またより一層の無駄をなくしていってほしいです。(男、30歳代)

◆乳児の医療費の支給が他市町よりも長く助かります。出産の祝い金など子供を産み育ててゆくには恵まれている町だと思います。高齢者が多いのでもっと子供と高齢者が交流のもてる場所や機会を作り高齢者の智恵を伝えてあげてほしいです。(女、30歳代)

## 7 健康・高齢者

◆ますます高齢者社会になって、これから医療費が増える中いかに健康な体づくりの方法を町民にしてもらう方法を考えているか意見を聞きたい。町会議員の数を現在の半分にしてほしい。議員年金廃止にしてほしい。(男、50歳代)

◆受講券が必要？　かりん温泉近くに住む高令者ですが、時々開かれている健康講座に参

加したいと思うのですが、「券を役場まで取りに来て下さい。」とは、残念ですがいつも見送っています。券なしで参加させて下さい。まんのう町でなければ出来ない「うどん」「真のさぬきうどん」「日本一のうどん」を「うどん名人」や皆さんとの協力一致で作り、「讃岐うどん」の町づくりをしたいですネ！！(女、70歳代)

◆高齢化が進み当町はその最前にある町でもあります年金受給者にとって、天引きされる介護保険料の負担は大きいものであります。聞くところによると当町は県下でも最高ランクの保険料とか。適正な給付の上での負担はやむなしと考えられるが安易な認定での給付、又以前あった様な不正請求等々、自分の金を払うのであれば皆慎重になるはずであります。収入の増加の見込みの少ない人々から徴収した介護保険料、適正支払、不要な介護認定（デイサービス利用後どんどん仕事している人も見受けます）等、改善に向けて取り組んでいただきたい。職員はプロとしての認識を持ちながら知識向上に努めて頂きたい。税金等の申告の際質問しても返答がない（女、50歳代）

## 8 道路・交通

◆昔からの狭い車も通りにくい道路を整備してほしい。又、危険な道路に信号機をせめて点滅信号でもよいからつけてほしい。無駄な道路を広げるばかりせず、住民の住んでいる所の毎日通る所を広げて整備して下さい。（女、80歳以上）

◆町内バス（循環バス）を走らせ、町内を手軽に行き来できるようにしてはいかがでしょうか。また、この自然豊かな町を維持し、子どもやお年寄りが安心してのびのびとできる町になってくればうれしいです。（女、10・20歳代）

◆町民が高齢化しているので車に乗れなくなる人が多くなり、むりをすると交通の便が悪化して交通事故など多発するおそれがあることに私は一番心配です。ある年令になると車にのらない人に車代金書を町が出し、町のバスを利用する様なことを考えられたらと思います。（女、50歳代）

◆街灯が非常に少ないため、夜は非常に通行しづらい。道路がせまいため通行に不便。ゴミ収集日が少ない等これらの整備をぜひすすめてほしい。住民が住みやすい環境作りが大切です。（男、30歳代）

◆役場へ行くのにも買物に行くのにも路線毎のコミュニティバスを設け利便性を向上してもらいたい。（男、80歳以上）

◆これ以上道路は必要ない。ムダな公共工事はやめてほしい。（女、50歳代）

## 9 公園

◆高屋原に建設しています公園ですが何が出来、どの様にされる計画でいるのか知りたいです。（女、70歳代）

◆国営まんのう公園はまんのう町の住民は無料にしてほしい。それか、何回か無料になるパスをくれるようにしてほしい。日、祝日連休は他県とかの車でじゅうたいになり迷惑なので、それぐらいはしてくれてもいいと思う！！（女、10・20歳代）

## 10 施設

- ◆まんのう町には図書館がないのでかなり不便です。土器川沿いの公園など、なんであそこまでキレイにしてつくってるのはよく分からないけど、ああゆうにあまりお金を使うのは見ていてどうかと思う。あと、満中はもう耐震工事したのですか？もしまだならば1日でもはやくしてあげてほしい。危なくてろうかというかベランダ歩くのがこわかったから。それから高齢者の運転はめっちゃ危なすぎ！遅すぎ！マルヨシの前の交差点の信号機とパチンコの電子広報が重なって見えて目がチカチカする。そのため、信号はまだ赤なのに電子広報が青に変わったため、間違えて行ってしまった車を今まで何台も見た。あんなの自殺行為。あとラブホの夜のライトが気になる。せっかく夜に星みても、あの白いライトがじやまして見えない。っていうか目ざわり。あと、犬のフンのしまつが悪すぎ。とくにまんのう町はかなりヒドいと思われる。他の県から来てた友達がびっくりしていた。（女、10・20歳代）
- ◆公民館内の図書館として小さな図書館は各地区にあるが、充実した大きな図書館があればいいと思う。これは何年も以前から中高生や若者などからよく耳にするのでぜひ実現してほしいと思います。（女、50歳代）
- ◆小さな子どもから高齢者までの誰もが利用しやすく、必要な本が十分にそろい、長時間でも過ごすことのできるような図書館がほしいです。（女、10・20歳代）
- ◆未使用の体育館にスポーツ機材を設置して善通寺体育館のように低価格で利用できる施設にして欲しいです。（女、30歳代）
- ◆子供から高齢者の健康に役立つ温水プールがほしい。器具を使ってのリハビリや運動には限界がある。夏場だけのプールでは効果が薄い。他自治体で行われているのをテレビで見たが住民に提供してもらってなるべく費用を使わないで図書館を作ってほしい。空き建物を利用して。ゲームばかりして育つ子供を減らして少しでも本を読む習慣をつける環境をつくっていくべきだと思う。（女、50歳代）
- ◆空き校舎の活用について。自動車免許の更新（無事故・無違反）の人を2ヶ月に1回程度で実施してはと思う。（男、50歳代）
- ◆箱物行政をやめるべきである。特に事業効果の薄い施設の廃止を行うべき。町財政を最も圧迫している。（男、50歳代）

## 11 情報

- ◆\*まんのう町はオフトークによって情報の伝達を行っているが、オフトークは聞けないことが多かったり、夜、大きな声でしゃべられるのはうるさい。インターネットを活用してその人々の都合のよい時に情報確認できる方がよい。又まんのう町の人は安い料金でインターネットの接続できるようプロバイダーと契約すべきだ。 \*まんのう町は安い土地が多くあるのに、道路整備、交通機関が悪いため、他の地区と比べ過疎が進んでいる。いくら企業を誘致しても若い人を支援しても交通の不便なところに人は来ない。（例、丸亀、坂出線等の道路の2車線化を行い、東京、大阪等他県への高速バスの拠点づくりを行う。こんぴら、レオマ等の資源と安い土地の活用）（男、50歳代）
- ◆◎ボランティア活動などあれば参加したいと思っていますが…、情報をどこから得たら

良いのか分かりません。町広報などに現在行われているボランティア活動のみを集めて頂ければ幸いに思って是非参加したいと思っております。(女、50歳代)

◆朝夕の放送を少しみじかくわかりやすくお願ひします。朝の告別式のお知らせはやめるべきと思います。(男、80歳以上)

◆町内一円に情報をお知らせする無線のオフトークがほしい。全戸別に(男、70歳代)

## 12 その他基盤

◆所どころにトイレを作る。(一、80歳以上)

◆水道料金が高い。私はまんのう町に約3年いるが1ヶ月あたり基本の10立方メートルを使った事がない。まんのう町は世帯あたり、1人か2人という世帯が多いはず。提案します。基本は5立方メートルで後は使った量に応じて徴収する。水の少ない香川県、こうすれば節水にもつながるはずです。(男、30歳代)

## 13 美化・ごみ

◆・河川、道路の清掃、美化…単に清掃のみに終わらず、花木を植える等積極的に美化活動を地域と協力してできないだろうか。・町内を散策する時、地域の文化財が紹介されていると、心あたたまる思いがするものである。地域と協力して、地域の文化財を掘り起こし標示、掲示などで紹介したいものである。(男、70歳代)

◆ゴミの回収の回数が少なすぎる。燃えるゴミ、資源ゴミは週2・週1は欲しい。ゴミの分別もわかりづらい。越して来たばかりで詳しい事はよくわかりません。(男、30歳代)

◆環境問題が大きく取り上げられているなか、まんのう町は意識が低いと思います。ごみの収集日は少ないし、収集場所もわかりません(資源ごみ)。自宅の庭で焼却している方も多く、煙や臭いなどかなり迷惑しています。また、役場の職員の方は一生懸命やっておられるとは思いますが、なかには対応が悪く不快感を覚えるような方もいます。せめて窓口に人が来たときにはすぐ出てきていただければ少しは感じがよいのではないでしょうか?(女、10・20歳代)

◆ゴミ焼却は多いと町の負担増とかで、ドラム缶(焼却炉)を売って居る所がある様だが、煙の通り道のボロ家に住んでる我々は、夜中に、ビニール、プラ等の煙を吸わされている。又、役場職員の家庭でも平気で焼いて居る。これ等は罰則があるのでから厳重に対処して下さい。又役場に所用があって行くと、玄関ロービー、三階踊り場などでタバコの煙り、役場内でのタバコは禁止にすべきだ。館内がタバコクサイ。(女、60歳代)

## 14 行政

◆・まんのう町らしい町政を町長以下職員全員と議員とがやってほしい。・職員も議員もマンネリ化せず、民間並みの危機意識も常にもって頑張ってほしいと思う。・10年後のまんのう町を考えた計画、事業を。(男、60歳代)

◆・財政の支出・収入を詳しく公開・町議会の決定・その日の議題についてオフトークで放送・町議会議員を市民の身近に。(選挙のとき以外に見たことがあまりない) e x、

町内誌でインタビュー 各種イベントへの参加（来賓としてではなく） e t c ・町民の声を反映できるよう、町内の各所に“目安箱”的ようなものを設置 ・本当に町のことを考え、活動力のある人が議員になれるようなサポート体制の充実 ・住基ネットの有効活用（女、10・20歳代）

◆ 1. 町政を選挙対策から脱却 2. 公正・公平な町政 3. 行政のスリム化（民営化推進、例、し尿・ごみ・給食） 4. 行政を役場の目線から町民の目線に変える。（男、30歳代）

◆①まんのう町集中改革プランの実行を早急に行ってください。即実行できる事、町長の報酬の削減から始めて、順次職員へと…。アウトソーシングの推進を、これは多くあるのでは？プランで終わらさないで下さい。お願ひします。町長をはじめ職員、町民に危機意識がなさすぎるよう思います。それは情報があまり公開されていないのが原因ではないでしょうか？ ②各種委員会などのメンバーをみていくと、いつも同じ人がメンバーにいるように思います。もう少し広い視野でメンバーを募ってほしいと思います。 ③町のホームページをみてもあまり町の動きが見えてきません。他の市町のホームページをもっと参考にしてみて下さい。詳細がないので結局問い合わせることになるのでは？事務の効率化につながらないとも考えます。（女、50歳代）

◆これからは自治体の独立性が大変重要になってきます。行政と町民の間に信頼関係があるかどうかが今後の町政には大切なことになると思います。次の要件に留意されて町政の運営に望まれる事を希望します。 ・議員、職員の報酬を減額し無駄をなくして町財政の健全化を図る。 ・情報をできる限り公開し町民との信頼関係をつくる。 ・高齢者の寝たきりを防ぐ意味で、地域周辺の散歩道の整備と高齢者スポーツの指導。 ・地域ぐるみで子どもを育み、高齢者を見守る意識づくり。 ・農業の町。農業で自活できるように行政と農業者と農協が集まってのプロジェクトづくり。（男、50歳代）

◆国政レベルで言うところの社保庁のハコモノ行政で見受けられる様な税金のムダ使いは決して容認されるものではない。ただ一時的ブーム的な思惑で事業が展開されないよう願うものである。また現在ある公共的施設（空き校舎、その他）についても維持管理に経費がかさむようであれば早くその受け皿を探すべきであり、あるいは取り壊しも選択肢の一つとして考えるべきである。現実的に税収のアップが望めない以上、とにかく節税に努めムダ使いは極力避けるべきである。第二の夕張はご免下さい。（男、50歳代）

◆今後の行政について町の借金をつくらないようにしてほしい。子や孫に借金を残さないように町職員と町民が協力してがんばってほしい。（男、60歳代）

◆町の財政はどんどん苦しくなる一方だと思います。職員が危機感をもって（議員も）考え方行動してほしいと思います。町民にも何かしたいが何をしていいかわからない人も多いと思います。ボランティアなど募集していただければ協力できる人もあるかと思います。私も微力ながらまんのう町をよくするために協力する機会があれば参加したいと考えております。（女、40歳代）

◆町はまとまりのある単位のなかでも、比較的小さな単位なので、連携を密にし身軽な行政が行われるようにしたい。住民の声がよく届き、環境対策にしてもレジ袋の持参運動を商店に求めるなど、実験的なことがすぐに行える行政にしたい。そして、まんのう町らしい一歩、二歩と進んだ運動を展開し、良い成果のあったものは、県、国へどんどん

広げていくべきだ。(女、10・20歳代)

◆福島県矢祭町を見習うべし。国民、町民の税金を無駄に使わず、合併特例債が発行できる等安易な考へで将来に維持管理費が残り、自画自賛するのはやめるべし。良い事をするなら職員、議員は寄付やボランティアでせよ。本当に町民の為になることをせよ。箱物は作らなくても心豊かなまちづくりを目指すべし。(男、60歳代)

## 15 合併

◆(合併してよかった)という合併は少ない。というのが一般的な声であるが、10年・20年先にでもよいから(合併してよかった)と本当に言える町にしてほしい。なってほしい。(男、50歳代)

◆・合併して財政は楽になったのでしょうかね？！新規採用の職員があったみたいですが少し矛盾してはいないでしょうか？！・屎尿処理にしてもそうです。わざわざもよりの施設まで支払いにいかなければいけません。町内でも不便なところはあります。高令者だって一人で居る方もいます。今まで通りでいいのでは？！何か矛盾してますネ！！・合併したのに学校に手を入れてみたり！！スクールバスの導入の方が安かつたのでは？！・子供や若者が住んでくれる町内にしないと合併してもこの先ずっと合併ばかり必要になるのでは？！・子供の学費免除、医療費無料ぐらいに太っ腹になるように考えてみてください！！・読んだだけのアンケートにしないようによろしくお願いします！！(男、50歳代)

◆3町合併して2町から不満の声が出ないように平等に意見を出された内容に対応してもらいたい。(女、30歳代)

◆まんのう町になって、満濃町の人間は介護保険料などが増え、合併して何一つ良いことなどありませんでした。ゴミ袋の値段まで上がって、誰が得をしたのかなと思います。高篠地区は丸亀市のおかげで生活は便利ですし、合併によって便利になったことなどないので、正直、奥の方との合併で、奥地の為の負担を平等に私達が支払うことが嫌です。痛みを分かち合うという言葉がありますが、痛みだけを与えられてしまい、不満ばかりがつります。ボランティアという言葉がこのアンケートの中にたくさんありましたが、強制活動をボランティアとは言いません。ボランティア精神を町民に求めるのではなく、議員に求めて下さい。仕事をしたつもりになって偉そうにふんぞり返って、選挙の時だけ頭を下げる、役に立たない議員をなくして始めて改革でしょう。町職員も、リストラされる普通の会社のように、仕事のできない人をやめさせてスリムにして下さい。アンケートでどれだけ意見を書いても全く反映されません。おそらく自分達に都合のよい内容だけを上に挙げているのだから、いくら町民の意見を聞いていると言われても信用できません。元来、琴平町との合併では意味はあったと思いますが、それができなくなった時点で、一時金に目をくらませずに、三木町のように独自で生きていくべきだったと思います。死人がでなければ街灯がつかない町ですから。本当の意味での町民の為の街づくりは、とにかく議員、職員の数を減らし、ムダな箱物を作らず、税金を払う人間の意見をきくことです。夕張市の二の舞は、ごめんこうむります。(女、50歳代)

- ◆合併に伴い職員数及び議員数を見直しをして無駄を省きすべての事項について合理化を推進していく。(男、50歳代)
- ◆私は七箇村に生まれて70有余年、七箇と十郷が合併して仲南村に、そして今回合併して満濃町にと二度合併を経験しました。人口が減少したら合併を繰り返す事で其の場を凌ぎ現在に至って居る状況です。今回の合併の説明会にも出席しましたが住民からの意見が出ても十分に審議されず、正に住民不在の町政だ、との感を深くしました。もっと時間をかけて住民の要望を少しでも実現できたらと思って居りましたが、所詮は県や国の意向には逆らえないのか?と思いたいへん失望しました。合併した以上は前途は厳しいと思いますが、時間をかけて町民の意見を反映させる事は不可能とも思えます。憲法の精神を住民に反映させる事は不可能でしょうか?私感ですが今回の合併に際しては国の合併特例債目当ての合併だとしか思われません。町の一層の努力を要望致します。(男、70歳代)

## 16 職員

- ◆・町の職員が多すぎる。人によって応対があまり良くない。・町会議員の定数をへらしてほしい・広報誌をもつとかんけつにしてほしい。・用紙は小さく、字は一まわり大きくしてほしい。・議員の態度が良くない。・各課でカウンターの所で一人ずついてほしい。どの人に聞いてよいか解らない時がある。(女、60歳代)
- ◆どんなに便利な機械やOA機器が揃っても最終的には優秀且つ真摯な職員、議員が必要である。今回のアンケートのように無作為に選んだ人にチェックしてもらう機会を与えてくれてもよいと思う。(男、60歳代)
- ◆公務員諸君仕事はもっと機敏に行いなさい。そのままではいつまでたっても「お役所仕事」と言われます。ただでさえ民間よりも休日が多く労働時間が少ないので給料だけは安定しているのですから。あなたたちは税金を払っている町民たちのおかげで生活できていることを忘れてはいけません。町民のために何かをしてやっているではなく、させていただいておりますという気持ちで職務にあたりなさい。朝8時から夕5時までなんとなく仕事して毎年給料上がってムリにしんどい目しなくともええわではまさにヘタレです。毎日命がけで仕事してください。命かけて行ってくれれば我々も税金出すのを惜しません。いくらでも払います。町民の下僕までとは言いませんが公務員は私たちをもう少し大事にしてください。期待しております。(男、30歳代)
- ◆職員の応対が悪く感じられる部署もあるので注意されたい。(男、40歳代)
- ◆職員の口利採用はしないように。能力の有る職員の意欲をそぐ。過去に町の職員採用の回覧が回った時に噂で名前が取り沙汰されてた人が採用された。口利で内定していて、つじつま合せに回覧を回した様に取れる。行政が町を真剣に考えているなら口利人事はしないで実力本位で配置して町のために職員一丸になって町の発展に努めてほしい。(男、60歳代)
- ◆職員はなにもしていないことが多いと思う。役場に行ってもなにしにきたんと言う目で見られたことが多かったので役場と言う所にあまり行きたくはないと思った。出て行けるのだったらまんのう町から出ていきたいと思う。あまりにも職員の対応が悪いと思う。

(女、30歳代)

- ◆職員は一般企業に比べ一部の部署ではのんびりし過ぎているように感じられる。職員一人ひとりが専門事項に精通して、もう少し忙しく立ち働くべきである。さもなくば職員数を削減すべきである。(男、60歳代)
- ◆町の実状をよく見定めての予算の使い方、職員の配置等を考える。無駄な経費はおさえよ。(女、40歳代)
- ◆町職員を減らし公務員から会社員の事を思ってほしい。(女、60歳代)
- ◆町職員全員が企業としての意識改革(男、50歳代)
- ◆役場の職員の対応がおそまつすぎる。特に専門知識が不足している。又やる気がないのか笑顔がみられない。民間企業と比較して危機意識がないのか…。(男、40歳代)

## 17 議員

- ◆・町の議員に定年を作る。・吉野高屋原の町の土地を早く有効利用する（中学校など）・町長は選挙の折皆んなに職員は入れない約束したそうですが職員が何名か入ったそうです。人から聞きました。(女、50歳代)
- ◆町会議員の数が多すぎる。本業の片手間に議員職を全うできるとは思えない。議会においても実りのない議論はやめて町民の意見が少しでも反映できていると実感できるようにしてもらいたい。町の向上を本当に考えていると選挙時に広報しても、何もできないまま期間を過ごしているような議員には辞めてもらいたいが、議会の内容があまり知る機会が無い為表立って意見も出来ない。また町の職員にも、もう少し事務的でなくサービス精神をもって町民に対応してもらいたい。質問等があって窓口に行つてもほとんどの人が自分の仕事に集中しているようで、視線が合っても対応してくれない事があり、窓口にいる事が悪いのだろうかと思ってしまった。サービス業の様に振る舞つてもらいたくはないが、安心して相談できる職員が増えてくれるよう職員の教育をしてもらいたい。(女、30歳代)
- ◆町会議員の世代交代が必要だと思う。新しい町作りの為にももっと若い議員さん（若い人と意見）が必要ではないでしょうか？(女、30歳代)
- ◆議員さんの給料はもっとへらして！議会に出た時に1回いくらとしたらどうでしょうか？(女、50歳代)

## 18 アンケート

- ◆アンケートの間が判断しにくかった。(女、50歳代)
- ◆このアンケートの集計結果がぜひ知りたいです。(女、50歳代)
- ◆この間障害者に対するアンケートもありましたが、アンケートに答えられる人よりも答えられない方が深刻なのではないでしょうか。それに結果もしらされていない。このアンケートもそうならないようにしてほしい。(女、50歳代)
- ◆高齢者にはこのアンケートは少し意味の解らないところがありました。これからは若者を対象にして下さい。(女、70歳代)
- ◆今までアンケートを書きましたが有効活用されていないと思いますが。(女、80歳以)

上)

- ◆質問がハッキリわからないものが多いアンケートですね。もっと誰にでもわかるようなものでないと書きづらいというよりかけません。(男、10・20歳代)
- ◆問題はむずかしすぎました。中味がわかりません。(女、70歳代)

## 19 その他

- ◆「町の活性化する方法とは」と考えましたが我が人生の活性化を同時に考えねばと思いました。笑顔で暮らせる人生を…。毎日を気持ちよく過ごすには、そうじ、せんたくと身の回りを美しく、花をかざり、身なりをととのえと、町も同じだと思います。言葉づかいも同じ。町の職員はもとより町民の品格、心の中まで美しく保たねば…。それには一人ひとりの「志しを高く、希望がかなう町」になる様に。まず、働く事が好きな人を多く育てる事。子供の教育 言葉の教育→老人教育。スポーツ好き→若者。おしゃべり、情報の交換→中高年。町にはもっと活字の情報、映像、ITの情報、田舎の良さもありますがかなり情報不足にて損をしていると思います。家にパソコンがなくてもそこへ行けば何でも調べられる図書館のような施設を学校あとに作ってはどうかと思います。会員制で低料金、指導員ありで…。もっともっと学ばなければ次々と決まっていく法律や世の中の出来事について行けません。ケイタイの使い方から、漢字を習うことから、今の状況では忘れていく方が多くなりました。いろいろ書きましたが体が元気でなければ何事も始まりません。頭も働きません。朝、役場の6時のチャイムはメロディーだけなくラジオ体操を流したらどうなるかな？！！(女、50歳代)
- ◆1. 素人として、町政について具体的な内容や現実が充分理解できていないのが残念です。もう少し自主的に人にたずねたり常々よく注意して町民の一人として自覚を新たにしていかねばと思いました。(反省) 2. 当アンケート調査も如何に記入すべきか四苦八苦いたしました。充分な協力ができなかつたのではと反省致します。今後とも有意義な町政を切にお願い致します。(女、80歳以上)

